

令和元年度省エネルギー促進に向けた広報事業

(次世代層向けの省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテストの実施)

第1回 省エネ政策提案型 パブリック・ディベートコンテスト

事業成果報告書

令和2年3月

東北経済産業局

も く じ

■ 大会概要関係

	ページ
第1回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト 大会概要	3
大会スケジュール	4
大会趣意	5
会場配置図	6
試合組み合わせ表	7
大会結果	9

■ 開催記録

会場の様子	11
開場～開会前の様子	12
主催者挨拶	13
大会ルール説明・試合組合せの発表	15
第1試合・第2試合	18
高校生の部 決勝戦	20
エネルギーの専門家との省エネワークショップ	30
決勝戦解説・結果発表	39
表彰式	41
大会講評	43

■ アンケートの集計結果

出場チームのアンケート集計結果	45
一般来場者のアンケート集計結果	50

■ 報道

新聞報道記事	52
--------	----

■ 大会ルール関係	ページ
政策提案型パブリック・ディベート・ルール	54
政策提案型パブリック・ディベート・ガイドライン	56
政策提案型パブリック・ディベート・ワークシート	60
省エネ政策提案型パブリック・ディベートを始めるための参考資料	64
よくあるご質問への回答	75
■ 出場校募集関係	
出場校募集要項・大会趣意	77
参 加 申 込 書	79
省エネ政策提案例(平成30年度九州大会)	81
個人情報及び肖像権に関わる取り扱いについて	82
■ 事前学習資料関係	
事前学習資料について	83
エネルギー関連サイト一覧	84
■ 大会広報関係	
大会広報用チラシ	85
公式 Facebookページ	87
■ 大会当日の配布物関係	
大会プログラム	90
高校生の部 決勝戦投票用紙	94
一般来場者向けアンケート	95
出場チーム生徒 及び 引率者向けアンケート	96

第1回 省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト 大会概要

名 称	第1回 省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト
日 時	令和2年1月12日(日) 10:00～16:30
大会趣意	未来への省エネルギー提案 ～省エネルギーと豊かな生活を両立するライフスタイルの普及を実現する政策～
会 場	東北大学 川内北キャンパス (仙台市青葉区川内41) 〔開会式、高校生の部・決勝、省エネワークショップ、表彰式〕 マルチメディア教育研究棟 2Fマルチメディアホール 〔中学生の部・高校生の部 第1・2試合〕 講義棟C棟 1F・2Fの各教室
主 催	東北経済産業局、東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会
協 力	特定非営利活動法人全国教室ディベート連盟東北支部、 一般財団法人省エネルギーセンター東北支部
後 援	青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県・仙台市 各教育委員会、 河北新報社、朝日新聞仙台総局、毎日新聞仙台支局、読売新聞東北総局、 日本経済新聞社仙台支局、産経新聞社東北総局、 東奥日報社、デーリー東北新聞社、岩手日報社、秋田魁新報社、山形新聞社、 福島民報社、福島民友新聞社、日刊工業新聞社東北・北海道総局、 NHK仙台放送局、TBC東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、KHB東日本放送
出場チーム	〔中学生の部〕 【青森】八戸工業大学第二高等学校附属中学校、 【岩手】学校法人龍澤学館盛岡中央高等学校附属中学校、 【福島】福島大学附属中学校1年生チーム、 福島大学附属中学校2年生チーム、 福島県いわき市立中央台北中学校、 福島県立ふたば未来学園中学校 〔高校生の部〕 【青森】学校法人青森山田学園青森山田中学高等学校、 【岩手】岩手県立盛岡第三高等学校Aチーム、 岩手県立盛岡第三高等学校Bチーム、 【宮城】宮城県仙台第一高等学校、 宮城県宮城野高等学校、 学校法人古川学園古川学園高等学校 【山形】山形県立山形東高等学校、 東海大学山形高等学校 以上 12校14チーム
事務局	省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト東北事務局 (株)サングラフィックス内)

大会スケジュール



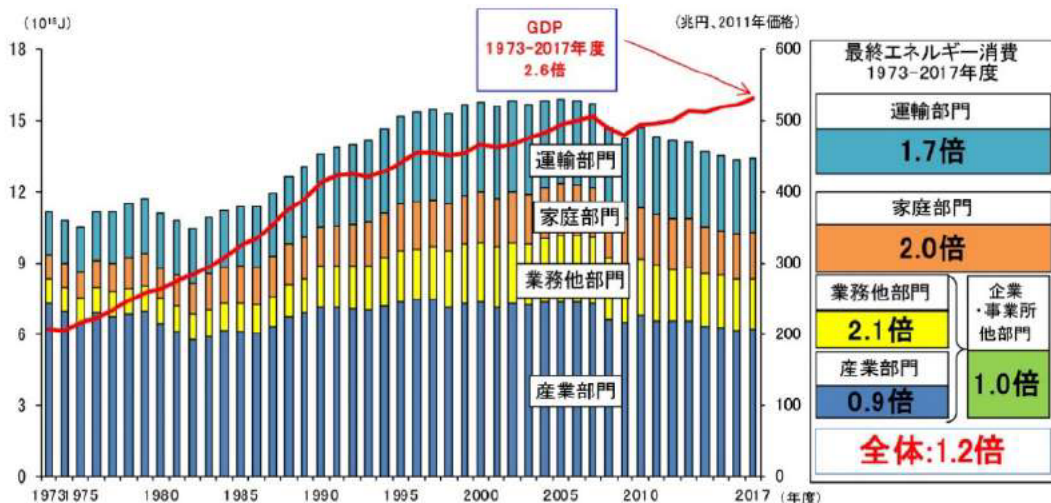
大会スケジュール

時 間	開 催 内 容		会 場
10:00	開 場・受 付		
10:30	開 会 式	◎主催者挨拶 ◎試合組合せの発表・大会ルール説明	❶ マルチメディア研究棟 (2Fマルチメディアホール)
11:00	第1試合	◎中学生の部 ◎高校生の部	❷ 講義C棟(各教室) ※中学生-1F、高校生-2F
12:05	休 憩		❸ 川内厚生会館内・学生食堂 ※持込可
12:45	第2試合	◎中学生の部 ◎高校生の部	❷ 講義C棟(各教室) ※中学生-1F、高校生-2F
14:10	決 勝 戦 (高校の部のみ)	◎高校生の部(決勝) ◎決勝戦投票	❶ マルチメディア研究棟 (2Fマルチメディアホール)
15:15	エネルギーの専門家との 省エネワークショップ	参加した中学生・高校生が一堂に集まり、 本日のディベートについて、省エネルギーの 専門家と一緒に振り返りをを行います。	
16:00	閉 会 式	◎決勝戦解説・結果発表 ◎表彰式 ◎大会講評	
16:25	閉 会	◎閉会後受賞者記念撮影	

未来への省エネルギー提案

～省エネルギーと豊かな生活を両立するライフスタイルの普及を実現する政策～

2011年に東日本大震災が発生し、電気やガス、ガソリンや灯油といったエネルギーが、私たちの生活や産業・社会を支えている事実と重要性をあらためて認識させられました。



図：日本の最終エネルギー消費と国内総生産（実質 GDP）の推移

日本は、1970年代の石油危機以降省エネルギーを推進し、1973年から2017年までにGDPは2.6倍に伸ばしましたが、エネルギー消費は1.2倍の増加に留めています。また、2011年度以降は節電意識の高まりなどで全体のエネルギー消費の減少が更に進みました。

一方、家庭部門においては、快適・利便性を求めるライフスタイルの変化等により、1973年から2017年までにエネルギー消費は2.0倍に増加しており、省エネルギーの推進が喫緊の課題となっています。

2030年度のエネルギー需給構造の見通しを示した「長期エネルギー需給見通し（エネルギーミックス）」では、省エネルギーについて、2013年度実績から2030年度までに徹底した省エネルギー対策により、エネルギー消費を原油換算5,030万kl程度（13%程度）削減することとしています。目標どおりに進んでいません。

さて、2030年、皆さんは24～29歳になり、着々と実社会で活躍し、社会を支える一員として責任の一端を担うこととなります。

政策を求める問い

そこで、今回は、省エネルギーと豊かな生活を両立するライフスタイルの普及を実現する政策はどうあるべきか、と問います。個人や家庭レベルでの自分自身の生活のあり方や地域のあり方などを振り返りつつ、第一に、2030年代における省エネルギーと豊かな生活が両立する「ありたいライフスタイル」を自由に想像・提案し、第二に、その「ライフスタイル」を実現するために、政府が採用すべき「ユニークな政策」を提案してください。

みなさん、生活の質の維持、向上を図りつつ省エネルギーを一層促進するために、私たちが省エネルギーをライフスタイルの一つとして自発的に取り組むことを促す効果的な政策について、ディベートで検討しましょう。

会場配置図

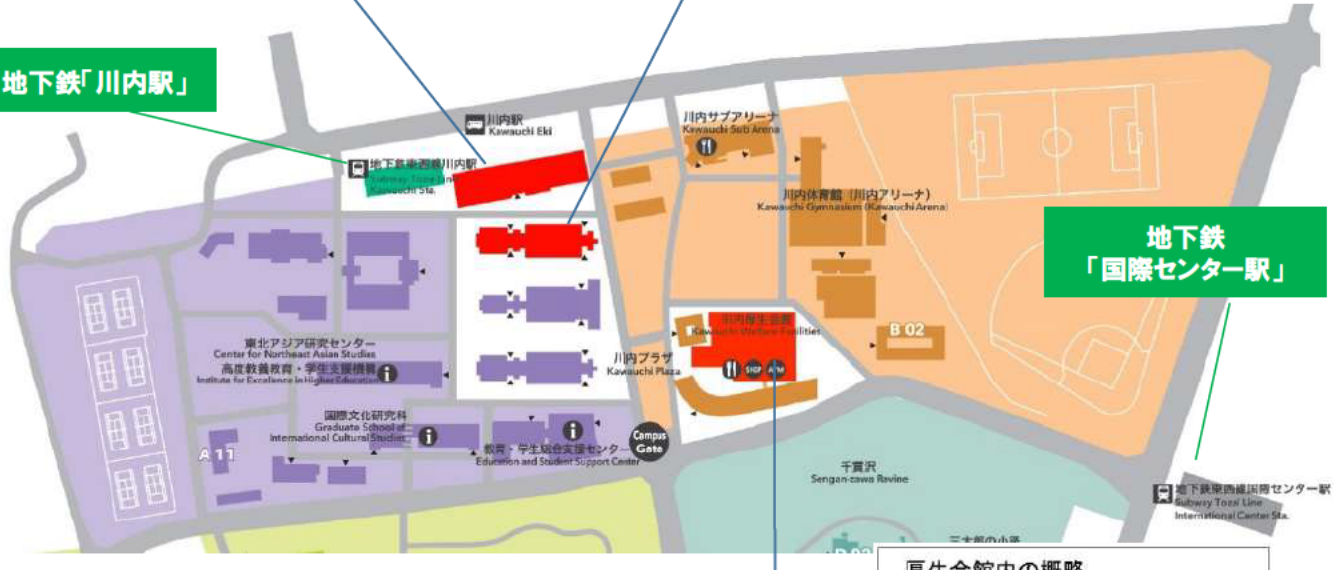
マルチメディア研究棟

◎2F マルチメディアホール
開会、高校決勝、
省エネワークショップ、表彰式
※受付は、10:00～

講義C棟

◎中学試合会場／C101、C105、C106
◎高校試合会場／C201、C202、C205、C206
◎協議会場／C103、C203
◎事務局／C102

地下鉄「川内駅」



川内厚生会館 《昼食時》

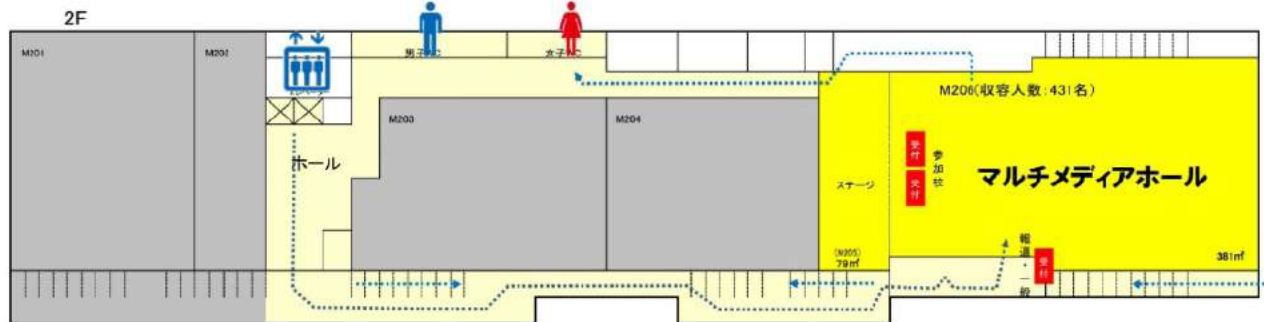
(営業時間／11:00～14:30)

◎学生食堂 ◎談話室
※一般の営業スペースを使用。

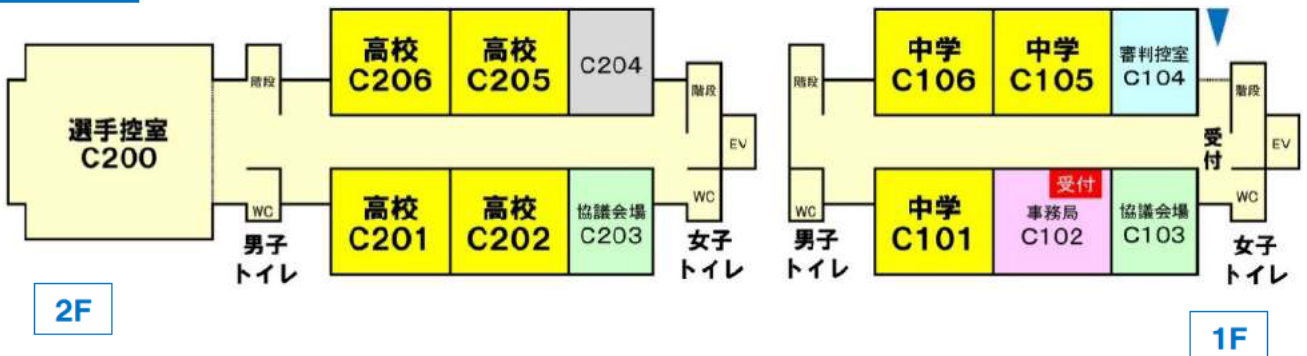
厚生会館内の概略



マルチメディア研究棟 2F



講義C棟



試合組み合わせ表（高校生の部）

高校生の部

優勝

14:10～ 決勝戦

マルチメディアホール

12:45～ 第2試合

C201

C202

11:00～ 第1試合

C201

C202

C205

C206

青森山田

宮城野

盛岡三A

東海大山形

盛岡三B

古川学園

山形東

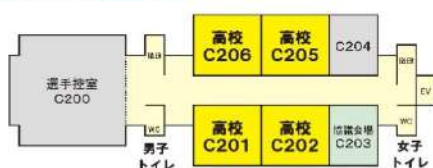
仙合一

12:45～ 第2試合

C205
(交流試合)

C206
(交流試合)

②講義C棟 / 2F



参加チーム

- 青森 学校法人青森山田学園 青森山田中学高等学校
- 岩手 岩手県立盛岡第三高等学校 Aチーム
- 岩手 岩手県立盛岡第三高等学校 Bチーム
- 宮城 宮城県仙台第一高等学校
- 宮城 宮城県宮城野高等学校
- 宮城 学校法人古川学園 古川学園高等学校
- 山形 山形県立山形東高等学校
- 山形 東海大学山形高等学校

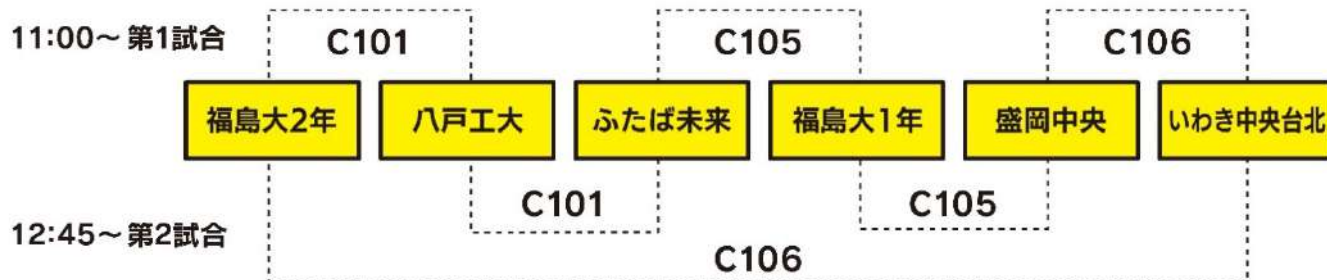
【高校生の部】予選組合せ及び試合会場

予選		第1試合		第2試合	
集合時間		11:00		12:45	
試合時間		11:10～12:05		12:55～13:50	
高校生	C201	青森山田高	宮城野高	盛岡第三高A	宮城野高
	C202	盛岡第三高A	東海大山形高	古川学園高	仙合一高
	C205	盛岡第三高B	古川学園高	青森山田高	東海大山形高
	C206	山形東高	仙合一高	盛岡第三高B	山形東高

■協議会場／C203 ■審査員控室／C104 ■事務局／C102

試合組み合わせ表（中学生の部）

中学生の部



②講義C棟 / 1F



参加チーム

青森 八戸工業大学第二高等学校附属中学校
 福島 福島大学附属中学校 1年生チーム
 福島 福島県いわき市立中央台北中学校

岩手 学校法人龍澤学園 盛岡中央高等学校附属中学校
 福島 福島大学附属中学校 2年生チーム
 福島 福島県立ふたば未来学園中学校

【中学生の部】予選組合せ及び試合会場

予選		第1試合		第2試合	
集合時間		11:00		12:45	
試合時間		11:10～12:05		12:55～13:50	
中学生	C101	福島大附属中2年	八戸工大附属中	八戸工大附属中	ふたば未来学園中
	C105	ふたば未来学園中	福島大附属中1年	福島大附属中1年	盛岡中央附属中
	C106	盛岡中央附属中	いわき中央台北中	いわき中央台北中	福島大附属中2年

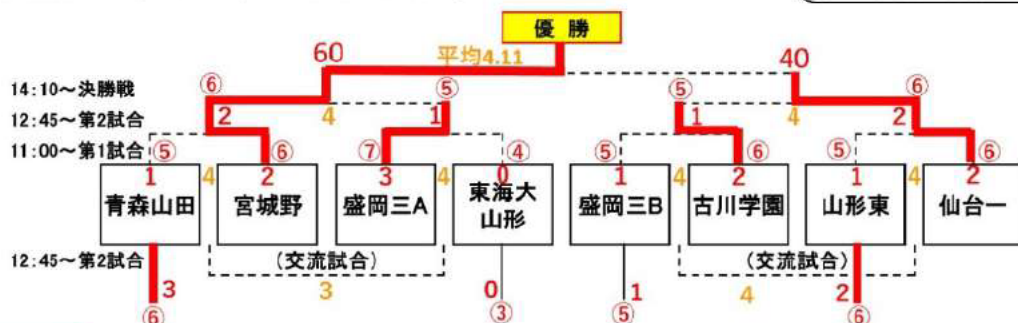
■協議会場／C103 ■審査員控室／C104 ■事務局／C102

大会結果

高校生の部

優勝：宮城野高等学校
準優勝：仙台第一高等学校

試合評価点：オレンジ
チーム評価点：赤
試合+チーム評価点：○赤丸
第1・2試合の合計点：□赤四角



中学生の部

優勝：いわき市立中央台北中学校
準優勝：ふたば未来学園中学校



出場チームの省エネ政策提案の概要

※順不同・校名は略名表示

テーマ：省エネルギーと豊かな生活を両立するライフスタイルの普及を実現する政策はどうあるべきか。

中学校名	政策提案の概要
八戸工大第二高校附属中学校	学校のコンパクトシティ化～省エネ実践校に交付金～
盛岡中央高校附属中学校	完全自動運転車を利用した渋滞のない快適な生活の実現
福島大附属中学校 1年生チーム	エアコン使用電力見える化政策
福島大附属中学校 2年生チーム	Saving Life Share
いわき市立中央台北中学校【優勝】	食品ロスを活用した小規模バイオマス発電 消費者と企業による「心」と「もの」の循環型社会の形成
ふたば未来学園中学校【準優勝】	自動販売機の給水型販売

高等学校名	政策提案の概要
青森山田中学高等学校	食品ロス削減の可視化 森をくらしにとり入れるサイクル化
盛岡第三高等学校 Aチーム	商業慣習の見直しによる食品廃棄量の削減
盛岡第三高等学校 Bチーム	残飯を活用したバイオガス発電
仙台第一高等学校【準優勝】	貨客混載による運送業の効率化
宮城野高等学校【優勝】	家じゅうの電気、見えルンですっ！政策
古川学園高等学校	センサー式ライトの導入支援
山形東高等学校	火力発電のおきかえ
東海大山形高等学校	環境税の導入と自家用車から自転車への転換促進

開催記録

案内看板など



審判員控室の様子



C棟の試合会場の様子



■ 開場・受付開始（マルチメディア教育研究棟2F・マルチメディアホール） 10:00～

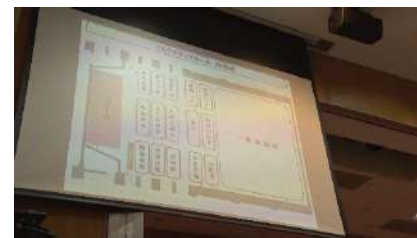
参加校受付



一般来場者受付と報道関係者受付



マルチメディアホールの様子



■ 開会式 10:30～

●主催者挨拶



**経済産業省 東北経済産業局
資源エネルギー環境部長 奥村浩信**

皆さんこんにちは、東北経済産業局資源エネルギー環境部長の奥村と申します。本日は、省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテストにご来場いただきまして、誠にありがとうございます。今回の記念すべき第1回大会は、東北各県から中学生の部6チーム、高校生の部8チーム、総勢84名の選手皆さんに参加していただきました。この日のために皆さん冬休み返上で省エネ政策の提案を考えてきていただきました。本当にありがとうございます。また、各チームの引率の先生方におかれましては、授業や学校行事等でお忙しい中、生徒の皆さんの新たなチャレンジを応援していただいたことを心より感謝申し上げます。

さて、今日のコンテストの目的は、次世代を担う中学生、高校生の皆さん、そして聴衆の皆さんにも、省エネルギーにより関心を持っていただくことはもちろんですが、日本のエネルギー問題、地球温暖化の問題について、改めて心に留めていただく契機になることを願って、開催するものです。

エネルギーは文明社会の血液と言われるほど、経済・産業活動・私たちの生活に欠くことのできないものです。そのエネルギーの安全保障こそが今の日本の最重要課題となっています。なぜなら、石油、天然ガス、石炭といった1次エネルギーの90%以上が輸入に頼っており、しかも、内戦や政情不安が続く中東に大きく依存しているからです。我々は普段の生活の中で、電気やガスがいつでもつくものと思いがちですが、本当はエネルギーを安定的に供給することは綱渡り状態で行われていることを、改めて皆さんに気に留めていただければと思います。

また、昨年は台風により全国各地で大きな被害が発生しました。最近、台風が大型化していると言われています。地球温暖化により海から蒸発する水蒸気が増えることにより、台風の壁雲が発達して大型化するというメカニズムがわかってきました。そして、地球温暖化の原因である二酸化炭素は、日本では火力発電所からの排出量が40%を占めていることに、今一度気に留めていただければと思います。

さて、皆さんはエネルギー基本計画というものをご存じでしょうか。これは日本政府が作成したエネルギー政策の基本方針ですが、ここには、2030年に向けた電源構成比率について、再生可能エネルギー

ギーを今の 15%から 22~24%に増やすこと、化石燃料を今の 83%から 56%に減らすこと、さらには 2020 年に向けて再生可能エネルギーを主力電源とし、温室効果ガスを 80%削減することを掲げています。つまり日本のエネルギーを国産化して、かつ二酸化炭素を排出しないエネルギーに転換していくことを明記しています。

また、電源構成比率だけではなく、そもそもエネルギーを無駄なく上手に使うことを前提として、2030 年までに原油換算で 5,030 万キロリットルの省エネを実現することとしています。この数字は日本の全家庭の 1 年間のエネルギー消費量と同程度になります。2030 年といえば皆さんは 20 代、社会で責任を持ち、またそれを支える立場になっています。情報化社会が進展し、電力需要は格段に増えているはずです。そのとき、皆さんは、どのような生活を望むでしょうか。

本日のテーマは「未来への省エネ提案」ということで、2030 年代における省エネと豊かな生活を両立する、皆さんがこうなりたいと思うライフスタイルはどのようなものか、それを社会全体に普及するにはどうすればいいのか、本日は皆さんでアイデアを持ち寄って、磨き合っていただくことを期待します。そして、これからも、エネルギー・環境問題に関心を寄せ続けていただくこと、何より、今日のコンテストに参加して良かった、いい思い出になったと、思っただけなのが、主催者一同の願いです。



最後になりましたが、本大会を開催するにあたり、多大なるご協力をいただきました全国教室ディベート連盟東北支部、省エネルギーセンター東北支部、ご後援をいただきました東北各県と仙台市の教育委員会、報道各社の皆様方に感謝を申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

●大会ルール説明・試合組合せの発表



大会実行委員長
山形大学大学院 教育実践研究科
教授 江間史明

おはようございます。正月明けて、まだ間もない頃ですが、お集まりいただきどうも有り難うございます。それでは実行委員会を代表して本日の大会について、2点申し上げたいと思います。

一つ目は第一回ということもでございますので、政策提案型パブリックディベートについて、少し確認をしておきたいと思います。

それから二つ目に、試合の組み合わせと進行上の諸注意について話をさせていただきます。

政策提案型パブリックディベートというのは、ルールの方でご覧いただいている通りです。一般市民にも聞き取りやすく、理解が容易なスピーチを展開して社会の問題を解決するための政策について討論するゲームということです。各チームは政策を求める問いに応じて、政府が採用すべき具体的な政策を提案し、互いに政策の質を高め合うように議論するということです。それぞれの出した政策を互いに意見交換を通して、その質を高め合うという、そういうやりとりを期待したいと思います。

本大会の政策を求める問いは、今、奥村部長さんからもご説明がありましたが、「2030年代、省エネルギーと豊かな生活を両立するライフスタイルの普及を実現する政策はどうあるべきか」ということです。そのディベートを進める上で是非注意していただきたい、留意して頂きたいということがあります。それは、相手の意見をよく聞いてかみ合わせるということをしていただきたいということです。ディベートは、自分の意見を相手に押し付けるような、そういうやりとりではありません。まずなによりも相手の意見をよく聞いて、その聞いた内容にかみ合わせてスピーチをしていくということが大切になります。そのために、是非取り組んでほしいことが二つあります。

一つ目は、是非相手チームの政策が行われた社会の姿ということに思いを巡らして想像してみてください。今日、実際に試合で初めて相手チームの政策を聞くことになります。戸惑うこともあるかもしれませんが、ぜひ自分が、その生活・ライフスタイルをしたらどうなるのかということを考えてみてください。そうすると、いろいろ聞いてみたいこと、質問してみたいことが出てくると思います。その上で、聞いた内容について、相手チームの言っているその政策が本当にそうなるのか、その効果が生まれるのか、それはどうしてそういえるのか、どこからそういえるのか、その根

政策提案型パブリック・ディベートとは？

- 政策提案型パブリック・ディベートとは、一般市民にも聞き取りやすく、理解が容易なスピーチを展開し、社会の問題を解決するための政策について討論するゲームである。(ルール1目的)
- ここでは、各チームは政策を求める問いに応じて、政府が採用すべき具体的な政策を提案し、互いに政策の質を高め合うように議論する。(ルール3の(1))
- 本大会の「政策を求める問い」：省エネルギーと豊かな生活を両立するライフスタイルの普及を実現する政策はどうあるべきか

相手の議論をよく聞き、かみあわせること

- (1) 相手チームの政策が行われた社会の姿に思いをめぐらせ、想像してみること。
「自分がその生活(ライフスタイル)をしたらどうなる？」
「本当にそうなの？」
「どこからそう言えるの？」
- (2) 相手の議論を丁寧に引用すること。引用後に意見を言う。
「現状分析で、〇〇とおっしゃいました」
「政策の効果について、△△とおっしゃいました」

拠を是非聞いてみていただきたいと思います。そういったことで、是非かみ合わせた議論に取り組んでみて下さい。

二つ目は、聴衆あるいは審判の方に聞き取りやすく、わかりやすくするために、議論を丁寧に引用することに取り組んでみて下さい。現状分析で「何々とおっしゃいました」とか、あるいは「政策の効果について、何とかとおっしゃいました」とか、基本的に相手の議論がどんな風になっているのかということ引用した上で、引用後に自分の意見を言うことに取り組んでみていただければと思います。そうすることによって、審判にとっても、聴衆にとっても、ぐっと聞き取りやすく、何を議論しているのかが、わかりやすい議論になるだろうと思います。それが一番集約的に表れるのが、「政策についての質疑と意見交換のステージ」になります。その場面では三つのことにとりくんでみてください。一つ目は、疑問に思ったことを質問する。二つ目は、その道筋や政策効果について、本当にそうなのか、なんでやねん、どうしてそうなるんだ、と是非検証してみてください。その上で、三つ目に、相手がその政策を提案した理由をよくくみ取った上で、もし改善の余地があるとすると「こういうところにその改善の余地があるのではないか」ということを改善意見として述べることです。その政策の質を磨いていただければという風に思います。

繰り返しになりますが、ディベートは自分の意見を相手に押し付けるものではありません。互いに自分の意見をぶつけ合うことだけでは水掛け論にしかありません。そのような議論を、声高にやっても何も新しいものは生まれてきません。ですので、ディベートは相手の意見をよく聞き取り、互いにそれをかみ合わせた上でスピーチをしていくということに、是非チャレンジしてみてくださいと思います。

以上が、政策型提案のパブリックディベートということについてです。

では続いて、対戦表についてご説明します。

今大会は、第一回ということもございますので、大会事務局の方で中学校・高校のチームの試合組み合わせを決めました。

この後、11時に試合の教室に集合していただいて、11時10分から始まるという試合についてです。高校の側ではC-202、C-201、というのは隣のC棟の所の2階になりますけれども、《C-201で、青森山田高校と宮城野高校》、それから同じく2階の《C-202で、盛岡第三高校のAチームと東海大学山形高校》、それから《C-205で、盛岡第三高等学校のBチームと古川学園高等学校》、それから《C-206で、山形東高校と仙台第一高等学校》という形で第一試合をお願いします。

第二試合は、お昼をはさんでということになりますけど、その第一試合の勝者で準決勝を行います。敗者で交流試合という形で試合を行います。その後、決勝戦をこのマルチメディアホールで行うということになります。

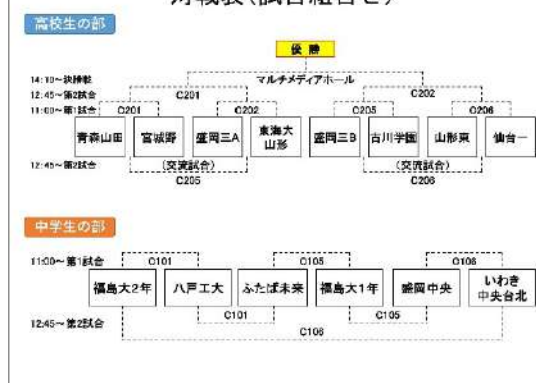
中学生の部ですが、6チームから出場をいただきました。福島県から4チームが出場していただきましたので、基本的には同一県対決は避けたい所ですが、4チームありますので、ひとつの試合は他県との試合になりますけれども、もう一試合は同一の県内での試合ということになります。

政策についての質疑と意見交換

・かみあった議論のやりとりが、最も現れるステージ。

- (1) 相手の政策が実現した暮らしを想像し、政策で疑問に思ったことを質問する。
- (2) 相手の政策が実現する道筋や政策効果について、「本当にそうなの?」「なんでやねん?」と検証すること。
- (3) こうしたら相手の政策がもっと良くなるのではないかと、改善意見を述べること。

対戦表(試合組合せ)



《C-101 で、福島大学附属中の 2 年生チームと八戸工業大学第二高等学校附属中学校のチーム》、《C-105 で、ふたば未来学園中学校と福島大学附属中の 1 年生のチーム》それから《C-106 で、盛岡中央高等学校附属中学校と、いわき市立中央台北中学校》ということをお願いできればと思います。お手元のプログラム、もしくは審判・大会関係者の方は運営マニュアルの方に転記してご活用いただければと思います。

それでは最後に大会運営上の諸注意を 5 点申し上げます。

1 点目です。大会スケジュールについて改めてご確認ください。第一試合の会場集合が 11 時 00 分になります。第二試合の会場集合が 12 時 45 分ということになっています。この時間には必ず試合を行う教室に、選手の方は集合するようにして下さい。両チームが試合会場に集合したら審判団の指示によりジャンケンをして、その試合の先攻と後攻を決めていただきます。その後、先攻・後攻が決まりましたら、出場及び登録メンバー届を審判団の方に各チームから提出するようにお願いします。その届の用紙は、それぞれ受付で各校の方に渡している袋の中に入っていると思います。

2 点目です。大会の会場についてです。先ほど申し上げましたように第一試合と第二試合の会場は C 棟になります。その二階の C-200 という部屋が選手控室になっています。ですので大きな荷物はその C-200 の部屋に置いていただいて構いません。そこから必要なものを持って、各試合場の方に選手の方は向かうようにして下さい。C-200 の部屋について施錠は致しませんので、貴重品の管理については、各自で気をつけていただくようお願いいたします。

3 点目です。ゴミについてですが、C-200 の選手控室のごみ箱は使っていただいて構いません。その 200 の部屋の後ろにゴミ袋を用意してあります。ただ、それ以外の校舎に備え付けのゴミ箱は使用することができませんので、ゴミ等のお持ち帰りについてはご協力をお願いしたいと思います。C 棟の中ではペットボトル等から飲み物を飲むことは構いませんけれども、食事等は出来ませんので、お昼休みの食事等は厚生会館をご利用いただくようお願いいたします。

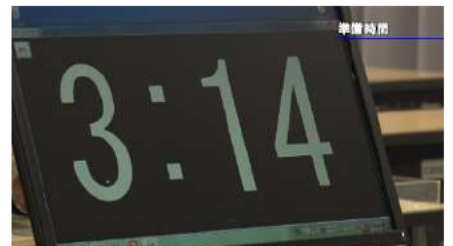
4 点目です。試合の録画、録音等は大会本部の許可と、試合をする両チームの承認がある場合にのみ認めています。それ以外の方はご遠慮くださいますようお願いいたします。録画録音を希望する場合は C 棟の 1 階の C-102 という部屋が大会本部の部屋になっておりますので、そちらの方にご相談下さい。

最後 5 点目です。大会本部は C 棟一階の C-102 という部屋になっております。なにか大会の運営上ご質問等がございましたら、この C-102 の部屋の方にご相談下さいますよう、よろしくお願いいたします。以上です。

それでは第一回大会ということもあり、色々ご不便をおかけすることもあるかと思いますけれども、今日一日よろしくお願い申し上げます。実行委員会からは以上になります。



■ 第1試合（C棟・1F 及び 2F 各教室） 11:10~12:05



〔終了後休憩 12:05~12:45〕

■ 第2試合（C棟・1F 及び 2F 各教室） 12:55～13:50



判定協議の様子



講評・判定の様子



〔終了後 マルチメディアホールに移動〕

■ 高校生の部 決勝戦（マルチメディアホール） 14:10～



《先攻チーム》 宮城県宮城野高等学校
《後攻チーム》 宮城県仙台第一高等学校

ステージ①／先攻チームによる政策提案 《先攻／宮城野高等学校》（5分間）

宮城野高等学校さん

先攻チームとして政策提案をします。よろしくお願いします。

第一、現代の社会問題の現状分析をしていきます。現在、地球温暖化が急進しており、主な原因であるのはCO₂の排出量の増加が挙げられます。そのため温暖化を抑制するためにはCO₂の排出量に関わる電気使用量を削減することが考えられます。また、経済産業省のデータによると、世帯内の待機時電力、つまりコンセントをさしているだけでも使用されてしまう電力や電子機器の待機状態に使用される電力が世帯内の全電力使用量の約6%、年間平均285kWhを占めているという現状があります。

第二、私たちの政策の理念を紹介します。私たちの政策の理念は生活の質を落とすことなく、それを前提として、今ある無駄を見直してその無駄を最小限に抑えるというのが理念です。また、個人が自発的に行うことができるよう、また、幅広い世代に普及できるようにするというのが重要とします。

第三に、具体的な政策の主張をしていきます。私たちの政策を名付けるならば、「家じゅうの電気見えルンですっ！政策」です。まずこの政策は、主に一般家庭を対象とします。

政策1、政策施行後は新しく作られる住宅には必ず各部屋毎の電気使用量、過去のデータ、総使用量から算出される料金をリアルタイムで表示できるパネルをひとつ設置します。使用電気料とは毎月の電気料金カウント初日から観測時現在までの総使用量のことです。また、過去のデータ、具体的には前年同時期のものと比較表を表示します。例えば前年よりも何パーセント減少という様に表示されます。つまり、現時点でのみ見える化をさらに普及、徹底する感じです。もともと、建っていた世帯には新たに取り付けていきます。見える化を普及させる理由としては、見える化をすることによって現状をに気づきやすく、また結果がわかるようにしようと考えたからです。すいません、政策1で付け加えです。この取り付けや開発にかかる費用に税金を新たに導入して得る事にします。

政策2、政策1に加えてパネル内に待機時電力コントロールスイッチを設けます。並びに、家庭内の



各部屋にひとつだけ特別なコンセント、「コンセントX」というものを設置します。これはどういうことかという、パネルでひとつひとつの部屋のブレーカーを落とすみたいな感覚です。でもブレーカーを全て落としてしまうと、例えば、金魚のエアポンプや冷蔵庫など止めるとまずいものも止まってしまいます。止めるとまずいものを止めないために、コンセントXに電流を流すようにします。



政策3、それに対応するスマートアプリを作成し、外出時にもスイッチの管理が出来る様にします。このスイッチを設定する理由は、待機時電力が世帯内の全電力使用量の6%を占めているという現状があり、これを減らすことで、家庭電気の使用量を減らすことにもつながると思います。つまりは外出中でもこのアプリを開くことによって、つけっぱなしにしていた電気を止めるということができます。また、今スマートフォンが普及しているので、そういうアプリを使うことによって、誰でも手軽に出来るのではないかと考えた次第です。

政策4、この政策は2024年から施行するものとします。ただし、2024年から現存する一般世帯に取り付けを開始することとします。この時期は2030年までに2013年を基準に23%のCO₂を、具体的には3,238.4万トンのCO₂を削減するという目標があるからです。これに十分に貢献できるように設定しました。待機時電力が6%あると言いましたが、その全てを、ブレーカーのスイッチを切ることによって削減できる訳ではないので、仮に半分の3%を削減できると計算しても、約28,557トンのCO₂を削減できると考えられます。これは大きな貢献だと思います。しかし、取り付けの時間や、空きや、また設計や施行時期を考慮し、2024年からとしました。

効果1、見える化による省エネの促進、データを引用します。クールネット東京のデータより見える化設備を例に導入して見事に10%の…**<タイマーの音＝制限時間終了>** ありがとうございました。

ステージ②／先攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換（5分間）

仙台第一高等学校さん

質疑応答の方をさせていただきます、
よろしくお願いします

宮城野高等学校さん

お願いします。

仙台第一高等学校さん

まず、政策2のコンセントXの話について質問をさせていただきます。

これは各部屋にコンセントXを設置するという形だと思うのですが、結構費用かかるかと思うんですけど、どうでしょうか？

宮城野高等学校さん

その費用に関しては政策1の最後の方で付け加えて述べたように、全国民の方から税金を徴収することによってそれをまかないたいと考えています。なので大丈夫かなと思っています。

仙台第一高等学校さん

つまり税金を使って設置することを正当化できるくらい効果があるということで大丈夫でしょうか？



宮城野高等学校さん

はい、今の現状だと世帯内の待機時電力っていうのは6%っていうのを占めていて、全部は削減できないとしても少なくとも、6%っていう値はとても大きいもので、これを削減することが必ず地球温暖化の抑制、つまりCO₂の抑制に関係してくると思っています。

仙台第一高等学校さん

ありがとうございます。

続いて質問させていただきます。

まずひとつ目に、電力使用量を比較するということでしたが、年間で比較している場合、数カ月単位ですぐ引っ越してしまう人とかの計算はどうなるのでしょうか。

宮城野高等学校さん

それはちょっと考えてなかったです。

仙台第一高等学校さん

次、お願いします。次にこのコンセントXというものをを用いるということでしたが、一つ以上の電力供給が必ず必要な場合はこのコンセントXは増やすことが可能ですか？

宮城野高等学校さん

今は考えてなく、とりあえず一部屋に一個ずつっていう感じで、家の中に何個か設定するという感じで考えていました。

仙台第一高等学校さん

この場合、外部からの切断とかで、ミスがあったり、コンセントX以外に繋いでいたものが切れてしまうこともあると思うのですが、この場合、電力供給が切れてしまうと、生命の危険に関わる障がい者だったり、そういった機械の接続の対応というのはどのように考えていましたか？

宮城野高等学校さん

今のところ、例えば、自分たちが考えた上では例えばこの政策でも出したように、金魚のエアポンプだったり、あとは冷蔵庫、テレビとかだったり、日常生活においてやっぱり消してはいけないっていうものを留めるために、コンセントXっていうのを一つだけ設置したのですが、大量の電気を使うっていう風な想定はあまりしていなかったんでそこは参考にしたいと思います。ありがとうございます。

仙台第一高等学校さん

最後に、電力使用量を可視化するという制度で、大きくその効果を期待していると思うのですが、それはおそらく現在でも各社が取り組んでいることだと思いますし、それより意識改革というものが重点的に話されていると思うんですが、この意識改革が、今、現状で行われているものに加えてどれほどの効果があるのかっていうのも少し疑問なんですけれどもそれはいかがでしょうか？

宮城野高等学校さん

はい、例えば今、普及されているものだとスマートメーターという家の中の全電気使用量が表示されるっていうものがあると思うのですが、自分たちの政策ではそれに加えて、各部屋毎の電気っていうのが全て表示されるようになるということで、国民が自分たちの各部屋の細かな、より細かなところの電力の流れが見えるということでより促進につながるのではないかと考えています。

仙台第一高等学校さん

すいません、ひとつ付け足しがあるのですが、政策1の「使った電力みえる化政策」の方でパネルが何かで見える様にするとおっしゃっていたと思うのですが、それで正しいでしょうか？

宮城野高等学校さん

はい、正しいです。パネルです。

仙台第一高等学校さん

それ、わざわざパネル使わなくても、例えばスマホのアプリとか作ってとかした方が、例えばパネルをつける費用を下げるとか、できるかと思うのですがどうでしょうか？

宮城野高等学校さん

スマートフォンも結構普及してきているんですけど、例えば高齢者とかであまり、外に出る機会がないとかってなると、やっぱりスマホというよりは家の中に一個つけておいた方が誰でも出来るかなと思って、この誰でも出来るってことが手軽さに結びついてより促進できるんじゃないかっていう風に考えていました。

仙台第一高等学校さん

ありがとうございます。例えばスマホ持っていない人だけにした方が費用を下げられるのかなと思ったのでどうでしょうか？

宮城野高等学校さん

スマホを持っていない人にとすると？

仙台第一高等学校さん

例えばそのパネルを設置するとしても、高齢者とか使いづらい方だけパネルに設置するとかって方がよりいいかと思ったのですけれどもどうでしょうか？

宮城野高等学校さん

自分達のコンセプトだと全体の全国民に対して普及させていくということを理念としているので、全国民ってなるとやっぱり家に一個一個につけてった方が全体的にも意欲と、後は削減される CO₂の量というのは増えていくと思っています。

仙台第一高等学校さん

ありがとうございます。



最後に全国民ということになっていたと思うんですけど、普及には非常に時間がかかると思うんですね。その助成金だったり、全国民、全員普及するのにかかるそれまでの時間とかそういったものはどのように考えていますか？ <タイマーの音＝制限時間終了>

宮城野高等学校さん

ありがとうございます。

ステージ③／後攻チームによる政策提案 《後攻／仙台第一高等学校》（5分間）

仙台第一高等学校さん

後攻チームとして政策提案を行います。よろしくお願いします。始めに政策を求める問いを受けて取り上げる社会的問題の現状分析を行います。次にその問題を解決するための政策を支える理念や価値観を述べます。それから政策とその理由について述べ、実行することで生まれる効果について話していきたいと思います。

まず、問題の現状分析として、私たちは貨物の輸送におけるエネルギーのロスとそれに伴って排出されるCO₂などの排気ガスが環境

問題を引き起こす要因のひとつになっていることを問題として捉え、考えました。私達はこの問題の解決に対する立場として、運送業に付随するエネルギーのロスや無駄な部分をなくすことを基本的な立場とします。今回提案する政策は「貨客混載による運送業の効率化」です。繰り返します、「貨客混載による運送業の効率化」です。貨客混載とは貨物と人員の輸送を同じ車で行うことです。しかし、貨客混載の概念は現在あまり広まっています。道路運送法によって、乗り合いバス事業以外の事業で貨物を運送するためには別途許可が必要となったり、狭い範囲でしか貨物の輸送が出来ないため、現在あまり普及していないのが現状です。

では、この政策について、その内容と理由を具体的に説明します。この政策は大きくふたつの主張で構成されています。

まず、長距離輸送についてです。長距離輸送においては、高速バスなどの長距離バスの余った区画を運送スペースとして利用できるよう、バスを改良することを提案します。

次に短距離輸送についてです。短距離輸送では、タクシー、小型輸送の二つの役割を併せ持つオートリキシャを活用し、乗客の目的地と荷物の運送先が、付近にある場合において貨客混載を行うことを提案します。ここで使われるオートリキシャですが、具体的には東南アジアから東欧まで広く使われている三輪タクシーと呼ばれるものです。これはリチウムイオン電池などを動力源として稼働します。

そして私たちは、これらの提案を支援する政策として各社の改革に伴う初期費用の支援と運送の依頼が手軽に行えるアプリの開発、加えて貨客混載事業をよりスムーズに行うために、この事業による貨物の運送許可が、運送のために必要でなくなるよう道路運送法を改正することを提案します。この政策で開発されるアプリはオートリキシャの活用を支援するもので配車を希望する乗客と配送される荷物をそ

の目的地と配送ルートが近い組み合わせでマッチングを行い、効率良く予約を行うものです。

これらの政策の効果として貨客混載によりトラックが減少し、また、運送業はバスやタクシーなどの交通機関を兼ねることで、バス、タクシーの料金が低下、これによって利用客が増加し、自



家用車の利用が減少します。これらによってトラックやバス、タクシーなどに使われていた化石燃料のエネルギーロスを抑え、また、CO₂の排出を抑えることが期待できます。さらに、貨客混載が進むことで運送業の人手不足、また、道路の渋滞なども解決可能と考えます。これで私達の政策提案を終わります。

ステージ④／後攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換（5分間）

宮城野高等学校さん

お願いします。

まず、確認なんですけれども、運送業のところから貨物輸送ということで貨物と人員を同じところで運ぶってところで合ってますよね？

仙台第一高等学校さん

はい。

宮城野高等学校さん

そうすると、時間がかかったりとか、実現までの時間が具体的にどのぐらいかかるのかなっていうところとか、結構時間もかかってしまうので、そこはどうなるのか気になりました。

仙台第一高等学校さん

はい、お応えします。法律の施行、法律を変えることも、また、バスの改良というのも時間がかかることだと思うんですが、運送業っていうのはこれから拡大していく事業で、それはトラックの排出するCO₂だとか利用するエネルギーというのも莫大なものだと考えていて、それは時間を考慮した上でも大きな利益が得られるものだと私たちは考えています。

宮城野高等学校さん

そこでなんですけれども、おっしゃっていた政策だと運送する時に貨物と人っていうのを同時に輸送していくと、そういう風な感じでよろしかったですかね？

仙台第一高等学校さん

はい。

宮城野高等学校さん

そうすると今の現状だと、貨物っていうのは結構時間に厳しかったりして、いつまでに届けなきゃいけないとかっていう規制があったりするじゃないですか。そうすると、それを一緒にしてしまうと、運ばれる人にとっては、人にも人の時間っていうのもありますし、そうすると貨物の輸送ってのだけではなくて、その他にも今までで使われていたバスだったりタクシーだったりっていう需要っていうのも出てくると思うのですけれども、それについてはどう思いますか？

仙台第一高等学校さん

私達の意見ではアプリを活用してあくまで乗客の目的地と、運送業の配送の先が完璧に合った、比較的合った部分だけを採用して、その他の部分はタクシーやトラックなど今まで通り活用していくという形で、私たちの基本的な理念として無駄な部分をなくすというところで考えているので、そういった活用方法になります。

宮城野高等学校さん

はい、ありがとうございます。

あと、例えばの話ですけれども、例えば人身事故が起こったとか、人が具合悪くてやむを得ず止まらざるをえない状況になった時とかが、人と貨物が一体化している状態なので、貨物への影響が割りと大

きいと思うんですけども、その点はどうお考えですか？

仙台第一高等学校さん

人身事故が起こったことによって貨物が時間通りに配送できないとかっていうことですか？

宮城野高等学校さん

はい、そうです。

仙台第一高等学校さん

そのような例えば道中で事故が起こった荷物が届けられないといった時に、例えばそういう時にですね、その情報をアプリを使って一体化した情報センターに送って、例えば代えの車両を持ってきて、乗客を移すとか、そういうのを今までだと、電話を一々本部に掛けたりしなきゃいけないと時間のロスだったものをアプリで瞬時に出来るということで、そういうような問題はすぐに解決できるものだと考えています。

宮城野高等学校さん

そこですけれども、代えの車っていうのをまた来てもらうようにするためにはアプリを活用するということで大丈夫ですか？

仙台第一高等学校さん

はい。

宮城野高等学校さん

そうすると、例えば今まで使っていた貨物と人を運ぶ用で、二つで今やっていると思うんですけども、例えばそういうことが起こって、新しく車とかを呼んだりしたら、それこそCO₂の排出量っていうのは削減されなかったりだと思うんですけども、そういうところの対策を考えるように、例えば貨物と人を一緒に運ぶ時に、その人を運ぶところの中にそういう対応できるようなスペースを作ってみるとか、そういうことがあるといいと思います。

仙台第一高等学校さん

そういうことに対応できるっていうのは、例えば救急車のようなことですか？

宮城野高等学校さん

そうです、例えば学校で保健室みたいな感じの車両を作ってみたりすることで、そういうところでの非常時に対応できるのではないかという風に思います。

仙台第一高等学校さん

そうですね、用途が多様化するので素晴らしい意見だと思います。ありがとうございます。

宮城野高等学校さん

あとなんですけども、効果の方ですね。効果の方でトラックが減少することによってバスとかタクシーっていうのが世の中に増えていって自家用車が減る、だからCO₂の排出量が減っていくよということで大丈夫でしたか？

仙台第一高等学校さん

大丈夫です。

宮城野高等学校さん

そうするとバスとかタクシーってより多くのものを輸送するように改造されると思うんですけども、そうするとやっぱりエンジンというのが新たに作られていって <タイマーの音＝制限時間終了> すいません。ありがとうございました。



準備時間 / 再提案にむけたまとめの時間 (5分間)

ステージ⑤／後攻チームによる論点明示と政策の再提案 《後攻／仙台第一高等学校》(5分間)



仙台第一高等学校さん

では、これから先ほどの質疑と意見交換を通して、重要な論点の明示と政策の再提案をしていきたいと思います。よろしくお願いします。

まず、質疑と意見交換を振り返ります。質疑では貨物と人は同時に運ぶのか。貨物の到着が遅れてしまうのではないか。どのくらいの期間で

政策を実現させるつもりか。また人身事故や具合が悪いということでやむを得ず止まらないといけない場合はどうするのか。また、この質問に関しては我々の回答として、アプリで確認して代えの車に来てもらうということでしたが、その際に代えの車が来たらそれこそ、CO₂が余計に増えてしまうのではないかと。我々が重要だと思った主な論点についてですが、貨物の輸送による人々の影響についてということです。

最後に政策の再提案をします。私達の基本理念はバスやタクシーのあまったスペースに荷物を積み、運送することで無駄を削減することです。さきほどの質疑応答の時間に先攻チームの皆様から荷物を運ぶ時間と人を送る時間を一緒にすることで互いにロスなのではないかという意見をいただいたことを踏まえて、私達は事前の予約によって判明したタクシーの利用者の目的地と、荷物を届ける場所がマッチングアプリ上で一致した時のみこのシステムを導入します。互いの条件が一致しない時には、現状通りタクシーとバスは個々の役割を果たすものとします。

次に体調不良者や人身事故が起こり、やむを得ずバスを止めなければいけない時、どうするかということについて、そのような事態が起こる頻度は大変少ないとは思われますが、対応できる車両は常に準備しておき、起こった際はすぐにアプリでの連携を図り、対処することを約束します。

また、アプリの利用は高齢者が使いづらいのではないかと。電話口での対応も加えたいと思います。地方などでは巡行するバスで貨客混載を行うことで過疎地でのバスの廃線を留める役割を担います。

また、私たちが貨客混載を実現する際、人間が乗り込むバスに積もうとしているのは石油燃料や食品などを含まない小包です。そのため、バスを大幅に改造する必要はないため、実現までの時間の短縮が見込まれます。これらの政策が実現すれば、バスやタクシーなどの交通機関の利用運賃が下がり、交通機関の利用が増えます。その結果自家用車の利用数が現在よりも減ることで都市部の大幅な渋滞が解消されることに加え、二酸化炭素の排出量の減少が見込まれます。

これらによって、運送業とエネルギーのロスを抑制するとともに、労働人口の不足がうたわれている今、人手不足の緩和もなされ、より効率的かつより豊かなライフスタイルを送ることが期待できると考え、これを提案とさせていただきます。ありがとうございました。 <タイマーの音＝制限時間終了>

ステージ⑥／先攻チームによる論点明示と政策の再提案 <先攻／宮城野高等学校> (5分間)

宮城野高等学校さん

はい、再提案を行います。お願いします。まず、相手のチームからの質問について整理してみたいと思います。まず、質問というのは5点だと捉えています。

一つ目、コンセントXというのをひとつひとつに付けるとなると、それにすごい費用がかかるんじゃないかというのがひとつ目。

二つ目は、それだけコンセントXを大量に設置して莫大な費用をかけてそれが本当に効果があるのか、つける意味があるのか、というのが二点目。

三点目はアパートとかすぐ引っ越しをするような人とかの家につけるのかって時に、前年度比って出来なくね？っていうのが三点目。

四点目がコンセントXの数の話です。コンセントXを例えば、一個だけつけるってなると、それ以上に使う必要があるものが出ると、それに対してコンセントX 1個なのはどうかというのが四点目。

五点目は可視化っていうのはもう既に取り組みされていると、企業とかで既に取り組みされている、だけど自分たちはその中で可視化をする意味は本当にあるのかというのが五点目。

失礼しました、六点ありましたね。六点目がアプリだけでやれないかと。今の現在、スマートフォンアプリが普及しているならば別にそんな経費をかけて、パネルなど設置しなくてもアプリだけでそういうのが出来るんじゃないかっていう六つの質問があったと思います。それについて一個ずつ再提案していきたいと思います。

まず一つ目、Xの費用、コンセントXにすごくかかるんじゃないかということなんですけれども、ここは先ほどお答えした通り、税金で賄えるんじゃないかっていう風に考えています。

二点目、Xをそれだけしてつける効果はあるのかということなんですけれども、全国民から税金を取るってなると、やっぱり税金を取られたってことはそれだけ、うわって思って、自分で税金を取った原因についてより関心を持って全体的にCO₂を削減する、省エネに取り組むっていう意欲が上がってくるっていう風に思っています。なので効果はそれなりにあると思っています。

三点目、引っ越しをするところに関して前年度比出来ないんじゃないかっていうことなんですけれども、これは我々で考えた新しい提案をしたいと思います。それはそういうマンションとかアパート、そういうところに設置するパネルに関しては、比較するのは前年度ではなく、前年度の国の平均から比較していくっていう風にします。前年度の国のその月の平均とかと自分の所を比較するっていう形でやっていけばいいと思います。

四点目、コンセントXの数が少ないんじゃないかっていうことに関しては、ここも新たに再提案したいと思います。コンセントを設置する時にコンセントXの数を事前にその住んでいる人にアンケートとかを取ることで場合によって増やしたり減らしたり、例えば空き部屋がすごく多くなってると逆にコンセントXっていらんないじゃないですか。そういう風にするとコンセントXがあること自体がもう既に電力を使ってしまうことになるので、逆にそういうところにはコンセントXいらんないっていうふうに決められる。また、他にコンセントX、3、4個ないと困るっていう家には3、4個付けられるっていう風に、住んでいる人がコンセントXの量を増やせる、減らせるそういう風にしていきたいと思っています。



五点目、可視化は既に取り組まれているから、もう意味はあるのかっていう質問なんですけれども、これは先ほど僕らが述べたように更に可視化を普及させていく、個々人のことまで普及させていくことによって、全体的なイメージというか意欲のアップ、個々人がひとりひとり意識を持つことによって、国全体が意識を持ってCO₂削減に取り組めるんじゃないかということで効果が非常にあると思います。

六点目、アプリだけで出来るんじゃないかっていうことに関してなんですけれども、やっぱりこうスマートフォンが普及しているといっても高齢者ってあまりスマートフォンを持っていたりしないじゃないですか。あと、小さい子供とか、いやそれこそ持っていないし、っていう風に考えると、やっぱり家に設置するってことによって、やっぱ家族全体、家族がいなくてもあつたりするけども、家族全体で取り組める、全体から見える様にするってことで、スマートフォンアプリはあくまで外からの遠隔操作が出来るっていう手軽さを求めるためのアプリであって目標としては家にそれを付けることによって全体が意欲を上げるためにつけるっていう風な政策な為、これはアプリではできない、自分達の政策だからこそできるCO₂の削減の方法だと思っています。

質問の再提案が終わったので、自分達の政策の確認をしたいと思います。まず社会的問題はCO₂の量が非常に多いとそのために家の待機時電力っていうのを抑えることによって電力量が減って、それでCO₂が減ってくんじゃないか、そういう風に考えました。具体的な政策は一つ目、先ほどから言っていたようにパネルを設置する。そのパネルによってその家の中の電気っていうのは全部調整できるよって、止めることもできるし、見ることもできる、見えることによって意識が向上していく。そういうパネルをひとつ作る。二つ目でスイッチ、コンセントXをつけると。コンセントXは非常時のために一個電力が <タイマーの音=制限時間終了> ありがとうございます。



■ エネルギーの専門家との省エネワークショップ（マルチメディアホール） 15:15～



＜司会進行＞

大会実行委員長 江間史明氏

＜講師＞

（一財）省エネルギーセンター東北支部事務局次長 尾崎洋輔氏

株式会社セーブエナジー代表取締役 大石忠弘氏

家庭の省エネの専門家・消費生活コンサルタント 千葉智恵氏

東北経済産業局 資源エネルギー環境部長 奥村浩信

江間実行委員長

はい、実行委員長の江間です。ここからは、エネルギーの専門家の皆さんと一緒に、本日のディベートの振り返りの時間ということで、省エネワークショップを設けさせて頂きました。試合が終わって言いたい事とか、聞きたい事とか、知りたい事等があると思います。選手同士でも結構ですし、専門家の方に聞いてみたいという事でも結構です。そういったことを有効に聞きあうような時間として、この時間を使っていただければと思います。それではまず、四名の講師の方をご紹介します。まず、様々な分野での省エネをサポートしている、省エネルギーセンター東北支部の尾崎様です。

尾崎氏（省エネルギーセンター東北支部）

宜しくお願いします。

江間実行委員長

それから企業の省エネの専門家として、株式会社セーブエナジーの大石様です。

大石氏（株式会社セーブエナジー）

大石です。宜しくお願いします。

江間実行委員長

家庭の省エネの専門家・消費生活コンサルタントとして、千葉様です。

千葉氏（家庭の省エネの専門家）

千葉です。宜しくお願いします。

江間実行委員長

東北経済産業局、資源エネルギー環境部長の奥村様です。

奥村部長

どうぞ宜しくお願いします。

各チームの省エネ政策提案の概要

※観客不同・教員は略号表示

中学校名	政策提案の概要
八戸工大第二高校附属中学校	学校のコンパクト化～省エネ実践校に交付金～
盛岡中央高校附属中学校	完全自動運転車を利用した渋滞のない快適な生活の実現
福島大附属中学校 1年生チーム	エアコン使用電力見える化政策
福島大附属中学校 2年生チーム	Saving Life Share
いわき市立中央台北中学校	食品ロスを活用した小規模バイオマス発電 消費者と企業による「心」と「もの」の循環型社会の形成
ふたば未来学園中学校	自給販売機の給水型販売
高等学校名	政策提案の概要
青森山田 中学高等学校	食品ロス削減の可視化 廃棄物を減らし、リサイクル化
盛岡第三高等学校 Aチーム	食料廃棄物の削減による食品廃棄物の削減
盛岡第三高等学校 Bチーム	残飯を活用したバイオガス発電
仙台第一高等学校	省エネ型による運送業の効率化
宮城野高等学校	家じゅうの電気、見える化です！政策
古川学園高等学校	センサー式ライトの導入支援
山形県立高等学校	火力発電のおきかえ
東海大山形高等学校	環境税の導入と自家用車から自転車への転換促進

江間実行委員長

宜しくお願いします。それで、各チームが本日の試合で、提案した政策内容につきましては、いま後ろと、両側のスクリーンも含めて提示されています。自分が対戦したチームの政策については、知っていると思いますが、他のチームからもこのような政策が出されていました。この後のワークショップの進め方についてご説明します。最初に、専門家の二人（大石氏、千葉氏）から、今日の試合を見た感想を頂きたいと思います。その後、他のチームと話す時間を、15 分間とりたいと思っています。その際

にですが、自分のチームの席で移動しないで説明する人を、1名か2名、選手が3名のチームでは1名だと思いますけれども、決めて下さい。それ以外の他の方は、それぞれの政策を聞いてみたいところに行ったり、自分の試合をした相手のチームのところに行ったりして、実際どうだったの、みたいな話で、色々聞きたい事があれば、聞いてみて頂きたいと思います。どのチームがどこに座っているかは、プログラムの方に座席表があると思います。そのプログラムの座席表を見て、移動してください。この15分間のところは、ちょうどミツバチが花粉を探して、花から花へと飛び回るみたいなイメージです。それぞれ聞きたいところに行って、色々自由に話をして頂ければと思います。その後ですが、聞いてきた内容を、自分のチームに戻って共有する時間を、6分間程とります。最後に、短いですが、会場全体で議論を共有出来る時間をとりたいと思っております。それでは、最初になりますけど、省エネの専門家から見た今日の議論という事で、お話を頂きたいと思っています。

それでは、最初に大石様の方からお願いします。

省エネ・ワークショップの進め方		
1	省エネの専門家から見た今日の議論	8分間
2	他のチームと話す時間 チームの2人を残して、自由に移動して話してください。	15分間
3	自分のチームで共有する時間 交流してきたことを、チームで共有してください。	6分間
4	会場全体で話す時間 今日考えたことや一緒に考えてみたいことを発言下さい。	8分間



左から
尾崎氏、大石氏、千葉氏
奥村部長

《省エネの専門家から見た今日の議論》

大石氏（株式会社セーブエナジー）

はい、私 大石と申します。宜しくお願いします。皆さんお疲れ様でした。今日ですね、私、第一試合と第二試合、それと決勝を見させて頂いております。先生からお話があったんですけども、私は企業の省エネ診断を主にやっております。最初に仕事内容を簡単にご説明したいと思います。例えば工場とか、ビルとか、病院、皆さんのいる学校等にお邪魔をしまして、全体を見せてもらいます。照明の使い方とか、空調の使い方…、それを持ち帰りまして具体的な省エネの報告書にまとめてお渡しします。金額に変えて提案しておるんですよ。年間でいくらいくら削減できますよ。大人の人達はお金が大事ですので、お金で説明した方が分かりやすい。例えばこちらの会場ですが…、入った瞬間に照明がついています。でも後ろの方に人はいませんよね。この場合、省エネ診断では、なるべく前の方に来ていただいて後ろを消すと。これを間引きと言います。それが省エネ。あとは皆さん暑くないですか。寒くないですか。気温ですかね。もしこの会場暑いとすれば、あそこのリモコンで、温度を下げます。一度下げると、エアコンに要する電力量も10%が削減できたと。このように省エネということの診断を行っておるわけです。こういった仕事をしている私が、今日お話を聞いて、感じた事を述べさせていただきます。

まずですね、第一試合、山形東と仙台一高を見させていただきました。山形東、私の地元です。家から車で十分くらいのところなんですが、とにかく具体的な数値が出ておりまして、非常に素晴らしいと思います。省エネ診断でも、数値を出さないとお話になりません。ここは的確に出ております。それから着眼点ですね、電気を節約するという意味では、電気を作る側、こちらの省エネが、もっとも重要になります。そこに寄せられたというところは、非常に大事なところ。国の方でもどんどん推進しているところ。この時の仙台一高さん、決勝でも同じテーマでしたけれども、高速バスとか、タクシーとか、我々の身近なところにあるものに目を付けられたというところが、非常に感心致しました。皆さん、今どきの人らしい、マッチングアプリの開発とかですね、この辺もどんどんこれが進んでいくんだろうなと思います。私の地元ですけど山形なので過疎地域なわけですね、過疎地域に目を付けて下さったのは大変ありがたいと思います。ただ一つですね、お願いというかありまして、是非数値を出して頂いたらなと、もっと良くなったと思います。



第二試合が、宮城野高校と盛岡第三高校 A チーム。まず宮城野高校、決勝でも分かりました。今回ですね、私ここに来るまでに、大会の趣旨として省エネルギーと豊かな生活を両立。ということで三試合見たのですが、豊かな生活というところに触れられたのが宮城野高校さんだけでした。というのは、生活の質を落とさず、という風なフレーズが入っておりまして、これは非常に今回のテーマにぴったり一致していると思っております。コンセントの自動遮断ですね。これはとても素晴らしいと、先ほど冒頭で、この会場の後ろ側の照明消すというお話しましたが、これやっぱり皆さん面倒くさいんですよ。だから薦めません。手動の場合は自動で切っちゃうのが、簡単であり確実という事です。しかも、コンセントXを付けて、緊急のものは切らないという発想は素晴らしいです。それと高齢者や子供にも配慮しているというところに共感できると思います。

最後に盛岡第三高校 A チームですが、焼却燃料とか輸送燃料併用、素晴らしいと思います。感じたのはですね、清掃をする、お弁当を作ったりするときにエネルギーが減るんじゃないのかなあと思いましたので、そこら辺はちょっと考えてみて下さい。あと、プレゼンの中でポスターを活用されておりました。素晴らしいです。話し方が丁寧でゆっくりでした。私の様な五十を過ぎた人間にとってはとても有難く感じております。特に、我々が省エネ診断でお邪魔すると、お客様は素人です。専門用語をズラズラ言っても分かりません。ゆっくり分かりやすく説明しても、違ったと思われる次第です。以上です。

江間実行委員長

はい。大石様有難うございます。では次に千葉様お願いします。

千葉氏（家庭の省エネの専門家）

はい、只今ご紹介頂きました、千葉と申します。皆さん朝から大変お疲れ様でした。私自身ですね、皆さんの試合を、見させて頂きまして、とても勉強になりましたし、これからの時代、この子達がいたら大丈夫かな？という風に、凄くわくわくしながら聞かせて頂きました。今回ですね、短期間の制限されたなかで、学校生活を送りながら応募したかと思うんですけども、今回この大会に参加することで、初めて省エネを普及するには、又は政策を効果的に実施するには、どうしたら良いかって考え

た方が多くいらっしゃると思います。日々、私、家庭の省エネという事で普及活動するんですけども、大変難しい。そういったなかで、どんなアイデアが出るんだろうという事でとても楽しみにしてきました。そして本当にただただ感心するばかりでした。一斉に開催されるので、見る試合が限られていたが、まずその中で三つ印象に残ったことをお話ししたいと思います。

私、家庭の省エネという事で、是非自分自身も欲しいなと思ったのが、宮城野高校さんの提案したコンセントX。私自身、家庭で省エネナビという、まさしくパネルを用いて、家族全員でその数値を見ながら前年と比較しながら、というのを十数年続けてきました。でもそういったなかで、家を図面に起こして、どこに電気が何個あるか…、数えてみたことありますか皆さん。私したんですね、そしたらね百数十個あるんですよ、電化製品、電気製品。このライトをはじめですね、外出するときに一個一個消すのは大変。それで、集約化してエコ暖房を使ってスイッチを一つ押すと、例えばパソコン関係は全部待機電力無しに出来るとかね、色んな事を工夫しました。それはですね、もし全国の各家庭やアパート、マンションに行ったら必ずコンセントXがあると…。ここに繋ぐものは、アプリ若しくは、外出するときここを操作すると切ることが出来ます、といったことで日常化にすれば、ほんとに私が今まで苦労してきてスマート化をしてやってきたことが、当たり前になるんだと思ったら、凄く夢のあるアイデアだなと思いました。

二点目ですね、いわき市立中央台北中学校さんの、私は第二試合しか見れなかったんですけども、ゴミ袋の百三十袋無料化配布。ちょっと私の視点でびっくりしました。私の住む登米市は宮城県で、一番最初にゴミ袋有料化したところでして、ゴミにお金を払いたくないので。どうやったら減らせるだろうという事で、生ゴミをたい肥化したりとか、どんどんどんどんやっていくと、実はゴミ袋の90%くらいは生ゴミだという事に気付いたりして、それで取り掛かったんですね。そこが無料で配布されるんだと思ったら、はあ、なるほどそういう考え方があるんだなと思って、即座に一ヶ月の内で、じゃあ私一人当たりは何袋だろうと考えたりしたんですね。今現在、まだ無料化の市町村は沢山あります。そういったところで、「百三十袋を超えたところから有料になります。」といったところの普及の考え方というのは、大変難しいかとは思いますが、百三十袋でいいのかどうかから議論がまず実行されたときがあるかもしれないんですけども、そういった視点で投げかけて、皆さんが各家庭でグイッと減らせる、そのきっかけになるんだなっていうのが、ちょっと凄い視点での発想で、私自身びっくりしました。

それから三点目ですね、最後の決勝戦でお話頂きました。仙台第一高等学校の貨客混載による運送業の効率化。まさしく、私自身ネットショッピングで日々買い物しております。そして、不在のところに届いたら申し訳ないと思って、職場に配達してもらったりしてるんですけども…、これからの時代、ダンプとかトラックとかっていうのは、各家庭の個人の買い物によってどんどん増える分野であろうと予想されます。私ちょっと視点を変えて道路を見ますと、息子の引っ越しの為に夜にですね高速道路を走るとなんとトラックの多いこと…。そこから段々段々見ていくと、昼間はダンプ、それから食品流通の為に箱トラック。いかにこの運送業の占める割合が大きいかっていうことが分かるんですけども、その中でも、そういったネットショッピングで、そんなに早急に欲しいっていうものでなくて、個人の買い物ぐらいだったら、マッチングアプリで少しでも軽減されるのであれば、凄く喜ばしいことではないかなと思います。ちょっとショッピングすると、実は中国から発送で、届いたのが一ヶ月後、というのだったりあるんですね。でも全然許されたりするんですよ。もう待ちに待った海外のアクセサリーであったりとか服だったりとか、そういった個人のものは何日間でも大丈夫だよ、というのはあると思うので、そういうのはあったら良いなと思いました。

皆さんにお願いしたいのは、今回のこの大会出場するにあたって考えるきっかけ、そして、どうした

ら普及するんだらうっていうことで色々考えたと思いますが、私たち消費者、特に家庭に入ってしまうとすっごくわがままです。暮らしの質を落とさないというお話がありましたね。まさしくそうです。もう一回便利になったものは逆戻り出来ません。そういったところで、まず暮らしの質を落とさずに、更に快適に、更に便利になる、そういったことが人々の省エネへの第一歩だったりしますね。そこから「効果が現れてるわ」、「これ効果があるんだ」ってなると、それがモチベーションになって、次々ときて…、私みたいに十数年省エネを続けてる人がいますので、是非そういった人を、全国、本当に全世界ですね、広めていけるようなアイデアの今日は第一歩だったと思いますので、この実現を、是非一つだけではなくて、今日集まった皆さんの中で、これとこれとこれを組み合わせるとこういう実現に繋がるよねという、発展的な考えに繋がると良いなと、今日の大会を見させて頂きました。有難うございました。

《他のチームと話す時間～自分のチームと共有する時間》

江間実行委員長

はい、千葉様、有難うございました。それでは、他のチームと話す時間に移りたいと思います。それではまず、自分のチームの中で残って説明する人を決めて頂けますか。1人か2人です。15秒ぐらい時間をとりたいと思いますので、さっと決めて下さい。誰がその席に残るかです。

はい、15秒たちました。それでは、残って説明する以外の皆さんは、これから15分間になりますけれども、聞いてみたいチームのところに行って、自由にお話を聞いてみて下さい。あと審判の方、あと観戦に来られている方も、混ざって頂いてかまいません。専門家の方も是非チームの方へ混ざってお話下さい。



<タイマーの音＝制限時間終了>

《会場全体で話す時間》

はい、では時間になりました。すいません、短時間で申し訳ありません。それでは、最後、会場全体で、少し交流の時間を持ちたいと思います。今この時間を通して、或いは今日一日を通して、こんなことを考えるようになったという事で、発言して頂ける方が、もしいらっしゃれば、手を挙げて頂ければと思いますけど、いかがでしょうか。…いなければ、宮城野高校の生徒さんに予約していたので。

宮城野高等学校さん

はい、有難うございます。決勝戦で見еもらったと思うんですけど、ここに来るまで、ちょっとモデル試合みたいな感じの事もやったので、ちょっとは考えてたんですけど、自分達の考えてた政策っていうのが、自分達の観点からしたら、「もうこれ凄く良いな、これで結構完璧じゃない。」って思ったりもしたんですけど、色んな人と対戦とか、喋って、それで意見を交換し合うと、自分達じゃ出てこなかった意見って少なからず出てきたと思うんですよ。そうすると、色んな人と喋る楽しさというか、やる事によってより自分のものが良くなっていくっていうこの楽しさとか、あとは、こういう活動を通して、自分達の政策を段々具現化していったりしたし、こういう場で、皆で一つの事に対して色々考え合って、自分達の考えを高め合っていくっていうのは、それこそ一番省エネに繋がる活動なんじゃないかなって思ったし、自分でこうやって、凄く楽しい一日でした。有難うございました。



江間実行委員長

あの、突っ込んで悪いんだけど、自分が予想してなかった意見で言われたことで、一番ビビッときたことっていうのは、例えばどんなことでしたか？

宮城野高等学校さん

はい、一番びっくりしたのですね、「コンセントX、タコ足にしたら意味ないんじゃない。」って言われた瞬間、この政策は終わったな、と思いましたね。コンセントXにタコ足にさして、そこからもう大量に電気とっちゃったら、他のコンセントって意味ないじゃないですか。そうすると、自分達の政策って全くもって無意味なんですよ。それを、どこかのあそこの中学校の方に言われて、中学校の人に突っ込まれたのか。やべえみたいな、ここで一人で思っちゃって、でも、色んな考えがあるんだなあって思いつつ、良かった、あぶねえって思いましたね。はい、そんな感じです。

江間実行委員長

どうも有難うございました。それでは他にどなたかいます。じゃあ2人、じゃ手前の中学生からすみません。

いわき市立中央台北中学校さん

私達の中学校では、一ヶ月ほど前からこの活動に取り組んでいたんですけど。部内で色々な政策を練っていく段階で、今までも、前日とか今日の試合直前まで政策を練って練って、考えてきたんですけど、



それを踏まえた上でも、今回、いろんな学校と試合をしたり、意見やいろんな政策を聞いたりした上で、まだまだこんな省エネの考えがあるんだなっていう事に凄く驚いたのと新しい発見に繋がって。今までも、アカデミックディベートはずっと続けてきたんですけど、これからも色々なディベートの活動で色々な視野を広げた意見を、そうして、いろんな試合とか考えを深めていければいいと思ったので、今日のこの時間は凄く有意義になったと思います。有難うございました。

江間実行委員長

はい。有難うございました。じゃ後ろの仙台一高の生徒さん、どうぞ。

仙台第一高等学校さん

自分はむしろ、環境問題というよりディベートの方に興味があってきまして、決勝戦とかではあったと思うんですけど。あ、すいません、主催して頂いて。ディベート好きになっちゃったんですけど。決勝戦とかでありました通り、その質問のテクニックというんでしょうか、そういうものに驚かされまして、二回戦目の講評頂いた、神永さんという方からもテクニックを色々教えて頂いたんですけど、とてもこう、えげつない、かつ、何というか、意見を向上させる為の、ディベートっていうものがあくまで、



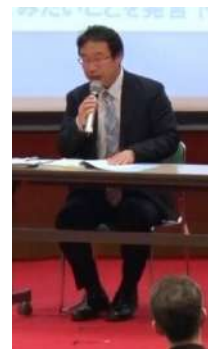
色々な環境問題を解決する上でのテクニック、アイテムとして素晴らしいものなんだなっていうのが今日改めて確認させて頂きました。そしていろんな方から意見頂いて、自分達の予想しなかったこと、例えば、山形東の方から頂いたんですけど、荷物運送を理由にして、逆に過疎地域の鉄道の本数を増やしてほしいっていう願望を頂きまして、そういう考え方もあるのかっていう、いろんな考え方を持ち寄れる場としてのディベートコンテストっていう、素晴らしさにとても感動しました。有難うございました。

江間実行委員長

はい。有難うございました。最後にどなたかお一人いらっしゃいますか。大丈夫ですか。これまでの事を踏まえてですね、講師の皆様よりご発言を頂きたいと思います。どうぞ宜しくお願いします。

尾崎氏（省エネルギーセンター東北支部）

はい、今ほどですね、紹介頂きました、省エネルギーセンターの東北支部の尾崎と申します。活発な意見頂きまして有難うございました。私共も大変参考になりました。私からは感想を二つ述べたいと思います。一つは、省エネのディベートという事で、省エネの施策という事で、実は省エネ法という法律がございまして、法律に基づいて省エネしなきゃいけないよってというのが、世の中、国民の義務でございます。その中で今日いろんな試合を見せて頂いたんですけれども、バイオマスとか水素とか家庭の省エネとかいろいろ提案して頂きました。家庭部門のエネルギー消費の割合は、日本全体のエネルギー消費の15%ぐらいですが、学校・ビル等の業務部門と大きな工場等の産業部門におけるエネルギー消費を合わせると、日本全体のエネルギー消費の60%ぐらいということで、家庭部門におけるエネルギー消費よりずっと大きいというような現状です。なので、皆さんが大きくなったら、（工場やビル等で）仕事をしなきゃいけないという事で、業務部門や産業部門における省エネについても意識しながら取り組んでももらえたらなという風に思っております。



あと、ディベートについて、二点目なんですけれども、奥村部長さんから、開会の挨拶あった通り、記念、思い出になりますよ、という事になります。去年、ラグビーでワンチームなんていう言葉ありましたけれども、その前は平尾監督という方がいらっしまして、ラグビーのですね、One for All、All for Oneという事で、All for Oneというその最後の、Oneを勝利というかたちに名前に変えて必ず勝つんだぞという風に投げかけてたそうなんです。この勝利っていうのを、皆さんでいうと優勝ですとか、コンテストで必ず打ち負かしてやるよとか、そういう気概があると、やっぱりテンション上がるのかなという風に思っております。一番はですね、今ほどワーキングしましたので、友達作りとか、そういった県外の学校の人達のコミュニケーションなんか出来たのかなと思ひまして、いい思い出に、やはりなると思いますので継続して取り組んで頂ければなと思っております。では、こちらで失礼致します。

大石氏（株式会社セーブエナジー）

大石です。皆さんお疲れ様です。先ほど、省エネ専門家の立場からお話しましたので、最後に簡単に私の感想を述べさせていただきます。先ほどワーキングの時間ですね、皆さん方入り混じれるのかな？立たれるのかな？と思ってた心配が全く要りませんでした。あっという間に皆さん入り混じって影響し合って、我々大人から見ると珍しい光景でした。非常に感銘をうけまして、これから私達大人も、色々影響し合って高めて参りたいと思います。是非省エネ、それから豊かな生活実現に向けて、皆さん、努力をお願いしたいと思います。以上です



千葉氏（家庭の省エネの専門家）

はい、私の感想として、皆さん対戦相手の質問だったり、それから意見、指摘などを受け止めて、それを更に、自分達の考えを磨き上げて作り上げていく様子に私の方が学ばされました。是非そういった、視点を今後の学校生活、それから社会人になっても持ち続けて頂きたいなと思ひました。私達の暮らし、化石燃料に支えられた営みをどうしていくのかっていうのを、今までは個々人に委ねられていたのですが、これからは待たなしの時代になりまして、皆さんが生きていくのには本当に政策が必要になってきます。



ですので、是非、今日の今日まで至った創意工夫とかアイデアとか沸きいするその思いを絶え間なく

持ち続けて、小さな自分達の暮らしから、それから学校生活、社会生活、ましてや世界の視点で是非持ち続けて頂いて、この社会を変えて頂けるようになって頂きたいと思います。今日は、有難うございました。

奥村部長

今日は、家庭内だけでなく、身近な社会の中からも、省エネ政策についていろんなアイデアを出していただきました。その中には、2024 年から政策を開始してこれだけ CO2 が削減できると、政策効果がきちんと計算されていたり、道路交通法の許認可条件を緩和するという提案もありましたが、よく調べられており本当に感心しました。

私、皆さんが提案した政策を実行するときに、こういったプロセスを踏んでいくのかなというのを自分なりに考えながら聴いていましたが、その時に一番大きいのが、費用をどうするのか、制度をどうするのか、というのがまずあります。

その点については、税金を投入して、こういう効果を出せば、国民の方に納得してもらえらうという意見がありましたが、それ以外にも、例えば、貨客混載をすることでバス会社が儲かるのであれば、そのバス会社がその儲けの中から負担する事ができるかもしれない、部屋一つ一つの電力消費量をパネルで見える化した家が人気となって、ハウスメーカーが儲かるのであれば、そのハウスメーカーが負担する事ができるかもしれない、つまり国民が負担しなくても政策が実行できる可能性もあるなという考えも浮かびました。

また、どうしても皆やりたがらないという場合は法律で義務化する必要もあるけれど、もしその効果がわかれば皆にワッと広がるということだったら、どこか地域限定のパイロットプロジェクトをやって効果を実証することで、コストをかけずに普及させることができるかもしれないなどと考えながら、興味深く皆さんの提案を聞きました。

皆さんには、これからも省エネに限らず、エネルギーや環境問題などの社会問題にアンテナを張って、もし何か関心を持ったことがあれば、さらに勉強して、今日のようにディベートで皆から意見を聞いて、より理解を深めていくということを今後も続けていってもらえたら、主催者一同、こんなに嬉しいことはありません。今日は私も大変勉強になりました。ありがとうございました。



江間実行委員長

講師の皆様、どうも有難うございました。それでは、拍手を宜しくお願い致します。それでは、以上をもちまして省エネワークショップの方、終了いたします。



■ 高校生の部決勝戦解説、 高校生の部・中学生の部結果発表（マルチメディアホール） 16:00～



**大会副実行委員長
全国教室ディベート連盟東北支部
副支部長 名越 幸生**

名越幸生副実行委員長

改めましてこんにちは。副委員長を担っております名越と申します。私のことを知っている人も多いかもしれませんが、全国教室ディベート連盟東北支部副支部長、東北学院中学校・高等学校ディベート部の顧問をしております。時間的に押していますので、手短に進めますがご容赦ください。ですがちゃんと伝えるべきことが何点かありますので、よろしくお願いします。

一点目は予選の試合の講評でも言ったのですが、この新しいディベートの質疑と意見交換についてです。その時に、対戦相手が右と左に分かれてのやり取りがありますが、相手に耳を傾けるのと同時に、聴衆の方もぜひ意識して欲しいと思います。どうですか。こうして視線を向けただけで、多分皆さんの顔を見て話をしているというのが伝わると思うのです。今回はパブリックディベートですね、しかも投票してくれる方々は会場にいる皆さんなので、ちょっとした工夫で聴衆とのコミュニケーションが図られると思います。この大会は第二回等続くと思いますので、その時にはぜひ上手になって帰ってきてください。

それでは試合の中身に入っていきます。伝えるべきことの二点目が一番に伝えたいことです。今回のディベートを聞いてジャッジして下さった皆さん、「政策提案ってすごく難しいな」と思ったのではないのでしょうか。そこで大事なことは、聴衆に（プラン後の）イメージを持ってもらうことだと思います。一つ特徴的なこと、先攻のチーム（宮城野高等学校）が、新しいスマート（機能的）なコンセントのデメリットを解消するための「コンセントX」というコンセントを備えると言っていましたが、皆さん、名前に誤魔化されていませんか？実は、今ある普通のコンセントと一緒にありますよ。新しい予算とか必要なく、普通に設置して使えるコンセントのはずなのです。だけど「コンセントX」という名前が、何か新しいもの、予算がかかるもの、などと思ってしまいますよね。そういうことは是非、質疑応答の中でやり取りしてください。すると「あ、こういう部分は現状と同じで、ここの部分に差分があって、ここの部分がどうかなるのね」などと話ができるようになります。

一方で後攻（仙台第一高等学校）は、貨客混載による運送についてですが、私は北海道出身なので知っているのですが、北海道のオホーツク海側にJRのローカル線「釧網本線」に、実は昔、貨客列車（客車と貨車の両方が連結されている列車）が走っていました。そのように元々、ある地域に鉄道の路線が一本、それに並行して走っている道路が1本しかなければ、混載しても当然お客も荷物も一本で運ぶので、効率化が図られると思います。ですが東京都内など、人も荷物も色々な方向へ行く地域で、後攻のプランで、仮にスマートフォンでの仕組みがあったとしても、ニーズに耐えられるのかどうかちょっと

と不明だと思われました。ということで、具体的に考え始めると、実際のところ、この政策提案がどれくらいの効果があるのかということが分かると思います。例えば先ほど言ったように、後攻側の貨客の話が長距離だったらすごく効率化すると思いますが、短距離のもの、ニーズが複雑なものをどう解決するかという点に関しては、もう少し質問し、後攻側に説明してもらっても良かったかも、というようになります。

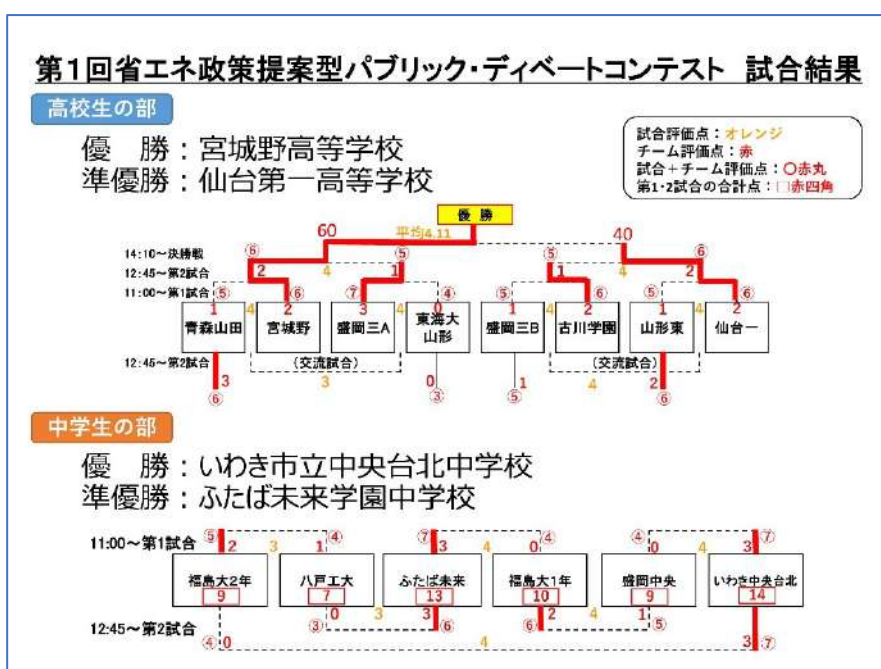
一方で先攻の「過去のメーターと比較して省エネをするようになりましょう、なるでしょう」というお話、確かにメーターをつければいいのですから、すぐ実現しますよね。ですが、メーターつけたからといって人がそのメーターのデータに従うかどうかという点は怪しいと思うのです。ということで、具体的な話を踏まえると、違った議論の展開があったかと思います。

そこで、伝えるべき点の三点目「聞き手に自分たちの議論をちゃんと分かってもらう、あるいは相手と比べて良い点を説明するポイント」です。実は簡単です。それは「本当にそうなるのか」「言った通りになるのか」という話に、「それによって必要な量が満たされるかどうか」という点をちゃんと議論に乗っけているのか、です。これはアカデミックディベートと一緒に、変化量とその効果についてちゃんと、例えば「実施する前はこうだった」「証拠を調べるとこうあるので、このようになることが考えられます」みたいに、具体的に述べると、説得力がある議論になると思います。

皆さんにチラシ一枚配ったように、『教室ディベート連盟』あるいは『東北ディベートネットワーク』では、2月23日、24日に中高生対象の研修会を開きますので、もし興味がありましたら参加してもらえるとありがたいです。

それでは中学の部、優勝は、勝ち数は二勝、そしてポイント（第1・2試合の合計点）は14点、福島県いわき市立中央台北中学校です。おめでとうございます。そして準優勝は、勝ち数が同じく二勝、残念ながらポイントが13点で1点だけ違って、準優勝は福島県立ふたば未来学園中学校です。おめでとうございます。

それではお待たせしました。高校の結果です。投票総数はぴったり100票でした。そして勝ったチームの得票数は60票。宮城県…どっちもそうですね。宮城県宮城野高等学校さんです。おめでとうございます。ということで準優勝は40票。それでも多くの票を集めたと思います。宮城県仙台第一高等学校さんでした。おめでとうございます。以上結果発表です。



■ 表彰式（マルチメディアホール） 16:09～



《受賞校》

高校生の部〔優 勝〕宮城県宮城野高等学校

〔準優勝〕宮城県仙台第一高等学校

中学生の部〔優 勝〕福島県いわき市立中央台北中学校

〔準優勝〕福島県立ふたば未来学園中学校

《プレゼンター》

経済産業省 東北経済産業局 局長 相楽希美



宮城県宮城野高等学校



宮城県仙台第一高等学校



福島県いわき市立中央台北中学校



福島県立ふたば未来学園中学校

高校生の部 優勝
宮城県宮城野高等学校



高校生の部 準優勝
宮城県仙台第一高等学校



中学生の部 優勝
福島県いわき市立中央台北中学校



中学生の部 準優勝
福島県立ふたば未来学園中学校



■ 大会講評（マルチメディアホール） 16:20～



大会実行委員長
山形大学大学院 教育実践研究科
教授 江間史明

この大会が初めて開催されるというお話を東北経済産業局から伺った時にどういう大会になるのかな、ということ率直に言って考えていた部分がありました。しかし、今日一日の皆さんの議論を聞いていて、このパブリックディベートがこれからまだまだ磨いていく可能性があるし、育っていく可能性があるなということを感じた一日になりました。この大会に向けて準備をしていただいた選手の皆さんに心から敬意を表したいと思います。本当にありがとうございました。それから、この大会を支えてくれたスタッフの皆さん、それから審判員の皆さん、本当にありがとうございました。感謝を申し上げます。最後になりますが、今日一日学んだことの中で私が感じたことを二点申し上げて、講評に代えさせて頂きたいと思います。

一点目です。自分がその政策を主張することがどういうことなのかということを、改めて考えてみる必要があるなと思いました。自分の世界の中では、分かっている、もう大丈夫だ、と思っていることがあるかもしれませんが、しかし、質問を受けてみると、今までその政策は、自分では完璧だと思っていたけれども、他の人から質問を受けてみて初めて分かってくることがあります。そういう点で、他者とのコミュニケーションをしていくことが、結局、その自分の思考を豊かにしていく機会になります。そういうことを、今日の試合を通じて、見ていて非常に感じたことであります。

二点目になります。そうやって他者から聞いた意見を自分がどう取り込んでいくのかということもやはり問われるということを思いました。自分だけで主張していること、自分で分かったつもりになっていることは簡単です。けれども、その意見に対して他者から出た意見を自分がどう受け止めるのか、それをどう自分の中に取り込んでいくのか、そういったことの中でどういう風にその政策なり自分の考えを磨いていくのかということが大事です。

本日の大会のテーマ、2030年代、省エネをしていく、しかも豊かな生活の質を落とさないで実現していく、そういう社会を皆さんがこれから描いて考えていくという、その出発点に本日の大会がなってくればとてもありがたいことだなと思いました。本日、本当に一日お疲れさまでした。以上で講評に代えさせていただきます。ありがとうございました。

〔 閉 会 16:25 〕

アンケートの集計結果

出場チームのアンケート集計結果 ①

第1回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト 出場チーム生徒 及び 引率者向けWEBアンケート結果とりまとめ

1. あなたは、以下のどのチームに所属していますか。

中高	選択項目	回答数	%
中学	八戸工業大学第二高等学校附属中学校	4	9%
	盛岡中央高等学校附属中学校	3	7%
	福島大学附属中学校	6	14%
	いわき市立中央台北中学校	9	20%
	ふたば未来学園中学校	4	9%
	中学計	26	59%
高校	青森山田中学高等学校	1	2%
	盛岡第三高等学校	5	11%
	仙台第一高等学校	2	5%
	宮城野高等学校	3	7%
	古川学園高等学校	4	9%
	山形東高等学校	2	5%
	東海大山形高等学校	1	2%
	高校計	18	41%
	合計	44	100%

2. あなたは、以下のどれにあてはまりますか。

中高	選択項目	回答数	%
中学	1年生	10	23%
	2年生	13	30%
	3年生	0	0%
	引率者	3	7%
高校	1年生	6	14%
	2年生	4	9%
	3年生	0	0%
	引率者	8	18%

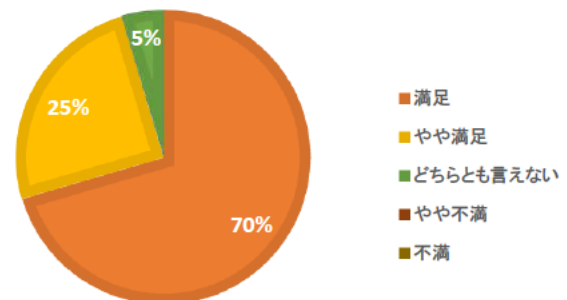
出場チームのアンケート集計結果 ②

【出場校募集～大会前日までに係るご質問】

3. 大会趣意(省エネルギーと豊かな生活を両立するライフスタイルの普及を実現する政策)は、ディベートのテーマとしていかがでしたか。

選択項目	回答数	%
満足	31	70%
やや満足	11	25%
どちらとも言えない	2	5%
やや不満	0	0%
不満	0	0%

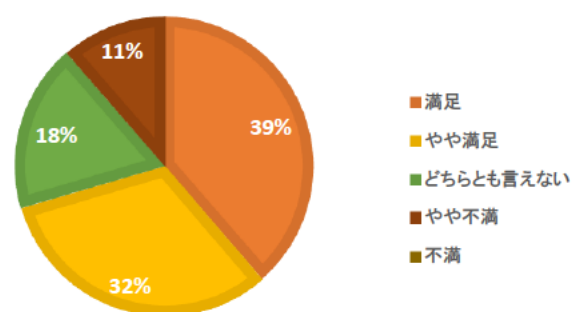
第3問



4. 政策提案型パブリック・ディベートのルールの内容はいかがでしたか。

選択項目	回答数	%
満足	17	39%
やや満足	14	32%
どちらとも言えない	8	18%
やや不満	5	11%
不満	0	0%

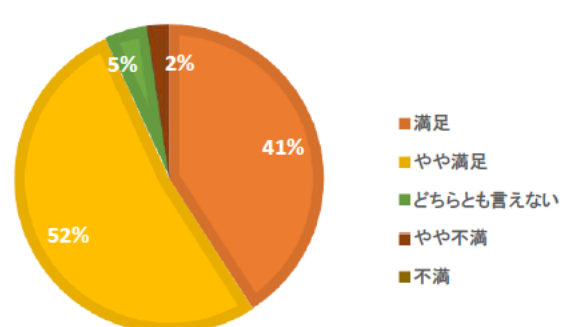
第4問



5. 政策提案型パブリック・ディベートのガイドラインの内容はいかがでしたか。

選択項目	回答数	%
満足	18	41%
やや満足	23	52%
どちらとも言えない	2	5%
やや不満	1	2%
不満	0	0%

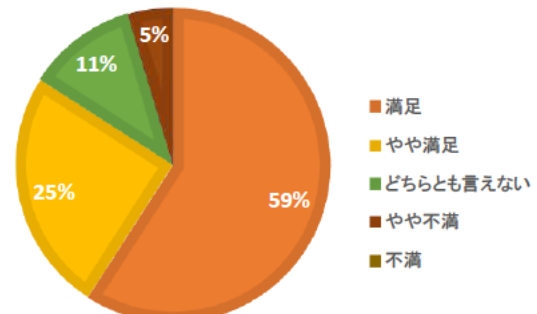
第5問



6. 政策提案型パブリック・ディベートのワークシートの内容はいかがでしたか。

選択項目	回答数	%
満足	26	59%
やや満足	11	25%
どちらとも言えない	5	11%
やや不満	2	5%
不満	0	0%

第6問



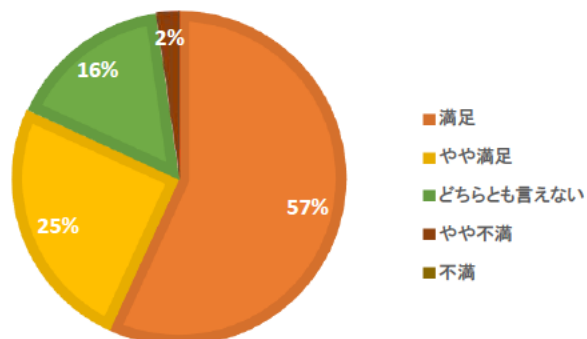
出場チームのアンケート集計結果 ③

【出場校募集～大会前日までに係るご質問】

7. 事前の学習資料(ディベートを始めるための参考資料、エネルギー関連資料等)の内容はいかがでしたか。

選択項目	回答数	%
満足	25	57%
やや満足	11	25%
どちらとも言えない	7	16%
やや不満	1	2%
不満	0	0%

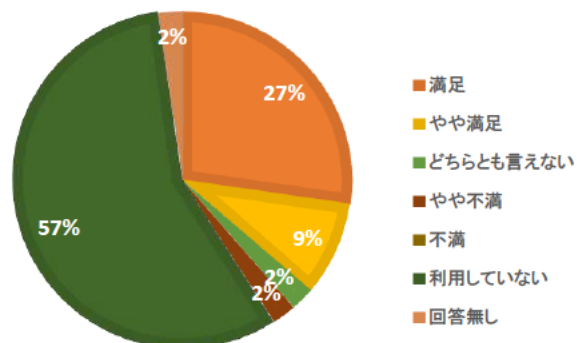
第7問



8. 省エネ無料講座の内容はいかがでしたか。

選択項目	回答数	%
満足	12	27%
やや満足	4	9%
どちらとも言えない	1	2%
やや不満	1	2%
不満	0	0%
利用していない	25	57%
回答無し	1	2%

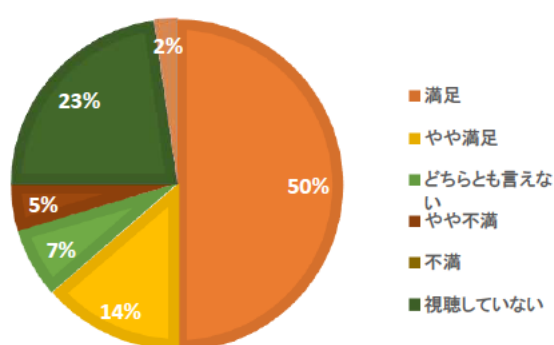
第8問



9. モデル試合(12月22日開催)に参加又は視聴していかがでしたか。

選択項目	回答数	%
満足	22	50%
やや満足	6	14%
どちらとも言えない	3	7%
やや不満	2	5%
不満	0	0%
視聴していない	10	23%
回答無し	1	2%

第9問

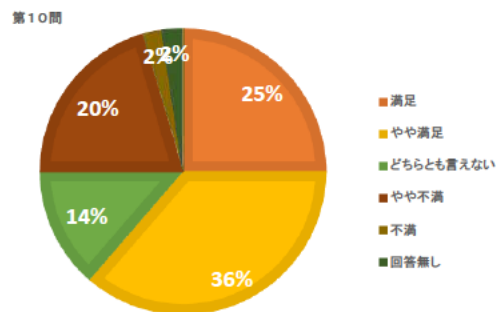


出場チームのアンケート集計結果 ④

【大会当日に係るご質問】

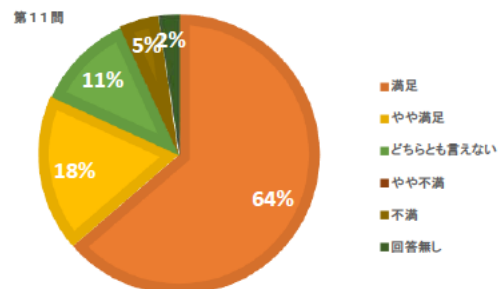
10. 大会のスケジュール(プログラム内容や時間配分等)はいかがでしたか。

選択項目	回答数	%
満足	11	25%
やや満足	16	36%
どちらとも言えない	6	14%
やや不満	9	20%
不満	1	2%
回答無し	1	2%



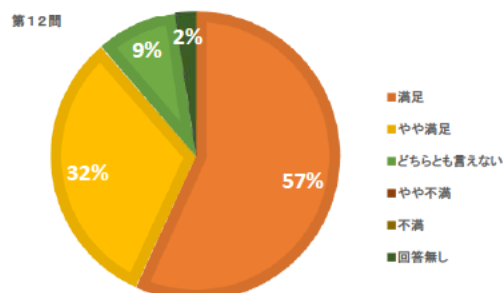
11. 審判(進行、講評、判定等)はいかがでしたか。

選択項目	回答数	%
満足	28	64%
やや満足	8	18%
どちらとも言えない	5	11%
やや不満	0	0%
不満	2	5%
回答無し	1	2%



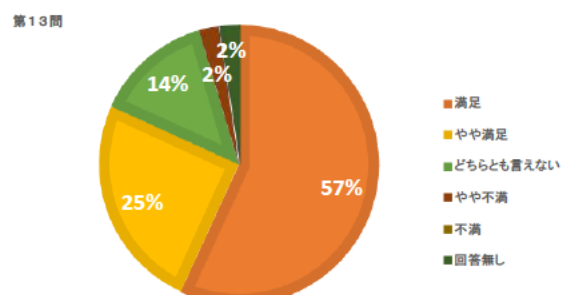
12. 決勝戦はいかがでしたか。

選択項目	回答数	%
満足	25	57%
やや満足	14	32%
どちらとも言えない	4	9%
やや不満	0	0%
不満	0	0%
回答無し	1	2%



13. 省エネワークショップはいかがでしたか。

選択項目	回答数	%
満足	25	57%
やや満足	11	25%
どちらとも言えない	6	14%
やや不満	1	2%
不満	0	0%
回答無し	1	2%

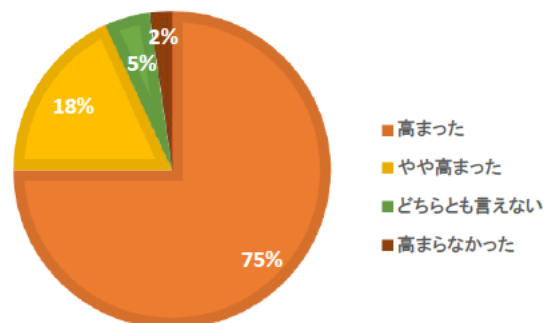


【次回の大会に向けたご質問】

14. 本大会を通してエネルギーや省エネへの関心は高まりましたか。

選択項目	回答数	%
高まった	33	75%
やや高まった	8	18%
どちらとも言えない	2	5%
高まらなかった	1	2%

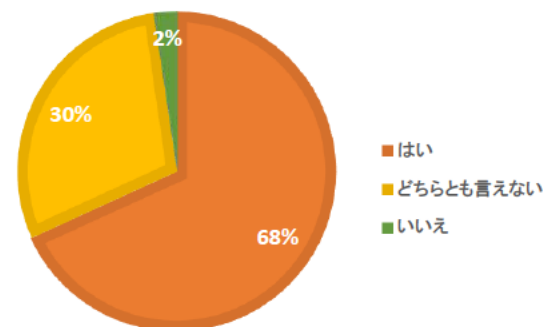
第14問



15. 次回大会にも参加したいと考えていますか。

第15問

選択項目	回答数	%
はい	30	68%
どちらとも言えない	13	30%
いいえ	1	2%



多数のご意見をいただき、誠にありがとうございました。
より良い大会の実施に向け参考とさせていただきます。

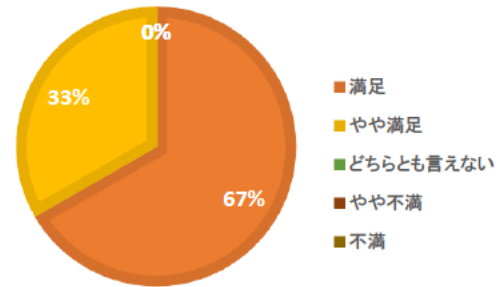
一般来場者のアンケート集計結果

第1回 省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト 一般来場者向けアンケート結果取りまとめ

1. パブリック・ディベートの試合はいかがでしたか。

選択項目	回答数	%
満足	6	67%
やや満足	3	33%
どちらとも言えない	0	0%
やや不満	0	0%
不満	0	0%

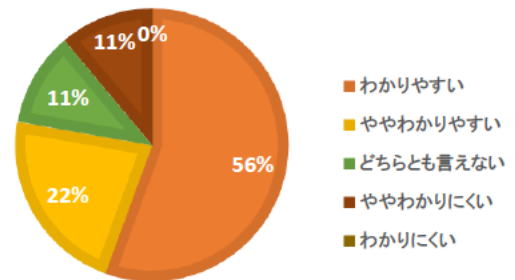
第1問



2. 各チームのスピーチは、聞き手を意識したわかりやすいものでしたか。

選択項目	回答数	%
わかりやすい	5	56%
ややわかりやすい	2	22%
どちらとも言えない	1	11%
ややわかりにくい	1	11%
わかりにくい	0	0%

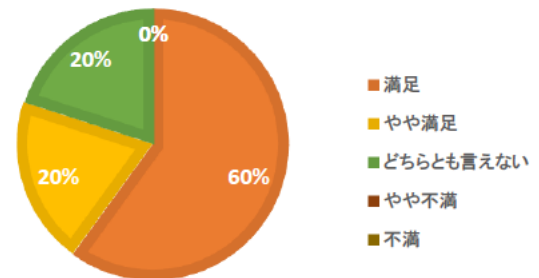
第2問



3. 「エネルギーの専門家との省エネワークショップ」はいかがでしたか。

選択項目	回答数	%
満足	3	60%
やや満足	1	20%
どちらとも言えない	1	20%
やや不満	0	0%
不満	0	0%

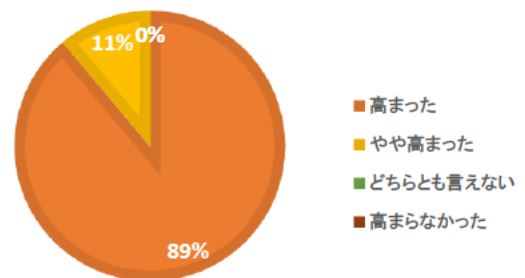
第3問



4. 本大会を通してエネルギーや省エネへの関心は高まりましたか。

選択項目	回答数	%
高まった	8	89%
やや高まった	1	11%
どちらとも言えない	0	0%
高まらなかった	0	0%

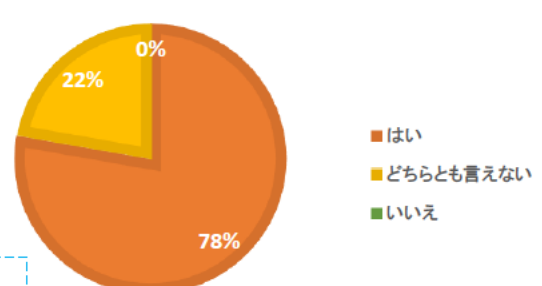
第4問



5. 次回も本大会を観戦したいですか。

選択項目	回答数	%
はい	7	78%
どちらとも言えない	2	22%
いいえ	0	0%

第5問



多数のご意見をいただき、誠にありがとうございました。
より良い大会の実施に向け参考とさせていただきます。

報 道

■2020年1月13日(月) 河北新報 朝刊 24面

※取材記事が写真とともに掲載されました。

■2020年1月17日(金) 福島民友 12面

福 島 民 友



優勝した中央台北中



準優勝のふたば未来学園中

中央台北中に栄冠

ディベート審査 ふたば未来中準優勝

東北経済産業局主催の第1回政策提案型パブリック・ディベートコンテスト中

来学園中(広野町)が準優勝した。

コンテストは環境問題への理解促進や省エネの普及啓発などを目的に12日、仙台市の東北大で開かれた。

東北各県から中学校5校、高校7校が参加、県内からは中学生の部に両校と福島大付中(2チーム)の3校から4チームが出場した。

中央台北中は家庭ごみを用いたバイオマス発電の普及や家庭用ごみ袋の事前配布の取り組み、ふたば未来学園中はペットボトルの自動販売機を減らし、マイボトルで給水できる給水型に切り替えることをそれぞれ提案した。

■2020年1月17日(金) ぜんせき 2面



政策効果や実現性も十分検討された提案が目立ったコンテスト

中高生が省エネ政策を立案し、互いに議論しながら内容を高め合うパブリック・ディベートコンテスト(東北経済産業局など主催)が

12日、仙台市で開かれ、高校の部では宮城野高(宮城)、中学の部ではいわき中央台北中(福島)が優勝した。

パブリック・ディベートコンテスト

中高生が省エネ政策議論

東北経産局

東北で初開催のコンテストには12校から14チーム、82人が出場。試合前のあいさつで東北経産局の奥村浩信(資源エネルギー環境部長)は「一次エネルギーの90%は「1次エネルギーの90%」

見交換を経て細部を修正した政策を再提案する流れ。各チームは火力発電に頼る国内の現状を十分認識したうえで、CO₂排出削減などを念頭に具体策を提案した。高校の部では、家庭内の電気使用を可視化するシステム設置支援(宮城野高)や貨物と旅客の混在輸送で運送ロスを減らす道路運送法改正(仙台一高)、バイオガス発電の原料となる残飯の回収ボックス設置(盛岡三高)などの提案があった。(仙台発)

第1回 省エネ政策提案型 パブリック・ディベートコンテスト

資 料 集

2015年12月8日・日本パブリック・ディベート協会制定
2017年11月7日 省エネ政策提案型ディベート・コンテスト実行委員会制定
2018年11月28日 パブリック・ディベートコンテスト実行委員会制定
2019年7月21日 東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会制定

政策提案型パブリック・ディベート・ルール

1 目的

政策提案型パブリック・ディベートとは、一般市民にも聴き取りやすく、理解が容易なスピーチを展開し、社会の問題を解決するための政策について討論するゲームである。

伝統的なディベートのスタイルから自由になって、このようなディベートを行うことによって、市民として資源・エネルギー・環境問題等の社会問題について考察を深め、関心を広げる場とすることを目的とする。

2 参加者と運営

- (1) チームで対戦することとし、1チームはディベーター2～10名で構成し、各ディベーターは1つの大会の予選試合において1試合は出場しなければならない。1つの試合において出場するメンバーは、スピーチ（質疑応答も含め）を最低1回は行うものとし、各ステージの担当は1名ないし2名とする。
- (2) 試合は司会者が進行し、計時係が計時する。試合は複数の審判が評価と判定を行い、審判の代表者は、試合終了後に講評を述べる。

3 政策提案と討論

(1) 社会的問題と政策提案

資源・エネルギー・環境問題等の社会的問題を取り上げ、議論する。そこでは、各チームは政策を求める問いに応じて、政府が採用すべき具体的な政策を提案し、互いに政策の質を高め合うように議論する。

(2) 討論の形式と時間

ディベートは、以下の形式及び時間によって展開する。

ステージ1	先攻チームによる政策提案	5分間
ステージ2	先攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換	5分間
ステージ3	後攻チームによる政策提案	5分間
ステージ4	後攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換	5分間
	準備時間	5分間
ステージ5	後攻チームによる論点明示と政策の再提案	5分間
ステージ6	先攻チームによる論点明示と政策の再提案	5分間

4 勝敗の判定と順位の決定

(1) ディベート経験者だけでなく、未経験者も審判として参加し、評価及び勝敗の判定を行う。

(2) 評価は、第1に試合全体を評価する試合評価、第2に試合の質を高めるための貢献度の評価ともなるチーム評価を行う。また、2つの評価による評点を合計して、その試合におけるチームの成績得点とし、その点数が高いチームの勝利とする。

- ① 試合評価は、両チームによる討論の全体を対象に、5段階で評価を行う。平均的な場合を評点3とし、優れている場合は評点4、非常に優れている場合を評点5とする。一方、劣っている場合は評点2、評点1へと減じていく。この評点を決定する観点は、以下の3つである。

ア 全体的にスピーチは聞き取りやすく、相手と対立しながらも協調して考察を深めようとする
こと

イ 両チームの議論は重要な論点に集中し、内容に広がりや深まりが認められること

ウ 両チームの議論はいずれも、具体的な根拠に支えられた結論を主張していること

試合評価の評点は、複数の審判が協議して決定する。

- ② チーム評価では、以下の3つの観点によって、政策提案を比較する。審判は、優位だと思えるチームに投票する。複数（奇数）の審判が投票し、1票を評点1として、その合計点数を当該チームの評点とする。

ア 政策提案では、理念や価値観を明確にし、実行可能で効果的な政策を具体的に提案している
こと

イ 積極的に質疑と意見交換を行い、重要な論点を指摘していること

ウ 重要な論点に応じて改善し、再提案する政策が当初のそれよりも優れていること

(3) 順位の決定

- ① 中学の部、高校の部に分かれて、対戦する。
- ② 決勝進出チームの選抜などのために順位を決定する場合は、第1に成績得点の合計数、第2に勝利数を基準とする。それでも同順位のチームがある場合は、抽選による。
- ③ 決勝戦を行う場合は、会場の観戦者の投票数により、優勝・準優勝を決める。同数の場合は、予選の成績を基準とする。それでも同じ成績である場合は、抽選による。

5 反則

本ルールに反する行為は反則とし、その程度に応じて該当チームにペナルティーを課す。

2015年12月8日・日本パブリック・ディベート協会制定

2017年11月7日 省エネ政策提案型ディベート・コンテスト実行委員会制定

2018年11月28日 パブリック・ディベートコンテスト実行委員会制定

2019年7月21日 東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会制定

政策提案型パブリック・ディベート・ガイドライン

1 目的について

これまでのディベートは、論証を重視するため、根拠を専門的文献から引用し、スピーチの量が多くなりがちであった。結果として時間内にスピーチをおさめるために早口にならざるをえない面があった。こうしたディベートは、ディベートの知識や経験のない者にとっては、聴き取ることや理解することが難しいものであった。

そこで、一般市民にも聴き取りも、理解も容易なディベートに転換したい。専門家を真似るのではなく、市民として必要な議論を行うようにしたい。専門的文献からの引用ばかりでなく、具体的な根拠（先進事例や体験事例等）を重視する。そうすることで詳細に記録しなくても、記憶に残るスピーチになると考えられる。

専門家でなくても、社会を形成する一員としての市民の立場から、理想的な社会像を描くとともに現実の状況を考慮して政府が採用すべき新たな政策を考え、議論するべきである。そうすることが、民主的な社会における市民的な実践の1つとなるからである。したがって、わたしたちも可能な範囲で具体的に政策を提案し、多様な可能性を楽しみ、未来の社会の建設に向けて積極的な議論を行うことが責務であろう。

このような市民の議論としてのパブリック・ディベートの理念を共有してほしい。そうすることによって、ディベート大会を超えて、現実的な社会的議論への積極的な参加へと向かってほしい。

2 各ステージのスピーチについて

（1）政策提案について

次のような構成が考えられる。

- ① ロードマップ……何をいくつ、どのような順序で述べるかという構成を知らせること
- ② 問題の現状分析……政策を求める問いを受けて取り上げる社会的問題の現状を分析すること
- ③ 基本的な立場……提案する政策を支える理念や価値観（理想的な社会像）を明確に述べること
- ④ 主張……具体的な根拠を示して、政府が採用すべき政策と導入理由や政策の効果を述べること
- ⑤ 内容の確認……政策提案を振り返り、重要な内容を強調すること

（2）質疑と意見交換について

次の①～③の順序で1つのまとまりとし、複数回の質疑と意見交換を行うことが考えられる。

- ① 質疑……相手チームの提案する政策について、その政策を必要とする具体的根拠や政策効果が確実に発生するか等について質問を行い、回答を得ること

- ② 意見……質問したチームが相手チームの回答に即して、建設的な改善意見を述べる
- ③ 応答……質問したチームが述べた改善意見に応じて、相手チームが応答すること。その際、相手チームは、試合全体の議論を高めるために、相手チームの意見を受け入れるか、部分的に受け入れるか、意見を受け入れないか、の3つのいずれかを選択し、その理由を述べる
- ④ 内容の確認……質疑及び意見交換を振り返り、重要な内容を強調すること

(3) 論点明示と政策の再提案について

次のような構成が考えられる。

- ① 意見交換の確認……両チームの政策についての意見交換の概要を示す
- ② 論点明示……①において明らかになった意見の違いや対立点を論点として明確に示す
- ③ 政策の再提案……重要な論点に応じて、当初の政策を改善して再び提案すること
- ④ 内容の確認……論点明示と政策再提案を振り返り、重要な内容を強調すること
- ⑤ 相手チーム及び審判、聴衆に対する謝辞

3 議論と論点について

政策提案、意見交換、政策再提案のスピーチはいずれも議論でなければならない。議論とは、何らかの根拠に基づいて結論を主張することである。根拠があってはじめて審判や聴衆は同意することができる。根拠には具体的事実（先進事例や体験事例等）や、専門家の見解、統計データ等がある。また、抽象的で論理的なルールや原理も根拠となりうる。

政策提案の場合は、自ら提案する政策を採用すべきことが結論であり、その正当化を明らかにする具体的事実や専門家の見解、統計データ、あるいは抽象的で論理的なルールや原理が根拠となる。意見交換の場合は、相手チームの政策には改善が必要であることを結論に、その正当化のための根拠を述べるのである。

論点とは、相互に提案した政策について意見交換を行うことによって、明らかになった意見の違いや対立の中心となる問題である。それは、その試合の議論の焦点となるべき重要な問題であり、自らが提案する政策を改善する指針となるものでもある。試合でとりあげた論点が不明確であったり、あるいはそれほど重要でなかったりした場合は、政策の改善は小さくなる。このような場合を避けるように、的確に論点を取り出すように努めてほしい。

4 評価と判定について

予選順位を決定する成績得点は、試合評価の評点とチーム評価の評点とを合計して得られる。たとえば、ある試合では試合評価は2点、勝利チームのチーム評価が3点で、成績得点は5点だった。一方、別の試合では試合評価が5点、敗戦チームのチーム評価が1点で、成績得点は6点となる。すると、試合評価が低い勝利チームは試合に勝っても、試合評価の高い敗戦チームよりも成績得点は低くなる。

したがって、試合評価は、対戦する両チームによって成立する試合の質的向上を強く求める。そもそも議論は、対戦する両チームの間に成立するのである。単一の議論であっても、対戦するチームの一方によってだけ成立するものではない。たとえば、相手チームによる政策提案があればこそ

意見交換ができるし、政策の改善は相手チームの意見を含み込んで可能となるのである。そのため、両チームが互いに力を引き出し、望ましい議論を展開するように、試合の質を高めるべきである。

何よりも、社会の問題を解決する政策には正解などはないことを強く自覚してほしい。どのような政策であっても、程度の違いはあるが、問題解決の効果と新たな別の問題を生むからである。すなわち、一定水準以上の複数の政策を比べるとき、いずれか1つの政策が正しいなどは断定できない。そのため、問題解決の困難と曖昧な状況に耐えながら、議論を継続することが求められるのである。

これまで述べてきたことからすれば、各チームは2つの戦略を持って試合に臨むことを期待する。第1に試合の質を高める戦略、第2に勝利を得るための戦略である。

5 表現と態度について

(1) 声の大きさや速さについて

ディベート未経験者にも好感を与えるように、聞き手（相手チーム、審判、聴衆）を強く意識しなければならない。適切な声の大きさや発音を配慮し、聞き手に向かって、目や表情でも語りかけるようにしてほしい。また、スピーチのスピードは、1分間に300～400字程度とすることが望ましい。ゆっくり話すには、内容を量的に絞り込み、構造の明確なスピーチを準備するのが前提である。

(2) 政策提案の際の掲示物について

政策提案をする時に、模造紙1枚までの大きさを用いて、イラストや図を審判や聴衆に示して説明することができる。

(3) ナンバリングとラベリングについて

内容をよりよく伝えるために、ナンバリング、ラベリングを行うようにする。前者は、スピーチの内容をいくつかに分け、その順序や数量を伝えることである。また、後者はいくつかに分けたスピーチの内容に、それぞれ見出しの言葉を付すことである。いくつかの内容があり、何番目の何についてスピーチをしているのかを明らかにし、審判や聴衆に内容を正確に受け止めてもらえるようにしたい。

(4) 質問と意見の対応関係の明示と引用について

質疑と意見交換を行う場合は、相手チームの政策のどの部分に対する質問、意見であるのかを聞き手に知らせて述べなければならない。また、相手チームの発言を部分的に引用して、質問、意見を述べるべきである。すなわち、それらの対応関係が明確であれば、質問及び意見の内容を正確に聴き取り、理解することを相手チームと審判、及び聴衆に対して期待できるのである。

また、互いの政策をすぐれたものに改善することが求められる。そのため、一方的に質問し、意見を述べるのではなく、相手チームにも十分な応答の機会を与えなければならない。

(5) マナーについて

審判はもちろんのこと、相手チーム及び聴衆を尊重し、マナーよく接するように心がけてほしい。

なぜなら、ディベートは自分一人では、あるいは自分たちのチームだけでは、できないことからである。審判、相手チーム、聴衆等の他者を欠いては、ディベート等は成り立たないのである。

(5) 対立と協調について

そもそも、「勝利至上主義」には意味がない。たとえば、伝統的なディベートには、早口で多数の議論を述べて相手チームが時間内に反論できないようにし、勝利を得ようとする戦術が認められる場合がある。相手チームからの反論がないという事実を根拠に、自らの議論を正当化するのである。そこでは、自らの議論を検証する機会を失い、それは粗雑なものにとどまる。

一方、政策提案型パブリック・ディベートでは、相互に提案する政策をすぐれたものにするため、建設的な意見交換を行うことになっている。そのため、相手チームには十分な検証の機会を与えるべきである。相手チームによる厳しい検証に耐えてこそ、誰もが認め得る議論へと成長していく。だから、数少ない重要な議論をわかりやすく述べて、相手チームにとって検証が容易になるようにしたい。

また、相手チームの議論が不十分であれば、その不足を補うように、支援する意見を述べるようにしたい。なぜなら、互いの政策提案を高めることを目的とし、この目的の達成によりよく貢献することが望ましいからである。相手チームの立場を十分に尊重し、相手チームにとっても有益な意見交換を展開するべきである。

政策提案型パブリック・ディベート・ワークシート

1 政策提案

ロードマップ	(先攻チーム・後攻チーム)として、政策提案を行います。よろしくお願いします。 第1に、政策を求める問いを受けて取り上げる社会的問題の現状分析を述べます。 第2に、その問題を解決するための政策を支える理念や価値観(理想的な社会像)を述べます。 第3に、政策とその理由を具体的に主張します。 第4に、その政策を実行することで生まれる効果について述べます。
問題の現状分析	第1に、政策を求める問いを受けて取り上げる社会的問題の現状分析を述べます。
基本的な立場	第2に、その問題を解決する政策を支える理念や価値観(理想的な社会像)を述べます。
政策	第3に、具体的に政策を主張します。その政策を名付けていうならば、()です。繰り返しますが、政策は()です。では、その内容と理由を具体的に説明します。
政策の効果	第4に、その政策を実行することで生まれる効果について述べます。
おわりの言葉	以上、問題の現状分析、基本的な立場、政策の具体と効果について述べました。これらの内容について、ご質問、ご意見をお願いします。

*実際の議論においては、たとえば、第1と第2を一緒に述べたり順番を変えたりなど、審判と聴衆に伝わりやすいように構成を工夫することができる。

2 相手チームの政策提案についての質疑と意見交換

ロードマップ

(先攻チーム・後攻チーム)として、相手チーム(先攻チーム・後攻チーム)による政策提案に対して質疑と意見交換を行います。よろしくお願いします。

第1に、政策を必要とする社会的問題の現状分析について質問し、意見を交換します。

第2に、政策提案を行う基本的な立場について質問し、意見を交換します。

第3に、政策の内容について、質問し、意見を交換します。

第4に、政策の効果について、質問し、意見を交換します。

問題の現状分析についての
質疑と意見交換

第1に、政策提案を必要とする社会的問題の現状分析について質問し、意見を交換します。先ほどの政策提案においては、

のように述べていますね。

このことについて、質問しますので、お答え下さい。

(応答を得た後)では、意見を述べます。

わたしたちの意見に対する応答をお願いします。どうぞ述べて下さい。

(応答を得て意見交換の後)

基本的な立場
についての質
疑と意見交換

第2に、政策提案を行う基本的な立場について質問し、意見を交換します。

先ほどの政策提案においては

のように述べていますね。

このことについて、質問しますので、お答え下さい。

(応答を得た後)では、意見を述べます。

わたしたちの意見に対する応答をお願いします。どうぞ述べて下さい。

(応答を得て意見交換の後)

政策について
の質疑と意見
交換

第3に、提案された政策の内容について質問し、意見を交換します。
先ほどの政策提案においては、

のように述べられていますね。

このことについて、質問しますので、お答え下さい。

(応答を得た後)では、意見を述べます。

わたしたちの意見に対する応答をお願いします。どうぞ述べて下さい。

(応答を得て意見交換の後)

政策の効果

第4に、提案された政策の効果について質問し、意見を交換します。
先ほどの政策提案においては、

のように述べられていますね。

このことについて、質問しますので、お答え下さい。

(応答を得た後)では、意見を述べます。

わたしたちの意見に対する応答をお願いします。どうぞ述べて下さい。

(応答を得て意見交換の後)

おわりの言葉

以上、問題の現状分析、基本的な立場、政策の内容、政策の効果について質疑と意見交換を行いました。これらの内容について、確認します。

以上で、政策提案に対する質疑と意見交換を終わります。

*質疑と意見交換は、現状分析、基本的立場、政策と効果の全てに必ず行う必要はない。どの項目に対して、いくつの質疑と意見交換を行うかは、内容に応じて判断する。

3 論点明示と政策の再提案

ロードマップ	(先攻チーム・後攻チーム)として、相手チーム(先攻チーム・後攻チーム)との質疑と意見交換を生かして、重要な論点の明示と政策の再提案を行います。よろしくお願いします。 第1に、先ほどの政策提案についての質疑と意見交換について振り返ります。 第2に、それに基づいて、重要な論点を明らかにします。 第3に、述べた重要な論点に応じて、当初提案した政策を見直し、再提案します。
質疑と意見交換の振り返り	第1に、質疑と意見交換について振り返ります。先ほどの政策提案についての質疑と意見交換は、次のような内容でした。特に、対立や異論に注目して述べます。
論点の明示	第2に、重要な論点について明らかにします。政策提案についての質疑と意見交換における内容からすれば、次のような対立や異論を克服することが論点になっています。
政策の再提案	第3に、重要な論点に応じて、当初提案した政策を見直し、再提案します。
内容の確認	以上、論点の明示と政策の再提案を行いました。これらの内容について、確認します。
おわりの言葉	最後に、対戦相手のチームのみなさん、審判、聴衆の方々にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

省エネ政策提案型パブリック・ディベートを始めるための参考資料

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト 高等学校決勝戦の記録（一部改変）
（平成31年1月12日（土） 福岡工業大学）

■先攻チーム マリスト学園高等学校（熊本）

■後攻チーム 慶進高等学校（山口）

【司会】先攻チームによる政策提案5分間です。では始めてください。

（1）先攻チームによる政策提案 <先攻：マリスト学園高校>（5分間）

先攻チームとして、4つの観点から政策について主張します。

第1に、政策提案を必要とする社会的論争問題の現状分析を述べます。

現在、地球温暖化が進んでいる一つの要因としてCO₂の増加が挙げられます。そのため、少しでも温暖化を抑制するために、CO₂の排出に影響する「電気の使用」を減らす必要があると考えます。

第2に、政策提案をする際に大切に捉えていること、基本的な立場について述べます。

生活の質を落とさず無駄を省くことを前提とし、個人が自ら進んで省エネについて考え、実行することができること、また、幅広い世代が省エネをすることに充実感やインセンティブをもち、省エネを身近に感じられることを大切にします。（*1）

（*1）基本的な立場をわかりやすく伝えるために、短い言葉でラベリングしたり、ナンバリングしたりすることを考えてみてください。ガイドラインの5-(3)です。

第3に、具体的な政策を主張します。

私たちは「電力可視化ここまでアプリ」という政策を提案します。

政策1 2025年より、毎月の電力使用量に上限が設けられます。月ごとの上限は、各家庭においての過去5年間の平均電力使用量になります。上限を超えた家庭は通常料金の1.2倍の電気料金を支払うことになります。（*3）上限を超えなかった人は、ポイントがもらえます。1ポイントは1円の価値があります。このポイントは、公共交通機関の利用時や省エネ家電購入時に使用することができます。上限から0.8%の削減で800ポイントもらうことが出来ます。つまり削減率1%の時は1000ポイント、1.6%の時は1600ポイントというように、削減率とポイントが対応していきます。ただし、削減率0.8%に満たない場合、ポイントはもらえません。では、上限が570kWの家庭を例にあげます。この家庭で0.8%削減するには、一か月でエアコンを5時間使わないようにする必要があります。

政策2 政策1を実行するために家庭の電気使用量を「見える化」します。みなさん、スマートメーターをご存知ですか？スマートメーターとは電力使用量を計測する機械のことです。計測されたデータは30分ごとに電力会社に送られます。スマートメーターは2025年までに100%普及すると言われています。そこでスマートメーターとスマートフォンのアプリを連動して電力使用量を見ることができるようになります。また、政策1で述べたポイント

はこのアプリ内にたまります。こちらの紙をご覧ください。アプリをインストールするとスマートフォンのホーム画面で電力使用量が確認できるようになります。このように電力使用量のグラフが表示され、スクロールで月ごと、週ごと、その日の電力使用量を確認することができます。例えば、月の上限が30kWだとしたら一か月は30日なので1日の使用量の目安は約1kWです。このラインが1日の使用量の目安です。このラインを超えていた場合、そのまま電力を使っていると月の上限を超えてしまい、追加料金を払わないといけなくなるので、節電を心掛けるようになります。逆にこのラインを超えていなかった場合は、節電ができていることを確認できます。

政策3 政策1, 政策2はスマートメーターが100%普及する2025年から開始しますが、普及段階である2020年から2025年までの間、スマートメーターを設置した家庭では、アプリをインストールして「見える化」のみ開始することができます。アプリを使用した人の意見を踏まえて2025年までの間に使いやすくより良いものにしていきます。以上です。ただし、この政策は家庭を対象とし、企業は含みません。

第4に、政策による効果を述べます。

① 見える化の効果

電力使用量の見える化は省エネに大きく貢献します。見える化サービス「me-eco」により節電にチャレンジした際には、多くの世帯で大幅な電力削減を実現しました。(※2)

(※2)「多くの」、「大幅な」というような修飾の言葉は、具体的な裏付けがないと、審判や聴衆には伝わりにくいものです。どのようにしたら伝わるかを考えてみてください。

見える→意識する→行動するというサイクルが、家庭内での省エネの取り組みにつながります。見える化は節電を促すためには最適であり、同時に省エネを習慣化します。

② 使用量上限の効果

使用量に上限を設けることで超えないようにしようという意識付けと電力の削減率が上がるほどポイントを得ることができるというインセンティブから、アプリをよく確認するようになり、習慣化されます。アプリと共に充実感を持って省エネができます。

③ CO2 削減

日本は、2050年までに電力使用量を2016年より20%削減を目指しています。この削減量は、総務省と経済産業省のデータをもとに日本総研が打ち出しました。私たちの政策を導入することにより、各家庭で毎月0.8%以上の電力使用量削減が見込まれます。毎月0.8%削減すると、日本が2050年までに目指す20%削減という目標を達成することができます。それは、二酸化炭素1280万kgの削減量に相当します。よってこの政策は導入すべきです。この後、ご意見やご質問をいただきます。よろしくお願いします。

<タイマーの音>

【司会】続いて、先攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換のステージです。それぞれのチームのスタンドマイクを持ってきて発言される方は前に出てください。準備はよろしいでしょうか。それでは始めてください。

(2) 先攻チーム（マリスト）の提案する政策についての質疑と意見交換（5分間）

【後攻】「お願いします」

【先攻】「お願いします」

【後攻】「じゃあまず流れの方から確認していきます。まず今回制度は4つに分かれていて、社会的問題としてCO2の増加が挙げられると、そのために電気の使用料を減らしていくと。で、二番目にその立場としてその質を下げずにそのインセンティブをもって、エコをしていくと。まあ具体的に言うとそのアプリによって可視化しつつ、電気の上限を超えたら電気料金が1.2倍になると。で、プラスアルファ、スマートメーターによって、もっと見える化してやってその効果として20%削減という目標に向けてやっていくんだ、という話でよかったですね？」

【先攻】「はい。」

【後攻】「じゃあまず具体的な話に政策のどこについても聞いていくんですけど、電気の上限を超えたら1.2倍になるって話があったんですけど、それは各5年間のデータを集計して上限を定めるっていうことでよかったんですよね？」（*3）

（*3）相手の政策の引用を明確にしてください。たとえば、政策1で「上限は、各家庭においての過去5年間の平均電力使用量になります。」と述べていますね。それをもう一度説明してください、など。

【先攻】「はい。上限は各5年間の、各家庭それぞれ電力使用量って違うじゃないですか、その各家庭の各5年間の1か月の平均がまず上限となって、それを超えてしまったら、通常料金の1.2倍になる。」

【後攻】「それは月ごとにやっぱり冬とか夏場は上限が上がるということですか？」

【先攻】「例えば、12月であつたら、過去五年間の12月の使用量の平均が上限となります。」

【後攻】「はい、じゃあこの政策が導入されて時間が経っていったって、例えばそういうときって上限って変わっていくんですかね？」

【先攻】「変わっていきますね。」

【後攻】「それは前年5年を毎年比べるということですか？」

【先攻】「そうですね、前年5年を平均してやっていきます。」

【後攻】「はい、わかりました。じゃあ時間が経つと凄く長期的な視点になるんですけど、例えばエコしつつくしていったってどんどんパーセンテージを絞るのが厳しくなっていくたりするかもしれないと思うんですけど、そこら辺はどうですか？」

【先攻】「生活が苦しくなるほど省エネをして欲しいとかじゃなくて、今まで省エネを心がけていなかった人が、これをしたら上限がありますからそれを超えたら1.2倍払わなければいけない。もし0.8%削減したらポイントがもらえる。こういうインセンティブによって削減しようという意識が高まっていく。それを今まで意識していなかった人の意識が高まっていったって、そういう人たちが省エネすることで電力の使用量が下がってCO2が下がっていく、そこが狙いなので、別にキツキツの状況で生活してほしいとかそういうわけではないです。ただそこまでは大丈夫だと思います。」

【後攻】「例えばの話をするんですけど、政策の施行から10年経ったとして、その前から5年ってエコをしてきた5年じゃないですか。だから上限ってどんどん厳しくなっていって、やっぱり毎年毎年何%下げていくっていうのってちょっと…」(*4)

(*4) 政策の効果についてのするどい質問で、かみあったやりとりになっています。ただし、先攻チームも、効果の①で「見える化」で短期的に、「多くの世帯で大幅な電力削減があった」ということを具体的に述べていれば、よりかみあったやりとりになった可能性があります。長期的に見るか短期的に見るかという政策の射程が浮き彫りになったかもしれません。

【先攻】「なるほど。一応対処後の効果の見込みとして、今まで何も省エネに対して意識がなくて、いやもう自分の生きている世界がよければいいじゃないか、って思っている人がこの政策を導入することによってポイントがもらえたりとか、超えてしまったら払わないといけないということで、省エネに対して意識が上がるということは、たぶん結構効果が得られると思うんですけど、」(*5) 確かに今まで省エネをしてきた方々に対しては、これ以上の省エネを今からこっちが要求していくというのはちょっと確かに考えていなかったのも、そちらは検討させていただきます。ありがとうございます。」

(*5) ここで、「たぶん結構効果が得られると思うんですけど」というところを、具体的に示すことを考えてください。短期的にこの政策で効果が得られるということを強調するのが先攻チームの役割になります。

【後攻】「じゃあすみません、この見える化やこのこと自体が家庭のみということになっていましたが間違ってたんじゃないでしょうか？」

【先攻】「まず、家庭で習慣化することによって、見える化によって、家庭レベルで個々の人々一人ひとりが省エネに意識をもって、それが習慣化されて、そういう人たちが企業とかに行ったりしますので習慣化されていったら、それも自然と省エネするようになるっていう感じですね。」

【後攻】「わかりました。でもやっぱり企業とか学校とかでもそうですね。学校ならエアコンの温度をちょっと下げてやろうとか思う人も夏はいると思うんですけど、やっぱり企業とか学校とかにもあった方がいいんじゃないかと思います。」

【先攻】「検討させていただきます。ありがとうございました。」(*6)

(*6) ここで先攻チームは、「検討させていただきます」といって、後攻チームの意見を受け入れています。しかし、のちの政策の再提案で、先攻チームは、「ただ、私たちはこのパブリック・ディベートの論題、つまり個人や家庭レベルの生活の在り方をもとに、という点から最初は企業は取り組まなくていいかなという風に考えていたんですけど、」と述べています。政策の問いを受けて政策を考えている以上、相手チームの言ったことがかみあっていなければ、受け入れない、もしくは、部分的に受け入れる、という判断もできます。

【後攻】「ありがとうございました。」

<タイマーの音>

【司会】では続いて後攻チームによる政策提案のステージです。発言をされる方は前に出て

きてください。準備はよろしいでしょうか。では始めてください。

(3) 後攻チームによる政策提案 <後攻：慶進高校> (5分間)

今から、後攻チームとして政策提案を行います。よろしくお願いします。

第1にありたいライフスタイル、第2に具体的な政策提案、第3にその政策がもたらす効果とその重要性について述べます。

第1に、ありたいライフスタイルは、「丁度いい生産・丁度いい消費の社会」です。

まず、今回は生活必需品である「服」について焦点を当てて考えます。みなさんが買っている服の裏側では、大量の廃棄がなされているのをご存知でしょうか？NHK クローズアップ現代の資料によると、年間約14億点もの服が廃棄されています。この数字は、全体の約半分と、大変無駄です。これを簡単に言い換えると、あなたが1枚のTシャツを買ったとき、同時に新品のTシャツを一枚捨てて、捨てた分の生産と処分にかかる費用はもちろんあなたが負担しているのです。また、経済産業省の資料より、14億点という服の量を石油量に換算すると、100億リットル、石油の金額にして4,000億円です。しかも、この量の服を、また石油を使って燃やしているのです。この石油やお金の浪費は、省エネを必要とする現代の流れを逆行しています。

そこで、第2にこれらの問題を解決するために「服の受注生産化」を提案します。

2点に分けて説明します。1点目、服の受注生産品を増やすために、今の生産体制のままでは受注生産を増やせないなので、「新しく各個人に合わせて生産できる服の3Dプリンターの導入を国が補助」します。服の3Dプリンターとは、現在開発されている新しい技術です。店の端末やパソコン・スマホから、お店の提供するデザインを選んで注文し、3Dプリンターが自動で服を製作して、購入者のもとにお届けするものです。この3Dプリンターとは皆さんが思い浮かべるような合成樹脂を使って立体的にモノを作り出すようなものではなく、糸や生地から機械が自動で作り出す新しい技術です。現在でも、有名ブランドのシャネルやアマゾンが実際に開発・生産しています。（＊7）

2点目、国民に受注生産品を選んで貰うために「大量生産された服に課税」します。発想としては環境によくないもの、すなわちエネルギーと資源を無駄に使う大量生産品を、酒・タバコのような嗜好品と同じ位置づけにする感覚です。課税は、同じ品質の大量生産品と受注生産品が、同じ価格になるようにします。

まとめに、受注生産品が普及するまでの過程を説明します。プランを導入します。3Dプリンターの導入を補助し、大量生産品に課税をします。そうすると、余計な課税を嫌う消費者は、受注生産品を選ぶようになります。また、同じ価格なら、自分にあったサイズを選べる受注生産品の方が優れているので、一定数の人は、受注生産品を選んでくれます。そうして大量生産品の需要が減っていくと、現状の「たくさん作って利潤を最大化」する生産は立ち行かなくなり、企業も例えば、新しい工場を作るときには3Dプリンターを設置して、受注生産が徐々に普及していきます。

第3に、その政策がもたらす効果と重要性について述べます。

まず、国民へのメリットについて。例えば、服の3Dプリンターを導入すれば、生産過程

は自動化され、工場での人件費がかかりませんから、いままで服を買うときに払っていた、生産にかかる人件費と廃棄される服分のコストがなくなります。3D プリンターを導入するコストを考えても、現行の価格よりも服の値段はむしろ安くなるかもしれません。しかも、受注生産なら、自分にあったサイズや色を注文できます。（＊7）

次に、この政策の効果について。具体的な政策提案の2点目で述べたように、服の廃棄が徐々に減っていきます。大量生産を禁止するわけではないので、この廃棄すべてが無くなるとは考えていませんが、大部分は減り、ほぼ100億リットルの石油の無駄遣いを抑止できます。最後に、この政策の重要性について。現代のエネルギー問題は、石油資源があと50年で枯渇すると言われているように、小手先の省エネ政策では不十分だと考えています。そこで、本当に私たちが行いたいのは、「大量生産・大量消費・大量廃棄」を「豊かでよしとする意識」の改革です。服の受注生産化は、あくまで一手段に過ぎません。大量廃棄は、服以外でも行われているでしょう。この意識改革が、服以外にも広まり、省エネが行われる世界を、この政策によって作ろうと考えています。

以上で終わります。ありがとうございました。

<タイマーの音>

【司会】では続いて、後攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換のステージです。各チームのスタンドマイクを持ってきて発言される方は前に出てください。準備はよろしいでしょうか。では始めてください。

（4）後攻チーム（慶進）の提案する政策についての質疑と意見交換

【先攻】「はい、始めます。お願いします。」

【後攻】「よろしくお願いします。」

【先攻】「まず第一部のところで今服が大量に捨てられているという話がありましたよね。これって何ですか？」

【後攻】「今、たくさん作ることによって、服を買おうとしたときに絶対に在庫があるよっていう状況を企業がつくって、それによって服を企業がたくさん売れるようにしているっていう現状があるんですね。だからそのたくさんつくって一番利益が上がるという均衡を今大量消費大量生産のこの社会ではその均衡を保ってたんですけどその均衡っていうのがすごく裏側ですごく廃棄を生んでいるよねという。」

【先攻】「では新品の洋服が大量に捨てられているということで よろしいでしょうか？」

【後攻】「はい、そうですことです。」

【先攻】「ではその洋服ってそもそも何から作られているんですか？」

【後攻】「洋服自体は綿だったり…。プラスチックも石油から作られるようにですね。」

【先攻】「洋服って石油から作られているんですか？」

【後攻】「そういう繊維製品も…」

【先攻】「そういうものもあるということですね。ありがとうございます。重要性の話で、効果の話ですかね、最終的に100億リットルくらいにしていけるんじゃないかっていうよ

うな話でしたよね。その 100 億リットルってどうして 100 億リットルになったんですか？」

【後攻】「最初の 14 億点っていう服の話が合って、プラス経済産業省の資料で服一着を作るときに大体 7 リットルの原油が必要になるという資料があったので、そこから 14×7 で 98 だからざっと計算して 100 億リットルくらいなんじゃないかなと計算しました。」

【先攻】「じゃあそれから増えたり減ったりとかはしますね？」

【後攻】「まあ 100 億リットル全てがなくなるというのは、確かにきついと思います。」

【先攻】「わかりました。第 2 のところの 2 点目のところで、普通の受注生産じゃない洋服には課税をするという話がありましたよね？ということは今まで通りの普通のこういう洋服も売っていく、ということですか？」

【後攻】「まあそれをゼロにするとは考えています。」

【先攻】「それはなんでこれからも売っていくんですか？」

【後攻】「例えば、この受注生産というのは自分が注文してから作って配達時間がかかりますから時間がかかるんですよ。でも突然服が必要になるときとかもあると思うので、そこは環境にはよくないけど、酒・たばこみたいな嗜好品としての位置づけにして、残していこうということです。」

【先攻】「そこで一つ提案なんですけど、今まで捨てている分をとっておいてその分をそこに使って、これから先普通の洋服というものを作らずに、受注生産だけでしていく。それで、でも時間がかかってしまうからその問題は今まで大量に作っていた洋服でカバーする、というのはどうですか？」

【後攻】「貴重なご意見ありがとうございます。確かに政策を導入した時点での事とか、考えていなかったので再提案の方でもっと詳しく考察します。」

【先攻】「お願いします。同じ点なんですけど、大量生産の品に課税をするという話でしたよね。その課税をする案というのも素晴らしいのですがそもそも生産量を減らすということは物理的に無理なことなんですか？」

【後攻】「企業に呼び掛けて生産量を減らしてもらっていくのも一つの手だと思うんですけど、さっきの冒頭でもあったように、利潤の最大化のために定まってきた均衡を、国として廃棄を減らすことを促進してあげるのが、今回の政策の目的です。」

【先攻】「はい。では利潤という話もあったんですけど、洋服を作る会社っていうのは 3D プリンターっていうものは全体的に、徐々に始めていくという形でしたよね？」

【後攻】「はい。」

【先攻】「それが最終的には全部に浸透することですか？」

【後攻】「最終的には全部やるのが目標です。」

【先攻】「わかりました。その 3D プリンターって大体いくらくらいするかわかりますか？」

【後攻】「現状の 3D プリンターで言うと安いもので 8 万円、高いものでも 20 万円くらいになっていて、これからもっと 3D プリンターが普及していけばもっと大量消費大量生産みたいな考え方になるんですけど、たくさん作ったら安くなるんで…」

【先攻】「その 8 万円とか、高いものならもっとすると思うんですけど、それっていうのは店がそれに対して 3D プリンターを取り入れたくなるような、例えば、それを取り入れたお

店には何かあげるとか、特典を付けてみてはどうですか？」

【後攻】「すごく貴重なご意見をまたありがとうございます。確かにその今作っている服の分コストも浮くけど、プラスアルファで何かあれば企業としてもうれしいので、確かにそれの方が促進していくと思います。」

【先攻】「ありがとうございました。」

【後攻】「ありがとうございました。」

（＊７）質問は、「その政策を必要とする具体的な根拠や政策効果が確実に発生するか等について質問を行い、回答を得ること」です。

この「服の受注生産化」についての具体的な根拠は、「現在でも、有名ブランドのシャネルやアマゾンが実際に開発・生産しています。」という点にあります。相手の政策の裏付けとなる根拠に目を向けてください。たとえば、アマゾンは、どういうふうに関係や生産をして、どのくらいの数の服をそれで扱っているのですか、という質問が考えられます。

また、メリットに「受注生産なら、自分にあったサイズや色を注文できます。」とあります。これは、本当でしょうか？学生服のようなあるデザインが固定したものであれば、この政策はかみあうと思いますが、デザインが複雑になった時に自分の好みのサイズや色をどのように伝えて、それを反映することがどれだけできるのでしょうか。そうした質問をすれば、それに答える責任が相手チームにあります。自分の服がそうなったら、と想像をめぐらせて具体的に考えてみてください。

<タイマーの音>～スピーチ時間終了～

【司会】では続いて両チームの準備時間5分に入ります。

<タイマーの音>

【司会】準備時間後はスピーチする順番が今度は逆になって、最初に後攻チーム慶進高校Bチームによる論点明示と政策の再提案のステージになります。準備はよろしいでしょうか。では始めてください。

（５）後攻チームによる論点明示の政策の再提案 <後攻：慶進高校>

では、これから相手による質疑と意見交換を通して、重要な論点の明示と政策の再提案をしていきたいと思います。よろしくお願いします。

では、今回の質疑と意見交換のところを振り返っていききたいと思うんですけども、まず在庫廃棄するとあったんですけどそもそもなぜ大量生産するんですか？という話とか、そこから派生して洋服は何から作られているのか？とか、百億リットルとあるんだけど、どういう計算ですか？とか、そのあとの服の受注生産化というものがあるんだけど、3Dプリンターを導入というものは一気にじゃなくてだんだんなのか？という話とか、そもそも今大量生産でいっぱい残っているものがあるという話をしたんですけど、それをいや回せばいいんじゃないか、みたいな話があったと思います。

で、2点目の大量生産された服に課税というところで、今まで通りの服を売っていくんで

すか？とか、生産量を減らすことは無理なのか？とか、いう話があったと思います。その中から私たちが重要な論点だと思ったところは、特典を付けた方がいいのではないですか？というところと、残っているものを回す、というところ。では、その話をしていきたいと思うんですけども、プランの服の3Dプリンターの導入を国が補助とあるんですが、その補足で3Dプリンターの導入、つまり受注生産式にした企業には、法人税を減税にしたいと思います。特典として。

で、もう一つが残っているものの話があったので1,2と政策を提案したんですけど、3点目として今現在の残っているものを回す、というのを付けたいと思います。私たちが思い描いているビジョンとはどんなものなのか。そしてそれがどんな風に発生するのか。そしてそれをするによってどんな良いことがあるのか、というところを話していきたいと思います。

まず、私たちが目指している世の中は、今現在のような多くの無駄を出してしまうこの大量生産・大量消費ではなくて、ちょうどいい生産・ちょうどいい消費、にしようというものなんですね。ではそれがどうやったら発生していくのか、そこについてお話していきます。

まず3Dプリンターの導入を国が補助しますよね。そして大量生産品に課税します。消費者の方はたぶん課税が来たら「うわあー課税か、困ったな嫌だな」と思って受注生産品を選びますよね。さらに自分に合ったサイズを選べるんだったら「それは受注生産品しかないだろう。」という話になると思います。また、一定数の人には効果はあると思っていますので、確実に発生することなんですね。そのうちだんだん大量生産品の需要が減っていきますので、そうすると現在のたくさん作って利潤を最大化するという生産方法は立ち行かなくなるんですよ。企業も例えば新しい工場作っとけば、もうこういう時代が来ているわけだから、3Dプリンターを導入しようという風に、どんどん転換していくと思いませんか？思いますよね。受注生産品が徐々に普及していけば、私たちが目指しているプラン、ありたいライフスタイルにどんどん近づいていく。そういう点で実現可能性は非常にあると思っています。

効果の話をしましょう。人件費とかがいらないわけですから、服はもちろん安くなると思います。また自分に合ったサイズや色を注文できるってとってもワクワクしませんか？自分の好きな服を着て、それでも無駄はなくなる。そんな素晴らしい世界はないと思います。そして100億リットルの石油もなくなりますよね。でこの100億リットルなんですけども、先ほどのお話で聞いたのが、今なんか第5次エネルギー計画というのがあって5300万キロリットルを削減するみたいで、で100億リットルってのは変換すると1000万キロリットルじゃないですか、ということは5分の1なわけですよ。5分の1もそれを減らせるというのはなかなか効果ありじゃないですか。経済産業省の皆さん。どうでしょうか？

重要性なんですけども、私たちは「大量生産・大量消費・大量廃棄で豊かです」という意識の改革をしたいんですよ。恵方巻、クリスマスケーキいろんなものを大量生産して無駄になってます。それをなくしましょう。（＊8）

（＊8）最後の恵方巻、クリスマスケーキの発言は、審判や聴衆にどのように伝わるかは幅があります。服の話をずっとしておいて、最後に別の例をだすのはフェアではないという考える人もいますし、逆に、理念を具体的に強調したととらえる人もいます。明確に自分の

主張を伝えられるように考えてみてください。

<タイマーの音>

【司会】では最後に先攻チームによる論点明示と政策の再提案です。準備はよろしいでしょうか。では始めてください。

(6) 先攻チームによる論点明示と政策の再提案 <先攻：マリスト高校>

始めます。まず、私たちの先攻チームの立論を見てください。先ほどの意見交換の際に私たちが重要だと思った点は2点です。

1点目から言っていきます。まず1点目です。まず政策の1を見てください。私たちが政策1で言ったことってというのは、各5年間の1家庭の1か月の平均をその次の上限ラインにしようということでは言いました。でその際に相手側さんから「ラインって徐々に下がっていくじゃないか、これってめちゃくちゃきつくな生活になるんじゃない？」っていう話がありました。省エネ意識がない人じゃなくて今まさに省エネをしている人は、このラインを設けることにより大変な生活になっていくんじゃないかという話がありました。

まず、きつきつになるんじゃないかという話についてなんですが、これは先ほども話したように各5年間のデータを平均した値ですから、今までの生活水準っていうものは落ちないと考えられます。

そして、今まさに省エネをしている人が今後どうなっていくか、その上で0.8%もというのはまあ確かにそれはさすがにきついなというように思いましたので、そこについて、再提案をまず1つします。その再提案というものは、今までは一か月の上限ラインを0.8%以上上げた人たちにはポイントという風にしていたのですが、そしたらその今まで省エネしてた人たちが、今まで以上に0.8%もしないとポイントがもらえないという社会になっているので、それを一年間ずっとそのラインを越えなかった人には5000ポイントっていうものをプレゼントする、という政策を新たに付け加えます。そのことによって、0.8%を必ずしも超えないとポイントがもらえないというわけではなくて1年間頑張れば、5000ポイントもらえて、それについてまたインセンティブが加わって、今まで通り頑張っている人にはプラスマイナスゼロだけど頑張ろうと思った人にはポイントがもらえる。そして、1ヵ月さぼっちゃったなっていう人には、ちょっとマイナスな課税というか罰則が起きると。これによって、よりインセンティブというものが発生すると考えられます。

次に2点目です。2点目は政策全体に、企業や小学校にも導入したらどうかという話でした。ただ、私たちはこのパブリック・ディベートの論題、つまり個人や家庭レベルの生活の在り方をもとに、という点から最初は企業は取り組まなくていいかなという風に考えていたんですけど、(前掲、*6)まあ確かにどんどんこの政策、「電力可視化ここまでアプリ」というものを個人レベルで導入していくと、それが皆普通の世界になっていく。そうしたら、その上で小学校とか企業とかにこの政策を導入すればいいかなと思います。

なので、ここも再提案なんですけど、ただ、企業とかって前年度と今年度で生産量の違いとかもあって、そこに上限を加えることはさすがにきついだろう。ということは私たちが効

果 1 でも述べている通り、見える化でも効果があるんだ。じゃあ見える化だけでもいいんじゃない？という風になって企業には 2, 3 年後家庭レベルっていうものが徐々に広まった上で見える化だけを導入してみる。まあモニターなどをつけてですね。そうすることによって社会全体が消費者に対して意識が上がっていくという社会が実現すると思います。

最後に、私たちの主張というものをまとめていきます。

政策 3 を見てください。2020 年から 2025 年までのその 5 年間で、スマートメーターを設置した家庭ではアプリをインストールすることができて、電力使用量が見える化される。そして徐々に改善していこうという話ですね、5 年間で。次に政策 1, 2 を見てください。2025 年にはスマートメーターが 100% 普及するんですね。じゃあここで電力使用量に上限を加えることによって、それよりも 0.8% 以上抑えることができたらか、先ほども再提案したようなこととか、超えてしまったら 1.2 倍、こういったことをすることによってよりインセンティブが働き、より抑えよう抑えようとする気持ちが生まれてきますよね。そうすることによって皆が省エネに対して意識が向上するという素晴らしい社会になっていくんですよ。で、これが過去 5 年間のデータを基にした平均なので、全然きつくない。普通にいつも通りの生活をしていたら、普通に下がっていくんだよと。でも頑張った分だけはやっぱりご褒美をあげないといけないから、ちょっとポイントをあげようじゃないかという話でした。

では最後に、私たちの第 2 の主張を見てほしいんですけど、生活の質を落とさないこと、個人が自ら進んですること実行することができること、省エネが身近に感じられること、この 3 点について私たちはこの今後の世界においてこの 3 点がそろうのがまさにありたいライフスタイルだと考えます。(* 9) じゃあその上で、一番どちらの政策を取り入れるべきなのかというのを、判断してください。以上です。

(* 9) 先攻チームの政策提案において、はじめに、基本的な立場を、この 3 点だと明確にのべておいて、政策の内容との関連を示しておく、政策の内容を審判や聴衆により伝えられた可能性があります。

<タイマーの音>

【司会】両チームのみなさん、白熱した議論をありがとうございました。それではただいまから、観客のみなさんの投票タイムに入ります。

よくあるご質問への回答 ①

《20191225版》

◎よくあるご質問への回答(政策提案型パブリック・ディベートコンテスト)

番号	質問	回答
1	中学生・高校生の混合チームで出場することは可能ですか。	可能です。ただし、その場合出場できるのは高校の部ののみとなります。
2	8人チームで出場し、第1試合で4人、第2試合で残りの4人がスピーチをしようと考えていますが、第1試合(又は第2試合)でスピーチをしない選手も、準備時間中の話合いに参加させたいため、第1試合(又は第2試合)の選手席に座ることは可能ですか。	可能です。試合の始まる前に出場者リスト(選手席に座るメンバーとそのうち各ステージのスピーチ担当者等を記載した名簿)を提出してもらうので、そのリストに記載がある者は選手席に座ることが可能です。 なお、ルール2(1)に記載のとおり、選手は、予選試合において、最低1回はスピーチ(質疑応答含む)を行わなければなりません。
3	対戦チームが似た内容の政策提案をした場合でも試合は成立しますか。	政策提案型パブリック・ディベートは、ルール4(2)②チーム評価の観点に記載のとおり、「ア政策提案」の他に「イ質疑・意見交換」や「ウ再提案する政策の改善度合い」もチーム評価の対象としています。よって政策提案以外のステージにおける討論によって評価に差が出ることから、似た内容の政策提案だとしても、試合は成立します。 また相手との細かな違いを見つけ出し、質疑・意見を交わすことで、より質の高い討論になると考えています。
4	試合毎に政策の提案内容を変えることは可能ですか。	可能です。もちろん全試合同じ提案内容でも構いません。
5	ガイドライン5(2)で政策提案時の掲示物は、「模造紙1枚まで」の大きさがありますが、どのくらいのサイズになるのでしょうか。	「模造紙1枚まで」とは「一人で持てるサイズの模造紙1枚まで」になります。
6	スピーチの際に、パワーポイント(PC)を活用することは可能でしょうか。	パワーポイント(PC)の活用は認められません。ただし、パワーポイントのスライドを紙に印刷して掲示物(一人で持てるサイズの模造紙1枚)としてスピーチの際に活用することは可能です。
7	スピーチの際に、持ち込んではいけないものはありますか。	携帯電話(スマートフォン含む)・スマートウォッチ・パソコン等の通信機能があるものは、持ち込んではいけません。
8	政策提案型パブリック・ディベート・ワークシートについては事前提出が必要ですか？	事前提出は不要です。各学校の事前準備の際に御活用下さい。
9	1つの学校から2チームのエントリーも可能ですか。	2チームのエントリーも可能です。
10	大会申込み後に参加できなくなったり、新たに参加を希望する生徒がいた場合、出場選手のエントリー変更は可能ですか。	出場選手のエントリー変更は可能です。出場選手の最終確認は、大会当日の受付で行いますので、出場選手に変更(追加や欠席等)があった場合には受付の際にお知らせ下さい。

11	選手がスピーチをしている時に、そのステージを担当する選手以外の方が、スピーチをしている選手に対し、口頭でアドバイスを送っても良いでしょうか。	そのステージを担当する選手以外の方が、選手がスピーチをしているときに、口頭でアドバイスを送ることはできません。各ステージは、それを担当する生徒1～2名に任されます。ただし、アドバイスの内容を紙に書いて選手に渡すことについては、禁止されてはいません。しかし、スピーチしている最中にアドバイスの紙を見ると、選手が、かえってスピーチに混乱する場合もあることに留意してください。
----	---	--

令和元年度

第1回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）

出場校募集要項

中学生・高校生を対象とする標記コンテストを下記のとおり開催します。このコンテストは、2チームのディベーターが、互いの政策提案を磨き合うことを通して、省エネを促進させたこれからの社会の在り方を審判や聴衆とともに考えるものです。ついては、出場校を募集しますので、御案内を申し上げます。多数の御参加をお待ちしております。

記

テーマ 大会趣意に明示（裏面参照）

主催 東北経済産業局 東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会

協力 全国教室ディベート連盟東北支部 一般財団法人省エネルギーセンター東北支部

後援(予定) 青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県・仙台市教育委員会

日時 令和2（2020）年1月12日（日）10:30～16:30 （※10:00受付開始）

会場 東北大学川内北キャンパスC棟

日程

10:30	開会（挨拶・試合組合発表・諸注意）
11:00	予選第1試合（試合は政策提案型パブリック・ディベート・ルールによる）
12:05	昼食・準備
12:45	予選第2試合
14:05	予選成績発表
14:20	決勝戦（高等学校の部のみ）
15:20	エネルギーの専門家との省エネトークセッション
16:05	決勝戦結果発表・表彰式
16:30	閉会（挨拶）

出場校 主として東北地域の中学校と高等学校、合計10チーム程度（先着順に受け付ける）

交通費補助 1校あたり3万円（上限）又は実費相当分（消費税込）のいずれか低い金額を補助します。

申し込みについて

引率教師と生徒2～10名でチームを編成し、参加申込書（※）に必要事項を記入の上、下記申込先にEメール又はFAXで10月31日（木）までにお申し込み下さい。なお、メールでお申し込みの場合には、件名を「省エネディベート参加申し込み」と必ず記して下さい。

【申込先】

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）事務局 担当：守

E-mail：mori@sun-graphics.co.jp 電話：022-748-5791 FAX：022-748-5792

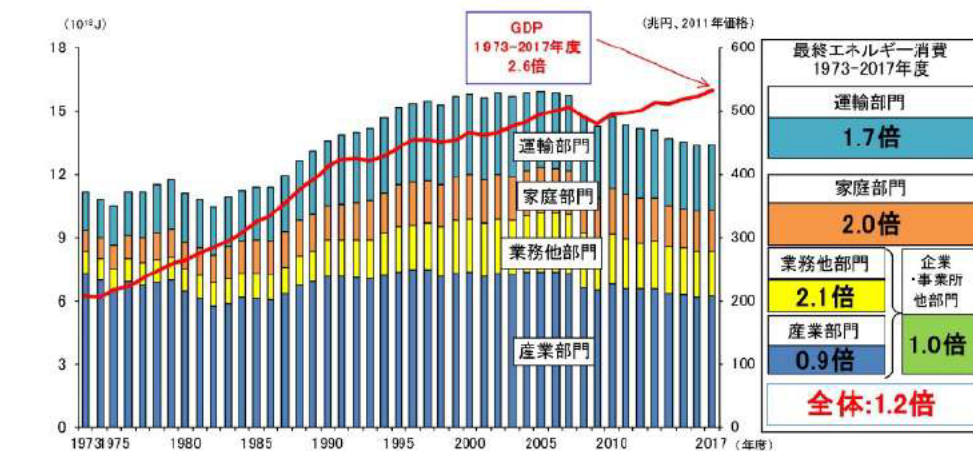
※参加申込書や資料など、コンテスト関係の情報は、東北経済産業局のHPで、お知らせしていきます。 https://www.tohoku.meti.go.jp/s_shigen_ene/public_debate.html

大会趣意

未来への省エネルギー提案

～省エネルギーと豊かな生活を両立するライフスタイルの普及を実現する政策～

2011年に東日本大震災が発生し、電気やガス、ガソリンや灯油といったエネルギーが、私たちの生活や産業・社会を支えている事実と重要性をあらためて認識させられました。



図：日本の最終エネルギー消費と国内総生産（実質GDP）の推移

日本は、1970年代の石油危機以降省エネルギーを推進し、1973年から2017年までにGDPは2.6倍に伸ばしましたが、エネルギー消費は1.2倍の増加に留めています。また、2011年度以降は節電意識の高まりなどで全体のエネルギー消費の減少が進みました。

一方、家庭部門においては、快適・利便性を求めるライフスタイルの変化等により、1973年から2017年までにエネルギー消費は2.0倍に増加しており、省エネルギーの推進が喫緊の課題となっています。

2030年度のエネルギー需給構造の見通しを示した「長期エネルギー需給見通し（エネルギーミックス）」では、省エネルギーについて、2013年度実績から2030年度までに徹底した省エネルギー対策により、エネルギー消費を原油換算5,030万kl程度（13%程度）削減することとしています。目標どおりに進んでいません。

さて、2030年、皆さんは24～29歳になり、着々と実社会で活躍し、社会を支える一員として責任の一端を担うこととなります。

政策を求める問い

そこで、今回は、省エネルギーと豊かな生活を両立するライフスタイルの普及を実現する政策はどうあるべきか、と問います。個人や家庭レベルでの自分自身の生活のあり方や地域のあり方などを振り返りつつ、第一に、2030年代における省エネルギーと豊かな生活が両立する「ありたいライフスタイル」を自由に想像・提案し、第二に、その「ライフスタイル」を実現するために、政府が採用すべき「ユニークな政策」を提案してください。

みなさん、生活の質の維持、向上を図りつつ省エネルギーを一層促進するために、私たちが省エネルギーをライフスタイルの一つとして自発的に取り組むことを促す効果的な政策について、ディベートで検討しましょう。

今回の政策提案の例をHPに掲載しています↓ユニークな提案をお待ちしています！！

URL：https://www.tohoku.meti.go.jp/s_shigen_ene/public_debate/pdf/proposal_ex.pdf

参加申込書 ①

第1回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）参加申込書

_____年 ____月 ____日

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）事務局 宛て

以下の通り、省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト （中学の部・高校の部） に参加を申し込みます。

1. 学校情報

名称（正式なもの）		中学校 高等学校
所在地（〒 _____ 立 _____ ）		
電話番号 _____ - _____	Fax _____ - _____	
過去の参加 ☐ あり ☐ なし		

2. 選手 ※裏面（参加選手名簿）に記載すること

3. 引率者

氏名（フリガナ）		担当教科
緊急連絡先電話番号 _____ - _____	電子メール _____ @ _____	
引率者が教員ではない ☐ →	チームとの関係 保護者 ・ OB/OG ・ その他（ _____ ）	

↓ 引率者が教員でない場合のみ記入・押印

上記の引率者を承認し、学校代表であることを証明します。

学校名
代表者氏名

印

参加申込書 ②

参加選手名簿

1	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
2	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
3	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
4	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
5	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
6	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
7	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
8	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
9	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女
10	氏名（フリガナ）	学年	性別 男・女

4. 個人情報と肖像権の取り扱いについて

本大会の申込書を通じて取得した選手名は大会会場で読み上げられるほか、本大会の実施報告書に掲載される可能性があります。また、主催者や、主催者が認めた報道機関などの団体により、大会会場内の動画または写真が中継、録画、インターネットによる動画配信、新聞記事、そのほかの媒体で紹介されることがあります。詳細については、別添資料「省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）における個人情報及び肖像権に関わる取り扱いについて」をご参照ください。

※同意いただける場合は、以下チェックボックスにチェックの上お申し込みください。同意いただけない場合は、別途ご相談ください。

☐ 別添資料「省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）における個人情報及び肖像権に関わる取り扱いについて」に同意します。

省エネ政策提案の例
～ユニークな政策提案をお待ちしています！～

中学校名	政策提案の概要
弘学館中学校(佐賀)	家電のIOT化 補助金による導入促進
東明館中学校(佐賀)【準優勝】	化学反応によるCO2のエタノール化
精道三川台中学校(長崎)	振動発電の普及 廃棄物発電の導入
熊本マリスト学園中学校(熊本)	スマートハウスの普及 省電力量に応じグリーンポイントを付与
大分大学教育学部附属中学校(大分)【優勝】	自動運転EVの配車サービス
宮崎西高等学校附属中学校(宮崎)	歩数カウントアプリ(靴) 歩数をポイントと交換

高校名	政策提案の概要
福岡工業大学附属城東高校(福岡)	発電床や万歩計による発電
東明館高校(佐賀)	プラスチックを竹で代替
精道三川台高校(長崎)	セルフレッシュネットによるエアコン消費電力の削減
熊本信愛女学院高校(熊本)	「食のコンパクトシティ化」地域毎の工場農園に農家を誘致 消費者の「かかりつけ農家」を作り、地産地消を促進
熊本マリスト学園高校(熊本)【準優勝】	スマートメーターの普及による消費電力の可視化 省電力量に応じたポイント付与
文徳高校(熊本)	蓄電所を増設し、火力・原子力を自然エネルギーで代替する。
慶進高校A(山口)	「エコポイント」の導入 省エネ行動にポイント付与 アプリの提示する省エネミッションの達成でポイントが貯まる
慶進高校B(山口)【優勝】	衣料の受注生産化

出典：平成30年度省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテストin九州の同テーマにおける実際の政策提案の概要

個人情報及び肖像権に関わる取り扱いについて

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）に参加される
先生、生徒および保護者の皆様へ

令和元年 7 月 5 日
東北経済産業局
東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会

第 1 回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）に おける個人情報及び肖像権に関わる取り扱いについて

この度は、本大会にご参加をいただきまして、まことにありがとうございます。

第 1 回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）への参加、ならびに
参加申込書等を通じて取得する個人情報（氏名、学校名、学年、性別、担当教科、引率者の
連絡先）および肖像権に関し、以下の通り対処させていただきます。ご理解とご協力のほど、
お願い申し上げます。

1. 参加申込書に記載された個人情報の取り扱い

- (1) 大会運営のために必要な連絡先管理、表彰状作成のデータ処理に利用します
- (2) 大会プログラム冊子に掲載されます
- (3) 会場内でのアナウンス等により紹介されることがあります
- (4) 表彰対象者は競技会場内でのプロジェクター告知、掲示板・印刷物等に掲載されます
- (5) 大会関連の Web サイト（ホームページ、Instagram 等）に掲載されることがあります

2. 競技結果（記録）等の取り扱い

- (1) 主催者が設置する大会本部を通じて公開されます
- (2) 主催者に認められた報道機関等により、新聞・雑誌および関連 Web サイトなどで公開
されることがあります

3. 競技風景の撮影・録画等の取り扱い

- (1) 主催者に認められた報道機関などの各団体により、競技風景の映像や写真が、中継・
録画放映・インターネット配信、その他の媒体などで紹介されることがあります
- (2) 主催者によって大会終了後に映像資料として編集し、DVD などに関係者に配布され
ることがあります
- (3) 主催者に認められた大会参加選手の関係者や一般来場者が、競技の模様を撮影するこ
とがあります

4. 大会本部としての対応

- (1) 取得した個人情報は、本人の承諾なく上記利用目的以外に使用することはありません
- (2) 参加申込書の提出により、上記取扱いに関するご承諾をいただいたものとして対応さ
せていただきます
もし、個人の映像および画像の利用をご承諾いただけない場合は、下記連絡先まで
ご連絡ください
- (3) 会場に来られた保護者を含む一般来場の皆様につきましては、上記取扱いに関するご
承諾をいただいたものとして対応させていただきますので、あらかじめご理解いた
だけますよう、ご連絡をお願いします
- (4) 個人情報、肖像の掲載または公開に関するご質問は、下記の事務局までご連絡下さい

5. 連絡先・問い合わせ先

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北） 事務局（担当：守）
E-mail : mori@sun-graphics.co.jp 電話：022-748-5791 F A X：022-748-5792

以上

令和元年7月21日

第1回省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト(東北) 事前学習資料について

皆様のより良い政策立案のために、下記の資料をお届けします。
皆様の御健闘をお祈りいたします。最善を尽くして、準備して下さい。

主催者一同

記

I パブリック・ディベート実践資料

1. 政策提案型パブリック・ディベート・ルール
2. 政策提案型パブリック・ディベート・ガイドライン
3. 政策提案型パブリック・ディベート・ワークシート
4. 省エネ政策提案型パブリック・ディベートを始めるための参考資料

II 事前学習資料

1. エネルギー関連サイト一覧（裏面に掲載）
2. 日本のエネルギー2018（資源エネルギー庁）
3. スマートライフおすすめBOOK（一般財団法人家電製品協会）

III 省エネ説明会(無料講座)

省エネ説明会の講師を学校に無料で派遣します。省エネルギーに関する事前学習の一環として、御活用をお薦めします。御活用を希望の場合は、別添の「無料講師派遣申込書」に必要事項を記入の上、事務局までメール又はFAXで御連絡願います。

○講演時間:1時間程度

○講演内容:家庭での省エネ実践のための基本講座

【申込先】

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト（東北）事務局 担当：守

E-mail: mori@sun-graphics.co.jp 電話：022-748-5791 F A X：022-748-5792

IV パブリック・ディベートの内容やルールに関する問い合わせ先

【パブリック・ディベートコンテスト実行委員会】

実行委員長 江間 史明（山形大学大学院教育実践研究科教授）

E-mail: ema@e.yamagata-u.ac.jp 電話・F A X：023-628-4390

※省エネって何？(間違えないように、注意しましょう！)

省エネとは、『省エネルギー』の略です。『石油や石炭、天然ガスなど、限りあるエネルギー資源がなくなってしまうことを防ぐため、エネルギーを効率よく使うこと』をいいます。

省エネルギー活動によって、経済活動や生活の「質」が下がることはありません。

単なる「少エネ」「小エネ」ではありませんので、誤解無く議論を進めましょう。

【日本のエネルギー事情について学ぶ】

- 平成 30 年度エネルギーに関する年次報告(エネルギー白書 2019)

<https://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/#main>

- エネルギー基本計画

https://www.enecho.meti.go.jp/category/others/basic_plan/

- エネルギーに関する統計・各種データ

<https://www.enecho.meti.go.jp/statistics/>

【省エネルギーについて学ぶ】

- 省エネポータルサイト(家庭向け、事業者向け)

https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/index.html

- 資源エネルギー庁スペシャルコンテンツ「地球温暖化・省エネルギー」

<https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/johoteikyo/ondankashoene/>

【その他】

- エネルギー広報パンフレット(日本のエネルギー、家庭の省エネ徹底ガイド 他)

<https://www.enecho.meti.go.jp/about/pamphlet/>

- 省エネ法(エネルギーの使用の合理化等に関する法律)

https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/enterprise/overview/

- 総合資源エネルギー調査会 省エネルギー小委員会(経済産業省の審議会)

https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/shoene_shinene/sho_energy/index.html

- エネルギー情勢懇談会(経済産業省の研究会)

https://www.enecho.meti.go.jp/committee/studygroup/#ene_situation

- 低炭素社会に向けた住まいと住まい方推進会議(国土交通省の審議会)

http://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/jutakukentiku_house_tk4_000060.html

- 省エネルギー技術戦略2016

https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/tech_str/2016/

- 地球温暖化対策(環境省)

<http://www.env.go.jp/seisaku/list/ondanka.html>

- 一般財団法人省エネルギーセンター

<https://www.eccj.or.jp/>

■A4判、4c/4c(オモテ面)

中学生・高校生による

第1回

観戦自由
入場無料



省エネ政策提案型

パブリック ディベート コンテスト

PUBLIC DEBATE
CONTEST



テーマ

未来への省エネルギー提案

～省エネルギーと豊かな生活を両立するライフスタイルの普及を実現する政策～

開催
日時

2020年1月12日(日) 10:00-16:30

開場・参加者受付開始/10:00～
開会/10:30～

会場

東北大学川内北キャンパス マルチメディアホールほか

《仙台市宮地下鉄・東西線「川内駅」直結》 仙台市青葉区川内41 (マルチメディア研究棟2F)

出場校

中学生の部

青森 八戸工業大学第二高等学校附属中学校
福島 福島大学附属中学校 1年生チーム
福島 福島県いわき市立中央台北中学校

岩手 学校法人能澤学園 盛岡中央高等学校附属中学校
福島 福島大学附属中学校 2年生チーム
福島 福島県立ふたば未来学園中学校

高校生の部

青森 学校法人青森山田学園 青森山田中学高等学校
岩手 岩手県立盛岡第三高等学校 Bチーム
宮城 宮城県宮城野高等学校
山形 山形県立山形東高等学校

岩手 岩手県立盛岡第三高等学校 Aチーム
宮城 宮城県仙台第一高等学校
宮城 学校法人古川学園 古川学園高等学校
山形 東海大学山形高等学校

試合組合せと試合会場については、大会当日10:30以降に、マルチメディアホール前と講義C棟1Fの受付に掲示します。

主催：東北経済産業局、東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会
協力：非営利活動法人全国教室ディベート連盟東北支部、一般財団法人省エネルギーセンター東北支部
後援：青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県・仙台市 各教育委員会、
河北新報社、朝日新聞仙台総局、毎日新聞仙台支局、読売新聞東北総局、
日本経済新聞社仙台支局、産経新聞社東北総局、東奥日報社、デーリー東北新聞社、
岩手日報社、秋田魁新報社、山形新聞社、福島民報社、福島民友新聞社、
日刊工業新聞社東北・北海道総局、
NHK仙台放送局、TBC東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、KHB東日本放送

お問い合わせ

省エネ政策提案型
パブリック・ディベートコンテスト東北事務局
株式会社サングラフィックス内(担当:モリ)
9:30～18:30・月～金 ※祝祭日を除く

TEL.022-748-5791

mail:mori@sun-graphics.co.jp

報道関係の皆様へ

本大会を取材頂く際は、事前の登録をお願いいたします。「取材申込書」をご用意しておりますので、
ご面倒をお掛けしますが、事務局まで「メール」か「お電話」でご連絡下さい。

令和元年度 省エネルギー促進に向けた広報事業

■A4判、4c/4c（ウラ面）

中学生・高校生による

第1回

省エネ政策提案型 パブリック・ディベートコンテスト

PUBLIC DEBATE CONTEST

観戦自由
入場無料

東北経済産業局では、エネルギー問題への理解促進や省エネルギーの更なる普及啓発のため、次世代を担う中学生・高校生を対象に、エネルギーをテーマにした「省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト」を東北で初開催します。

このコンテストは、2チームのディベーターが、互いの政策提案を磨き合うことを通して、省エネを促進させたこれからの社会の在り方を審判や聴衆とともに考えるものです。

今回のテーマは、「省エネルギーと豊かな生活を両立するライフスタイルの普及を実現する政策はどうあるべきか」です。個人や家庭レベルでの自分自身の生活のあり方や地域のあり方などを振り返りつつ、第一に、2030年代における省エネルギーと豊かな生活が両立する「ありたいライフスタイル」を自由に想像・提案し、第二に、その「ライフスタイル」の普及を応援できるように政府が採用すべき「ユニークな政策」を出し合って、討論を行います。

中学生や高校生の柔軟な頭で考えたユニークな政策を是非聴きにいらして下さい。

詳細はこちらから（東北経済産業局HP） https://www.tohoku.meti.go.jp/s_shigen_ene/public_debate.html

f facebookページでも情報発信中です！ <https://www.facebook.com/public.debate.tohoku/>

東北経済産業局
ホームページ



大会スケジュール（予定）

時間	開催内容	会場
10:30	開会 （試合組み合わせ発表）	① マルチメディア研究棟 （2Fマルチメディアホール）
11:00	第1試合	② 講義C棟（各教室）
12:05	休憩 ③ 川内厚生会館の学生食堂をご利用下さい。（持込可）	
12:45	第2試合	② 講義C棟（各教室）
14:10	決勝戦（高校生の部のみ）	
15:15	エネルギーの専門家との 省エネワークショップ	① マルチメディア研究棟 （2Fマルチメディアホール）
16:00	決勝戦解説・結果発表 表彰式・講評	
16:30	閉会	



会場案内図 川内北キャンパス



会場までの交通アクセス

〔地下鉄（仙台市営地下鉄東西線）〕
◎川内駅（キャンパス直結）◎国際センター駅（西1口より徒歩約5分）
〔マイカー〕※キャンパス内の駐車場は利用できません。
地下鉄「国際センター駅」北側にある「青葉山交流広場駐車場（有料）」をご利用下さい。



エネルギーの専門家との省エネワークショップ

参加した中学生・高校生が一堂に集まり、コンテスト当日のディベートについて、専門家と一緒に振り返りを行います。

司会進行



本大会実行委員長
山形大学大学院
教育実践研究科
教授
江間 史明氏

大学院で教育実践研究科を担当。
NPO法人全国教室ディベート連盟東北
支部長として中学生・高校生のディベ
ート教育に関わる。

講師



（一財）省エネルギーセンター東北支部 事務局次長
尾崎 洋輔氏
産業・業務・運輸・家庭の幅広い分野で企業・自
治体等の省エネルギー対策をサポート。東北支
部省エネ事務局として支援活動中。



家庭の省エネ、消費生活コンサルタント
千葉 智恵氏
地球環境問題から家庭でスグできる省エネ
まで、幅広いテーマにわたる解りやすい解説
が定評。



（株）セーブエナジー 代表取締役
大石 忠弘氏
第2種電気主任技術者。エネルギー使用合理化
専門員として山形県を中心に東北各地で企業の
省エネ診断等を実施中。
平成23年度省エネルギー功績者表彰受賞（東北
経済産業局長賞受賞）

東北経済産業局 資源エネルギー環境部長
奥村 浩信氏

ご来場の皆様へ
のご案内とお願い

- 会場となるホールや教室は、普段は講義などで使用されている施設をお借りしております。
- ◎建物内では、指定された場所以外への立ち入りはご遠慮下さい。また、指定された場所以外での飲食はご遠慮ください。
- ◎空き缶やペットボトルなどのゴミ類については、お持ち帰り頂くようお願い下さい。

■ トップページ



■ 2019/12/11



■ 2019/12/25



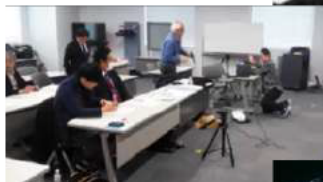
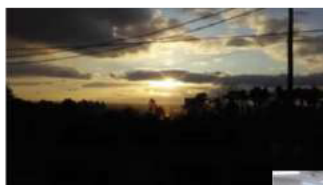
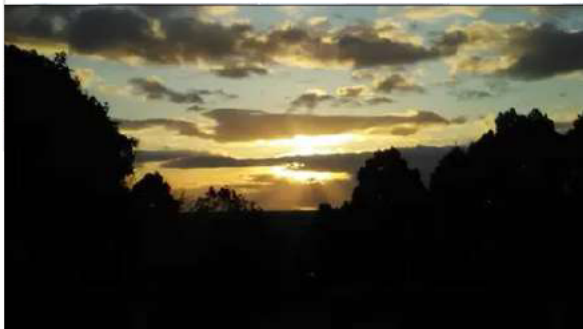
■2020/1/2

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト東北事務局 ***
作成者 [?]・1月2日・🌐

皆様、あけましておめでとうございます。
新年のごあいさつを、元旦に...と予定していましたが
諸事情により(PCトラブルでした。)
本日が新年の第一声です。
そこで、こちらに初日の出の画像をアップいたしました。
伊達家の霊所がある大年寺山からの眺めです。
(ちょっとしたスピリチュアルスポット)
天気の関係で雲の隙間からの陽の光ですが、
皆様の一年が、穏やかでありますように!!

12月22日「モデル試合」を実施しました。
今回初のリハーサルのための「モデル試合」を、
「宮城野高校」と「古川学園高校」の皆様にご協力いただき開催しました。
※生徒さんのお顔部分は、補正させていただきました。
この様子を伝える音声は、
既に関係者様にはご案内済みの方で聴取可能ですが、
映像は、DVDにまとめて年内に各校様へ送付いたしました。
本番前の雰囲気の確認にご活用ください。
本番まで、あと10日です。
参加チームの皆さんは、体調管理に気を付けてください。
元気な姿を会場でお待ちしています!!!

【次回予告】
当日の雰囲気や呑み込まれないように、
試合会場の様子などもお伝えします。



■2020/1/3

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト東北事務局 ***
作成者 [?]・1月3日・🌐

今回は「パブリック・ディベートコンテスト」の会場
東北大学・川内北キャンパスをご案内します。
まずは、アクセスですが、
最寄駅は仙台市営地下鉄・東西線「川内駅」。
仙台駅から4駅目・約7分です。
駅駅名が「東北大学川内キャンパス前」と付いているくらいなので、
「駅チカ」というよりも「駅直結」です。
※画像出典Google Earth
駅を出てほぼ目の前の建物が「マルチメディア研究棟」。
ここの2階「マルチメディアホール」が、
開会式や閉会式、そして高校生の部の決勝と
省エネワークショップが開かれる会場です。
続いては「講義C棟」各教室。中学生の部の試合と、
高校生の部の予選が開かれる会場です。
この建物の位置は、マルチメディア研究棟のすぐ向かいです。
そして、お昼休みは
キャンパス内の個性的なアプローチが目の前
「厚生会館内の学生食堂」をご利用ください。
当日は11:00～14:30営業予定です。
※特に、お持込み弁当の空き容器などのお持ち帰りに
ご協力をお願いします。
ほんの少しですが、いかがですか?
参加チームの皆さんが、当日会場の空気にのめられないように
会場の様子をご案内させていただきます。
【次回予告】
会場周辺・青葉山界隈の
チェックポイントをご紹介します。



■2020/1/12

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト東北事
務局
作成者: 小・1月12日・🌐

皆様の来場とご参加に御礼申し上げます！
本日、本大会もが無事終了を迎える事が出来ましたのも、皆様のご参加と関係された皆様のおかげです。
厚く御礼申し上げます！
そして、第1回大会の栄冠は、
高校生の部 《優 勝》宮城県宮城野高等学校
《準優勝》宮城県仙台第一高等学校
中学生の部 《優 勝》福島県いわき市立中央台北中学校
《準優勝》福島県立ふたば未来学園中学校

以上の4校の皆様が手にされました。
おめでとうございます！
お正月を挟んで間もない本日まで、多くの時間を練習に充てて、いろいろと政策提案を練られてきたことと思います。
本当にありがとうございました。

私ども事務局も、本日の開催で沢山の良いところや、これからの工夫が必要な事など、多くの課題を頂きました。
重ねて御礼申し上げます。
今回ご参加が叶わなかった学校の皆様も、ぜひまたの機会にお会いできますようお願いしております。

あらためまして、本日はありがとうございました。

【お詫び】
前回の投稿で「会場周辺のスポットご紹介をします」とお伝えしましたが、準備の都合でお杖が出来ませんでした。
大変失礼いたしました。

35 リーチした人数 17 エンゲージメント数 [投稿を宣伝](#)

■2020/2/29

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト東北事
務局
作成者: 小・昨日 1:18・🌐

《政策提案型パブリック・ディベートコンテスト》
次回の開催日程が決定しました！
第1回のコンテストから間もなくで2か月、
早いものですね...
なんていっているうちに、次回のスタートですよ
開催日程が決まりました。

第2回大会は2021年1月10日(日)、
会場は、第1回大会と同じく東北大学川内北キャンパスです！
これからの詳しい情報は、まずは東北経済産業局のホームページで発表
していきます！
ぜひ、Webサイトにアクセスしてブックマークしてください。
皆さんに会えるまであと10か月とちょっとですね
待ち遠しいです。

===== 第2回 =====
省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト
=====

日 時 2021年1月10日(日曜日)
会 場 東北大学川内北キャンパス
マルチメディア教育研究棟 2階
マルチメディアホール 及び 講義棟 C棟
テーマ 省エネルギーに関するテーマを検討中
※ 今後、内容等については変更なども生じる可能性も
ございますので、予めご了承ください。

★☆☆ホームページはこちらです！☆☆
https://www.tohoku.meti.go.jp/s_shigen_e.../public_debate.html

TOHOKU.METI.GO.JP

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト開催！ |
エネルギー政策・電源地域振興 | 東北経済産業局

経済産業省では、企業、地域、個人、NPOなどの多様な主体が能力を
最大限発揮できる経済社会システムの...

大会プログラム ①

大会プログラム

中学生・高校生
による

第1回

**省エネ政策提案型
パブリック
ディベート
コンテスト**

PUBLIC DEBATE CONTEST

テーマ 未来への省エネルギー提案
～省エネルギーと豊かな生活を両立するライフスタイルの普及を実現する政策～

会場 東北大学川内北キャンパス マルチメディアホールほか
(仙台市青田下町・東西線「川内駅」徒歩5分 仙台市青田区川内41 (マルチメディア研究棟2F))

出場校

中学生の部

青森 八戸工業大学第二高等学校附属中学校
福島 福島大学附属中学校 1年生チーム
福島 福島県いわき市立中央台北中学校

高校生の部

青森 学校法人青森山田学園 青森山田中学高等学校
岩手 岩手県立盛岡第三高等学校 Bチーム
宮城 宮城県仙台第一高等学校
山形 山形県立山形東高等学校

岩手 学校法人龍澤学園 盛岡中央高等学校附属中学校
福島 福島大学附属中学校 2年生チーム
福島 福島県立ふたば未来学園中学校

岩手 岩手県立盛岡第三高等学校 Aチーム
宮城 宮城県仙台第一高等学校
宮城 学校法人古川学園 古川学園高等学校
山形 東海大学山形高等学校

開催日時 2020年1月12日(日)
10:00-16:30 開場・参加者受付開始/10:00～
開会/10:30～



大会スケジュール (予定)

時 間	開 催 内 容	会 場
10:00	開 場・受 付 ご観戦の皆様は、一般観覧席をご利用下さい。	① マルチメディア研究棟 (2Fマルチメディアホール)
10:30	開 会 式 ◎主催者挨拶 ◎試合組合せの発表・大会ルール説明	
11:00	第1試合 ◎中学生の部 ◎高校生の部	② 講義C棟(各教室) ※中学生-1F、高校生-2F
12:05	休 憩 水分補給を除き、講義棟内での飲食は禁止です。	③ 川内厚生会館内・学生食堂 ※持込可
12:45	第2試合 ◎中学生の部 ◎高校生の部	② 講義C棟(各教室) ※中学生-1F、高校生-2F
14:10	決 勝 戦 (高校の部のみ) ◎高校生の部(決勝) ◎決勝戦投票 (試合終了後、皆様より投票をいただきます。)	① マルチメディア研究棟 (2Fマルチメディアホール)
15:15	エネルギーの専門家との 省エネワークショップ 参加した中学生・高校生が一堂に集まり、 本日のディベートについて、省エネルギーの 専門家と一緒に振り返りをを行います。	
16:00	閉 会 式 ◎決勝戦解説・結果発表 ◎表彰式 ◎大会講評	
16:25	閉 会 ◎閉会後受賞者記念撮影	

※キャンパス内の案内図は、4ページにございます。会場名に付された①～③の番号と照らし合わせてご覧ください。

主 催：東北経済産業局、東北パブリック・ディベートコンテスト実行委員会
協 力：非営利活動法人全国教室ディベート連盟東北支部、一般財団法人省エネルギーセンター東北支部
後 援：青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県・仙台市 各教育委員会、河北新報社、朝日新聞仙台総局、毎日新聞仙台支局、読売新聞東北総局、
日本経済新聞社仙台支局、産経新聞社東北総局、東奥日報社、デーリー東北新聞社、岩手日報社、秋田魁新報社、山形新聞社、福島民報社、
福島民友新聞社、日刊工業新聞社東北・北海道総局、NHK仙台放送局、TBC東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、KHB東日本放送

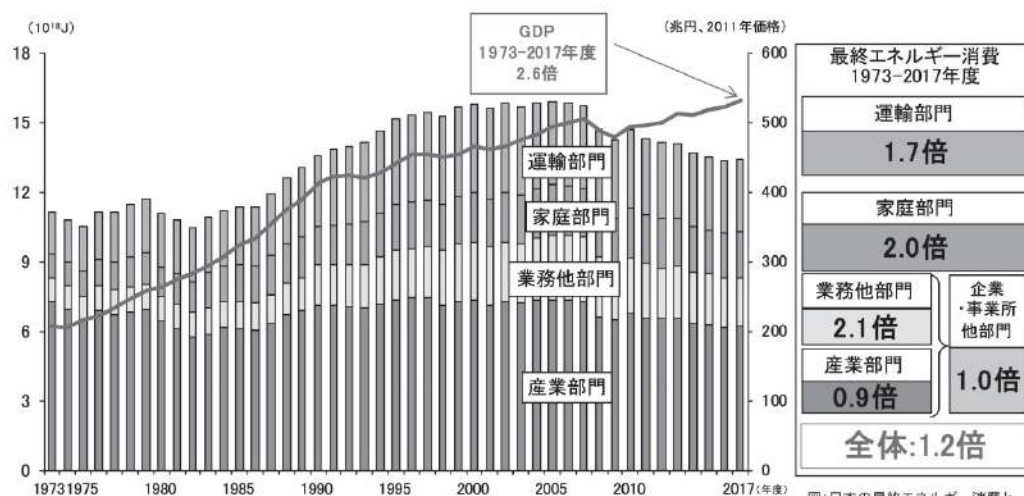
令和元年度 省エネルギー促進に向けた広報事業

大会趣意

未来への省エネルギー提案

～省エネルギーと豊かな生活を両立するライフスタイルの普及を実現する政策～

2011年に東日本大震災が発生し、電気やガス、ガソリンや灯油といったエネルギーが、私たちの生活や産業・社会を支えている事実と重要性をあらためて認識させられました。



(注1) J(ジュール)=エネルギーの大きさを示す指標の一つで、1MJ=0.0258×10⁻³原油換算kl。

(注2) 「総合エネルギー統計」は、1990年度以降の数値について算出方法が変更されている。

(注3) 産業部門は農林水産畜産建設業と製造業の合計。

(注4) 1993年度以前のGDPは日本エネルギー経済研究所推計。

出典：資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」、内閣府「国民経済計算」、日本エネルギー経済研究所「エネルギー・経済統計要覧」を基に作成

日本は、1970年代の石油危機以降省エネルギーを推進し、1973年から2017年までにGDPは2.6倍に伸ばしましたが、エネルギー消費は1.2倍の増加に留めています。また、2011年度以降は節電意識の高まりなどで全体のエネルギー消費の減少が更に進みました。

一方、家庭部門においては、快適・利便性を求めるライフスタイルの変化等により、1973年から2017年までにエネルギー消費は2.0倍に増加しており、省エネルギーの推進が喫緊の課題となっています。

2030年度のエネルギー需給構造の見通しを示した「長期エネルギー需給見通し(エネルギーミックス)」では、省エネルギーについて、2013年度実績から2030年度までに徹底した省エネルギー対策により、エネルギー消費を原油換算5,030万kl程度(13%程度)削減することとしています。目標どおりに進んでいません。

さて、2030年、皆さんは24～29歳になり、着々と実社会で活躍し、社会を支える一員として責任の一端を担うこととなります。

政策を求める問い

そこで、今回は、**省エネルギーと豊かな生活を両立するライフスタイルの普及を実現する政策**はどうあるべきか、と問います。**個人や家庭レベルでの自分自身の生活のあり方や地域のあり方などを振り返りつつ、第一に、2030年代における省エネルギーと豊かな生活が両立する「ありたいライフスタイル」を自由に想像・提案し、第二に、その「ライフスタイル」の普及を応援できるように政府が採用すべき「ユニークな政策」を提案してください。**

みなさん、生活の質の維持、向上を図りつつ省エネルギーを一層促進するために、私たちが省エネルギーをライフスタイルの一つとして自発的に取り組むことを促す効果的な政策について、ディベートで検討しましょう。

試合の進行について

◎ 試合は、「中学生の部」と「高校生の部」に分かれて行われます

試合の組み合わせは、発表後に「マルチメディアホール」と「講義C棟」の受付前に掲示します。
また、こちらのプログラムの対戦表にチーム名を記入して観戦ください。

◎ 1試合は35分間。2つのチームが、「先攻」と「後攻」に分かれて行われます

試合の構成は「政策の提案」⇒「提案に対する質疑と意見交換」⇒「政策の再提案」という流れで進みます。

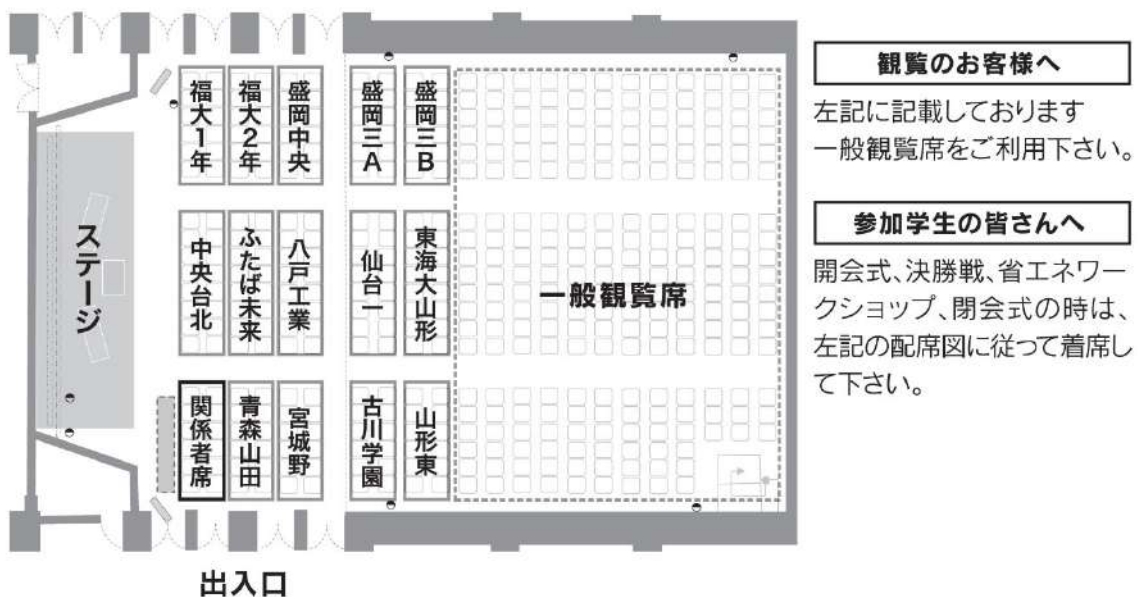
35 分 間	ステージ1	5分間	先攻チームによる政策提案
	ステージ2	5分間	先攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換
	ステージ3	5分間	後攻チームによる政策提案
	ステージ4	5分間	後攻チームの提案する政策についての質疑と意見交換
	準備時間	5分間	再提案へ向けたまとめの時間
	ステージ5	5分間	後攻チームによる論点明示と政策の再提案
	ステージ6	5分間	先攻チームによる論点明示と政策の再提案

試合終了後、判定協議(10分)、講評・判定(10分)を予定しています。

【試合中の禁止事項へのご協力をお願い】

- ◎事前に許可を受けた方以外は、試合の撮影及び録音は出来ません。
- ◎試合を妨げる行為、ディベーター(発表者)へのアドバイス、声援や拍手などはご遠慮下さい。
- ◎試合の妨けになりますので、試合開始前に必ず携帯電話の電源をお切りください。
※マナーモードのバイブレーターもご遠慮ください。

M206 マルチメディアホール配席図





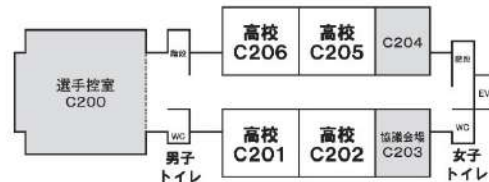
試合会場と対戦表

※  は立入禁止エリアです。

②講義C棟 / 1F

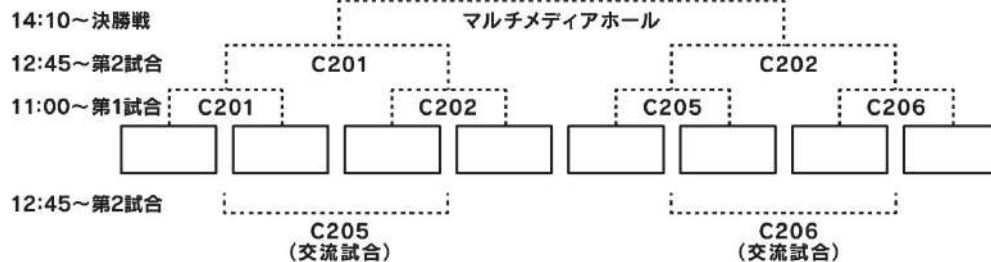


②講義C棟 / 2F

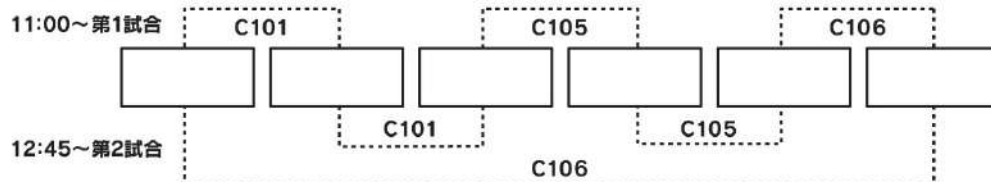
◆  の中にチーム名を記入してご観戦ください。

高校生の部

優勝



中学生の部



川内北キャンパス案内図



一般のご来場の皆様へのご案内とお願い

- ◎会場となっているホールや教室などは、普段の講義等で使用されている施設をお借りしています。設備類のいたずらや、指定された場所以外への立ち入りはご遠慮ください。また、清潔な施設の使用にご協力願います。
- ◎本日は、試験会場で使用されている建物もございますので、大声や迷惑となる行為は固くお断りいたします。
- ◎講義棟などに備え付けのゴミ箱は使用できませんので、空き缶やペットボトル、またお弁当の空き容器などのゴミ類はお持ち帰り下さいますよう、ご協力をお願いいたします。
- ◎講義棟内の教室では水分補給以外の飲食は出来ませんので、昼食時などは川内厚生会館の学生食堂をご利用下さい。

※食堂の営業時間／11:00～14:30(予定)

※試合中の禁止事項については、中面の記載事項をご確認下さい。

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト

決勝戦投票用紙

本大会のディベートは政策提案型パブリック・ディベートと呼びます。この投票用紙で、決勝戦のいずれの学校の議論が優位であったか、試合後に以下の1と2に丸をつけて投票してください。

目の前の試合で行われた2つのチームの議論を比較して優位な方に投票ください。自分の好みや意見に近い方に投票するということではありません。

1 勝利チーム(いずれか1つに丸をお付けください。)

先攻チームの勝利

後攻チームの勝利

審判は、議論の優位さを比較する時に、①政策提案の理念等やその効果の明確さ、②質疑や意見交換での重要な論点の指摘、③再提案された政策の改善の度合い、に注目しています。そうした点も、投票をする際の参考にしてください。

2 試合評価(いずれか1つに丸をお付けください。)

5 (非常に優秀)

4 (優秀)

3 (良好)

2 (やや劣る)

1 (劣る)

決勝戦の試合自体の評価をお願いします。ディベートは、相手がいなければ成立しません。試合は両チームの共同作品です。

①聞き取りやすくわかりやすかったか、②双方が論点をかみ合わせて内容に広がりや深まりがあったか、③結論が具体的な根拠(具体的な先行事例や体験事例など)に支えられていたか、に注目して、5段階で評価ください。

※このまま切らずにお出しください。投票へのご協力ありがとうございました。

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト アンケート調査

一般来場者様向け

☐にチェックを入れてください。また、ご意見があれば()内をお願いします。

1. パブリック・ディベートの試合はいかがでしたか。

☐満足 ☐やや満足 ☐どちらとも言えない ☐やや不満 ☐不満

()

2. 各チームのスピーチは、聞き手を意識したわかりやすいものでしたか。

☐わかりやすい ☐ややわかりやすい ☐どちらとも言えない

☐ややわかりにくい ☐わかりにくい

()

3. 「エネルギーの専門家との省エネワークショップ」はいかがでしたか。

☐満足 ☐やや満足 ☐どちらとも言えない ☐やや不満 ☐不満

()

4. 本大会を通してエネルギーや省エネへの関心は高まりましたか。

☐高まった ☐やや高まった ☐どちらとも言えない ☐高まらなかった

()

5. 次回も本大会を観戦したいですか。

☐はい ☐どちらとも言えない ☐いいえ

()

6. その他、全体を通して、お気づきの点やご意見等がございましたら、ご自由にお書きください。

以上、アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。

出場チーム生徒及び引率者様向け

省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテスト WEBアンケート



スマートフォンで QR コードを読み込んでいただき、

1月24日(金)までに、下記アンケートへのご協力をお願いします。

また、下記のURLからパソコンでの入力も可能です。

<https://forms.gle/j9LPZcmHUh172QYVA>

※こちらの用紙は回答用紙ではありません。

..... <アンケート内容>

☐にチェックを入れてください。また次回のより良い大会の実施に向け、お気づきの点や改善してほしい点等がございましたら、()内にご自由にお書きください。

1. あなたは、以下のどのチームに所属していますか。

- | | | |
|--|--|-------------------------------------|
| ☐ 八戸工業大学第二高等学校附属中学校 | ☐ 盛岡中央高等学校附属中学校 | ☐ 福島大学附属中学校 |
| ☐ いわき市立中央台北中学校 | ☐ ふたば未来学園中学校 | ☐ 青森山田中学高等学校 |
| ☐ 仙台第一高等学校 | ☐ 宮城野高等学校 | ☐ 古川学園高等学校 |
| ☐ 東海大学山形高等学校 | | ☐ 山形東高等学校 |

2. あなたは、以下のどれにあてはまりますか。

- ☐ 1年生 ☐ 2年生 ☐ 3年生 ☐ 引率者

【出場校募集～大会前日までに係る御質問】_____

3. 大会趣意(省エネルギーと豊かな生活を両立するライフスタイルの普及を実現する政策)は、ディベートのテーマとしていかがでしたか。

- ☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ どちらとも言えない ☐ やや不満 ☐ 不満

その理由をお聞かせください。()

4. 政策提案型パブリック・ディベートのルールの内容はいかがでしたか。

- ☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ どちらとも言えない ☐ やや不満 ☐ 不満

その理由をお聞かせください。()

5. 政策提案型パブリック・ディベートのガイドラインの内容はいかがでしたか。

- ☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ どちらとも言えない ☐ やや不満 ☐ 不満

その理由をお聞かせください。()

6. 政策提案型パブリック・ディベートのワークシートの内容はいかがでしたか。

- ☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ どちらとも言えない ☐ やや不満 ☐ 不満

その理由をお聞かせください。()

7. 事前の学習資料(ディベートを始めるための参考資料、エネルギー関連資料等)の内容はいかがでしたか。

- ☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ どちらとも言えない ☐ やや不満 ☐ 不満

その理由をお聞かせください。()

8. 省エネ無料講座の内容はいかがでしたか。

☐満足 ☐やや満足 ☐どちらとも言えない ☐やや不満 ☐不満 ☐利用していない

その理由をお聞かせください。(

)

9. モデル試合(12月22日開催)に参加又は視聴していかがでしたか。

☐満足 ☐やや満足 ☐どちらとも言えない ☐やや不満 ☐不満 ☐視聴していない

その理由をお聞かせください。(

)

【大会当日に係る御質問】_____

10. 大会のスケジュール(プログラム内容や時間配分等)はいかがでしたか。

☐満足 ☐やや満足 ☐どちらとも言えない ☐やや不満 ☐不満

その理由をお聞かせください。(

)

11. 審判(進行、講評、判定等)はいかがでしたか。

☐満足 ☐やや満足 ☐どちらとも言えない ☐やや不満 ☐不満

その理由をお聞かせください。(

)

12. 決勝戦はいかがでしたか。

☐満足 ☐やや満足 ☐どちらとも言えない ☐やや不満 ☐不満

その理由をお聞かせください。(

)

13. 省エネワークショップはいかがでしたか。

☐満足 ☐やや満足 ☐どちらとも言えない ☐やや不満 ☐不満

その理由をお聞かせください。(

)

14. 本大会を通してエネルギーや省エネへの関心は高まりましたか。

☐高まった ☐やや高まった ☐どちらとも言えない ☐高まらなかった

その理由をお聞かせください。(

)

【次回の大会に向けた御質問】_____

15. 次回大会にも参加したいと考えていますか。

☐はい ☐どちらとも言えない ☐いいえ

その理由をお聞かせください。(

)

16. 最後に大会に出場して感じたことや考えたことを、ご自由にお書きください。

以上、アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。

令和元年度省エネルギー促進に向けた広報事業

(次世代層向けの省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテストの実施)

第1回 省エネ政策提案型 パブリック・ディベートコンテスト

事業成果報告書